Sun Java System Communications Services 2005Q4 リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819–3489
2006 年 3 月

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、 Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。この製品は Carnegie Mellon University Computing Services (http://www.cmu.edu/computing/) により開発されたソフトウェアを含みます。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

060328@14558

目次

はじめに 11

1 **Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4** リリースノート 17
Calendar Server 6 2005Q4 について 17
リリースノートの改訂履歴 18
このリリースの新機能 18
要件 19
ハードウェア要件と推奨事項 19
ソフトウェア要件と推奨事項 19
重要なパッチ情報 20
▼ SunSolve でパッチを検索する方法 20
インストールに関する注意事項 20
フロントエンドとバックエンドマシンおよびオペレーティングシステム 21
Linux プラットフォームのサポート 21
OS パッチ 22
必要な権限 22
Linux パッケージ名 22
以前のバージョンの Calendar Server 6 からのアップグレード 22
カレンダデータベースのアップグレード 23
インストール後の設定 23
Calendar Server のデータとプログラムファイルの場所 24
Directory Server のパフォーマンス 25
スキーマ 1 を使用する Communications Express 27
プロビジョニングツール 27
マニュアルの更新 27
互換性に関する問題 28
このリリースで修正されたバグ 29
既知の問題と制限事項 33
制限事項 33

報告された問題 35
再配布可能なファイル 38
authsdk 39
bin 39
classes 39
include 40
plugins 40
samples 41

2 Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 リリースノート 43
リリースノートの改訂履歴 44
Messaging Server 6 2005Q4 について 44
このリリースの新機能 44
推奨されなくなった機能 46
要件 48
重要なパッチ情報 49
対応プラットフォーム 49
クライアントソフトウェアの要件 50
製品のバージョン間の互換性に関する要件 50
Messaging Server の Administration Server の使用 51
ソフトウェアの追加要件 51
ファイルシステム 52
インストールに関する注意事項 52
Messaging Server のインストールの概要 53
Messaging Server のアップグレード手順 53
互換性に関する問題 54
Messaging Server 6 2005Q4 のマニュアルの更新 56
Messaging Server のマニュアル 58
Communications Services のマニュアル 58
このリリースで修正されたバグ 58
既知の問題と制限事項 67
インストール、アップグレード、アンインストール 67
Messaging Server 68
ローカライズ 75
マニュアル 76
再配布可能なファイル 76

3 Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4 リリースノート 79
リリースノート 改訂履歴 80
Instant Messaging 7 2005Q4 について 80
このリリースの新機能 80
インストール 80
新機能 81
要件 81
サーバーのオペレーティングシステム要件 81
サーバーのソフトウェア要件 82
サーバーのハードウェア要件 82
クライアントのオペレーティングシステム要件 82
クライアントソフトウェアの要件 82
クライアントのハードウェア要件 83
インストールに関する注意事項 83
互換性に関する問題 84
マニュアルの更新 85
マニュアルセット 85
管理ガイド 85
▼ Java プラグイン用の Instant Messenger アーカイブコントロールを有効にするには 87
オンラインヘルプ 91
このリリースで修正されたバグ 92
既知の問題と制限事項 93
高可用性に対応した Instant Messaging の設定 (Solaris のみ) 98
Instant Messaging HA の概要 99
Instant Messaging 用 HA の設定 101
Instant Messaging HA サービスの停止、起動、および再起動 110
▼ Instant Messaging HA サービスを起動するには 110
▼ Instant Messaging HA サービスを停止するには 110
▼ Instant Messaging HA サービスを再起動するには 110
Instant Messaging 用 HA RTR ファイルの管理 110
Instant Messaging 用 HA の削除 112
▼ Instant Messaging 用 HA を削除するには 112
HA 関連のマニュアル 113
再配布可能なファイル 114

4 Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4 リリースノート 115
リリースノートの改訂履歴 115
Delegated Administrator について 116
このリリースの新機能 116
要件 117
パッチ情報 117
プラットフォーム 117
Java Enterprise System コンポーネント 118
ハードウェア要件 119
ブラウザ 119
インストールに関する注意事項 119
推奨パッチ 119
ACI の統合 120
互換性に関する問題 121
Delegated Administrator 6 2005Q4 のマニュアルの更新 121
このリリースで修正された既知の問題 121
既知の問題と制限事項 122
インストール、アップグレード、および設定 123
Delegated Administrator コンソールとコマンド行ユーティリティー 126
ローカライズとグローバル化 132
マニュアル 133

5 Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 リリースノート 135
リリースノートの改訂履歴 135
Communications Express について 135
このリリースの新機能 136
サポートされているブラウザ 136
このリリースで修正されたバグ 136
インストールに関する注意事項 137
▼ Communications Express 用としてインストールする必要のある製品 137
既知の問題と制限事項 138
一般的な問題 138
設定ツールの問題 139
カレンダの問題 142
メールの問題 142
アドレス帳の問題 143

オプションの問題 144
ローカライズに関する問題 144
SMIME 145
移行 145

6 Microsoft Outlook 版 Sun Java System Connector 7 2005Q4 リリースノート 147
リリースノートの改訂履歴 148
Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector Version 7 2005Q4 について 148
Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector の主な機能 149
このリリースの新機能 150
要件 150
インストールに関する注意事項 151
▼ Microsoft Outlook 版 Connector のインストール 152
データの変換 152
LDAP 属性 152
互換性に関する問題 153
Sun Java System Calendar Server の検討事項 153
Communications Express とのシステムフォルダマッピングの相互運用性 157
クライアントの LDAP 設定 159
マニュアルの更新 164
このリリースで修正されたバグ 164
制限事項と既知の問題 173
制限事項 173
既知の問題 174
再配布可能なファイル 183

索引 185

表目次

表 1–1 Sun Java System Calendar Server 改訂履歴 18
表 2–1 Sun Java System Messaging Server の改訂履歴 44
表 2–2 Messaging Server 6 2005Q4 の推奨クライアントソフトウェア 50
表 2–3 製品のバージョン間の互換性に関する要件 50
表 3–1 Sun Java System Instant Messaging 改訂履歴 80
表 3–2 Instant Messaging でサポートされるクライアント OS とブラウザの組み合わせ 83
表 3–3 Instant Messaging 7 2005Q4 の互換性に関する問題 84
表 3–4 新規ユーザー登録を可能にするサーバー設定パラメータ 88
表 3–5 Instant Messaging 7 2005Q4 で修正された問題 92
表 3–6 既知の問題と制限事項 93
表 3–7 Instant Messaging HA 設定のソフトウェア要件 99
表 3–8 HA 設定のチェックリスト 100
表 3–9 複数ノードの Instant Messaging HA 設定に必須の製品およびパッケージ 103
表 3–10 `SUNW.iim` の拡張プロパティー 111
表 4–1 Delegated Administrator リリースノートの改訂履歴 115
表 4–2 Delegated Administrator コンソール用の推奨ブラウザ 119
表 4–3 修正された Delegated Administrator の既知の問題 121
表 5–1 Communications Express リリースノートの改訂履歴 135
表 5–2 Communications Express 6 の推奨ブラウザのバージョン 136
表 5–3 Communications Express で修正されたバグ 136
表 6–1 Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 改訂履歴 148

はじめに

この『Sun Java System Communications Services リリースノート』には、次の各製品のリリース時点での重要な情報が含まれています。

- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4
- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4
- Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4
- Sun Java System Communications Services 62005Q4 Delegated Administrator
- Sun Java System Communications Express 6 2005Q4
- Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4

本書では、新機能や拡張機能、既知の問題や制限事項、その他上記の各製品に関する情報を説明します。各製品を使用する前にお読みください。

最新版のリリースノートは、Sun Java System 文書 Web サイトから入手できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前、およびそれ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートと製品マニュアルを確認してください。

本書の構成

このリリースノートの各章には、各 Sun Java System Communications Services 製品のリリース情報が掲載されています。

第 1 章には、Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 のリリース情報が掲載されています。

第 2 章には、Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 のリリース情報が掲載れています。

第 3 章には、Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4 のリリース情報が掲載されています。

第 4 章には、Sun Java System Delegated Administrator 6 2005Q4 のリリース情報が掲載されています。

第 5 章には、Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 のリリース情報が掲載されています。

第 6 章には、Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4 のリリース情報が掲載されています。

関連文書

http://docs.sun.com Web サイトでは、Sun の技術マニュアルにオンラインでアクセスできます。アーカイブをブラウズすることも、特定のマニュアルのタイトルまたは主題を検索することもできます。

この文書セットに含まれるマニュアル

Sun Java System Communications Services の文書セットに含まれるマニュアルについては、次のサイトを参照してください。

- Sun Java System Messaging Server マニュアル (Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のマニュアルを含む)
- Sun Java System Calendar Server マニュアル
- Sun Java System Instant Messaging マニュアル

障害を持つユーザーのためのアクセシビリティー機能

このメディアの公開以降にリリースされたアクセシビリティー機能を取得するには、Section 508 製品アセスメントを参照してください。これは、アクセス可能なソリューションの配備に最適なバージョンを判別するためのもので、Sun に請求することで入手できます。アプリケーションの更新バージョンは、http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html (http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html) から入手できます。

アクセシビリティーに関する Sun の方針については、http://sun.com/access (http://sun.com/access) を参照してください。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P–1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% **su** Password:

表 P–1 表記上の規則　(続き)

字体または記号	意味	例
aabbcc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、`rm` *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	`sun%` **`grep '^#define \`** **`XV_VERSION_STRING'`**

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

  `machine_name%` **`command y|n`** [*filename*]

- C シェルのスーパーユーザー

  `machine_name#` **`command y|n`** [*filename*]

- Bourne シェルおよび Korn シェル

  `$` **`command y|n`** [*filename*]

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

  `# command y|n` [*filename*]

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: `Shift` キーを押します)。ただし、キーボードによっては `Enter` キーが `Return` キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、`Ctrl-D` は `Control` キーを押したまま `D` キーを押すことを意味します。

コマンド例の中のシェルプロンプト

デフォルトのシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを次の表に示します。

表 P–2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX または Linux システムの C シェル	machine_name%
UNIX または Linux システムの C シェルスーパーユーザー	machine_name#
UNIX または Linux システムの Bourne シェルまたは Korn シェル	$
UNIX または Linux システムの Bourne シェルまたは Korn シェルスーパーユーザー	#
Microsoft Windows コマンド行	C:\

記号の表記ルール

本書で使用される記号を次の表で説明します。

表 P–3 記号の表記ルール

記号	説明	例	意味
[ ]	オプションの引数とコマンドオプションが含まれています。	ls [-l]	-l オプションは必須ではありません。
{ | }	必須のコマンドオプションの選択肢のセットが含まれます。	-d {y|n}	-d オプションとともに、y 引数または n 引数を指定する必要があります。
${ }	変数の参照を示します。	${com.sun.javaRoot}	com.sun.javaRoot 変数の値の参照です。
-	同時に実行する複数のキーストロークを結び付けます。	Control-A	コントロールキーを押しながら A キーを押します。
+	連続する複数のキーストロークを結び付けます。	Ctrl + A + N	コントロールキーを押して離し、続いて次のキーを押します。
→	グラフィカルユーザーインタフェースのメニューの選択を表示します。	「ファイル」→「新規」→「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」メニューから「テンプレート」を選択します。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supportraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

第 1 章

Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 リリースノート

Version 6 2005Q4

このリリースノートには、Sun Java™ System Calendar Server 6 2005Q4 のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。このリリースノートは、次の節で構成されています。

- 17 ページの「Calendar Server 6 2005Q4 について」
- 18 ページの「リリースノートの改訂履歴」
- 18 ページの「このリリースの新機能」
- 19 ページの「要件」
- 20 ページの「インストールに関する注意事項」
- 27 ページの「マニュアルの更新」
- 28 ページの「互換性に関する問題」
- 29 ページの「このリリースで修正されたバグ」
- 33 ページの「既知の問題と制限事項」
- 38 ページの「再配布可能なファイル」

注 – このバージョンの Calendar Server 用のパッチを、Sun Solve で入手できます。詳細は、20 ページの「重要なパッチ情報」 を参照してください。

Calendar Server をインストールおよび設定する前に、このリリースノートをお読みください。

Calendar Server 6 2005Q4 について

Calendar Server は、企業やサービスプロバイダのカレンダおよびスケジュールの管理を集中化するためのスケーラブルな Web ベースのソリューションです。Calendar Server は、予定と仕事の両方に対応するユーザーカレンダ、および会議室や備品などのリソース用のカレンダをサポートしています。新機能の一覧については、次の節 18 ページの「このリリースの新機能」 を参照してください。

Calendar Server は、グラフィカルユーザーインタフェースである Communications Express を提供します。また、Calendar Server を使用すると、顧客は Web カレンダアクセスプロトコル (WCAP) を使用してカレンダデータに直接アクセスする際に、`text/calendar` 形式または `text/xml` 形式を柔軟に選択できます。

非推奨のグラフィカルユーザーインタフェースである Calendar Express は、下位互換性を維持するためにのみサポートされているもので、開発は停止しています。

リリースノートの改訂履歴

表 1–1 Sun Java System Calendar Server 改訂履歴

日付	変更の説明
2005 年 6 月 29 日	ベータリリースノート
2005 年 10 月 5 日	Calendar Server 6 2005Q4 の一般リリース

このリリースの新機能

Calendar Server 6 2005Q4 での変更内容および新機能は、次のとおりです。

- Delegated Administrator コンソール (グラフィカルユーザーインタフェース) が、Calendar Server に対応するようになりました。
- 次の WCAP パラメータが追加されました。
  - `smtpNotify`- このパラメータが `storeevents` および削除コマンド`deletecomponents_by_range`、`deleteevents_by_id`、`deleteevents_by_range` に追加されました。

    このパラメータは、システムに対し、予定の変更をその出席者に通知するかどうかを指示します。たとえば、予定の説明を変更しても、すべての出席者に新たな通知を送信する必要はない場合があります (値を `0` に設定)。ただし、会議の時間が変更された場合には、通常、出席者への通知が必要になります (値を `1` に設定)。
- 以前のユーザーインタフェースである Calendar Express は、非推奨になりました。この製品の将来のリリースでは、このインタフェースは表示されません。

  このため、Calendar Express に言及している『管理ガイド』および『開発者ガイド』内の情報は、削除されました。現在 Calendar Express を使用している場合は、Communications Express への切り替えを早急に計画する必要があります。Calendar Express に関する情報は、http://docs.sun.com (`http://docs.sun.com`) にある以前のバージョンの Calendar Server のマニュアル内で参照できます。
- `cs5migrate` の変更 - これまで、以前のバージョンの Calendar Server から Version 5 への移行に使用する `cs5migrate` ユーティリティーは、定期的な予定や作業の存在するデータベース用と、定期的なデータの存在しないデータベース用の 2 つがダウンロード可能でした。これら 2 つが統合されて、定期的なデータ用のオプションを指定可能な `cs5migrate` が 1 つだけ存在するようになりました。

要件

ここでは、このリリースの Calendar Server で必須または推奨されるハードウェアおよびソフトウェアについて説明します。

- 19 ページの「ハードウェア要件と推奨事項」
- 19 ページの「ソフトウェア要件と推奨事項」
- 20 ページの「重要なパッチ情報」

注 – フロントエンドマシンおよびバックエンドマシンに機能を分割する Calendar Server インストールの場合、それぞれのエンドのハードウェアプラットフォームとオペレーティングシステムが同じである必要があります。

つまり、ビッグエンディアンとリトルエンディアンでは互換性がないため、フロントエンドマシンとバックエンドマシンから構成される Calendar Server 配備内では x86 プラットフォームマシンと SPARC プラットフォームマシンの両方を使用することはできません。

また、フロントエンドマシンとバックエンドマシンでの Solaris x86 オペレーティングシステムと Linux オペレーティングシステムの混在はテストされていないので、現在サポートされていません。

ハードウェア要件と推奨事項

- 標準インストールの場合、約 500M バイトのディスク容量。本稼働システムの場合、最低 1G バイト。
- 128M バイトの RAM。本稼働システムの場合、最適なパフォーマンスを得るには 256M バイト～ 1G バイトが必要。
- 高速アクセス用の RAID ストレージ (大規模なデータベースでは使用が推奨される)。

ソフトウェア要件と推奨事項

- 19 ページの「サポートされるソフトウェアプラットフォーム」
- 19 ページの「クライアントコンピュータ用の推奨ブラウザ」

サポートされるソフトウェアプラットフォーム

- Solaris™ 10 オペレーティングシステム (SPARC® プラットフォーム版、x86 プラットフォーム版)
- Solaris 9 (5.9) オペレーティングシステム (SPARC プラットフォーム版、x86 プラットフォーム版)
- Solaris 8 (5.8) オペレーティングシステム (SPARC プラットフォーム版)
- Red Hat Enterprise Linux AS 2.1 u2、 AS 3.0

クライアントコンピュータ用の推奨ブラウザ

第 5 章にある、136 ページの「サポートされているブラウザ」を参照してください。

重要なパッチ情報

プラットフォーム	パッチ番号
Solaris、SPARC	116577
x86	116578
Linux	116851

▼ SunSolve でパッチを検索する方法

1. **Sun Java System Calendar Server** の必須パッチの最新リストを入手するには、次のサイトにアクセスします。

   http://sunsolve.sun.com (`http://sunsolve.sun.com`)

2. 「パッチ」または「パッチ・サポート・ポータル」を選択します。

3. **Sun Java System Calendar Server** のリンクに従って進みます。

   オペレーティングシステムのパッチ要件が変わり、Java Enterprise System コンポーネントのパッチが利用できるようになると、SunSolve から、最初は推奨するパッチクラスタの形で更新機能が提供されます。

インストールに関する注意事項

ここでは、Calendar Server 6 2005Q4 をインストールする前に知っておくべき情報について説明します。次の節が含まれます。

- 21 ページの「フロントエンドとバックエンドマシンおよびオペレーティングシステム」
- 21 ページの「Linux プラットフォームのサポート」
- 22 ページの「OS パッチ」
- 22 ページの「必要な権限」
- 22 ページの「Linux パッケージ名」
- 23 ページの「カレンダデータベースのアップグレード」
- 23 ページの「インストール後の設定」
- 24 ページの「Calendar Server のデータとプログラムファイルの場所」
- 25 ページの「Directory Server のパフォーマンス」
- 27 ページの「スキーマ 1 を使用する Communications Express」
- 27 ページの「プロビジョニングツール」
- 27 ページの「マニュアルの更新」

注意 – Calendar Server では、NFS (Network File System) でマウントされたパーティションはサポートされていません。Calendar Server のいかなる部分も (実行可能ファイル、データベースファイル、設定ファイル、データファイル、一時ファイル、ログファイルを含む)、NFS でマウントされたパーティションにインストールしたり作成したりしないでください。

フロントエンドとバックエンドマシンおよびオペレーティングシステム

フロントエンドマシンおよびバックエンドマシンに機能を分割する Calendar Server インストールの場合、それぞれのエンドのハードウェアプラットフォームが同じである必要があります。

つまり、ビッグエンディアンとリトルエンディアンでは互換性がないため、フロントエンドマシンとバックエンドマシンから構成される Calendar Server 配備内では x86 プラットフォームマシンと SPARC プラットフォームマシンの両方を使用することはできません。

また、フロントエンドマシンとバックエンドマシンでの Solaris x86 オペレーティングシステムと Linux オペレーティングシステムの混在はテストされていないので、現在サポートされていません。

Linux プラットフォームのサポート

Java Enterprise System は、Linux プラットフォームで動作します。ユーザーが使用する上での主要な相違点は、製品ディレクトリがインストールされるパス名が異なることです。Linux プラットフォームと Solaris プラットフォームでは、インストール先ディレクトリが異なります。

次の表に、Solaris および Linux のデフォルトのインストールディレクトリパスを示します。

Solaris のデフォルトディレクトリ	**Linux** のデフォルトディレクトリ
`/opt/SUNWics5/cal/` (*cal_svr_base*)	`/opt/sun/calendar` (*cal_svr_base*)
`/etc/opt/SUNWics5/config`	`/etc/opt/sun/calendar/config`
`/var/opt/SUNWics5/`	`/var/opt/sun/calendar`

ヒント – マニュアルでは、Calendar Server のデフォルトのインストールディレクトリは、`cal_svr_base` として参照されています。

OS パッチ

Calendar Server をインストールする前に、必須のオペレーティングシステムパッチを適用する必要があります。必須パッチのリストについては、システムのリリースノートである『 Sun Java Enterprise System 2005Q4 リリースノート』を参照してください。

必要な権限

Solaris システムで Sun Java Enterprise System インストーラまたは Calendar Server 6 2005Q4 設定プログラムを実行するには、スーパーユーザー (`root`) としてログインするか、スーパーユーザーになります。

Linux パッケージ名

Sun Java Enterprise System インストーラを使用して Calendar Server 6 2005Q4 をインストールします。Java Enterprise System インストーラは、Calendar Server 6 2005Q4 およびさまざまな製品で使用される共有コンポーネントを含む Sun コンポーネントの製品パッケージをインストールします。

次のリストに、さまざまな Calendar Server 関連のコンポーネントの Linux パッケージ名を示します。

コンポーネント	パッケージ名
Calendar Server	sun_calendar-core sun-calendar-api
ローカライズされたパッケージ:	
スペイン語	sun-calendar-core-es
韓国語	sun-calendar-core-ko
フランス語	sun-calendar-core-fr
簡体字中国語	sun-calendar-core-zh_CN
ドイツ語	sun-calendar-core-de
日本語	sun-calendar-core-ja
繁体字中国語	sun-calendar-core-zh_TW

以前のバージョンの Calendar Server 6 からのアップグレード

Calendar Server のアップグレードに、Sun Java Enterprise System インストールを使用しないでください。`patchadd` プロセスを使用する必要があります。Calendar Server の以前のリリースからアップグレードする方法については、『 Sun Java Enterprise System 2005Q4 アップグレードと移行』を参照してください。また、『 Sun Java Enterprise System 2005Q4 リリースノート』も参照してください。

カレンダデータベースのアップグレード

Berkeley DB Version 3.2.9 を使用する Calendar Server 6 がインストール済みの場合、最新の Version 4.2 への変換が自動的に実行されます。ほかのデータベース移行プログラムを実行する必要はありません。

erkeley DB Version 2.6 を使用する Calendar Server 5 がインストール済みの場合は、`cs5migrate` を使用してカレンダデータベースを Version 4.2 にアップグレードする必要があります。このユーティリティーは、テクニカルサポートに請求することで入手できます。

Calendar Server 2 がインストール済みの場合、最新のリリースに移行するためにはまず Calendar Server 5 にアップグレードする必要があります。

`cs5migrate` ユーティリティーでは、次の作業を実行できます。

- Calendar Server 5.x データから Calendar Server 6 への移行
- カレンダデータベースの Berkeley DB Version 2.6 から Version 4.2 へのアップグレード
- `csmigrate.log` という名前のログへの移行ステータスの書き込み
- `csmigrateerror.log` という名前のログへのエラーの書き込み

また、`cs5migrate` で `-r` オプションを指定すると、すべての定期的な予定と作業用のマスターおよび例外レコードが作成されます。将来、これらのレコードは Calendar Server により自動的に生成されます。データベースを移行する必要があるが、Connector for Microsoft Outlook を使用する予定がない場合は、`-r` オプションを指定して `cs5migrate` を実行する必要はありません。

このユーティリティーのダウンロード場所およびマニュアルについては、テクニカルサポートにお問い合わせください。

注意 – 使用しているサイトに、限定仮想ドメインモードに設定されている Calendar Server の以前のバージョンがあるか、または Calendar Server の複数のインスタンスが同一マシンにあるときは、移行要件に関してご購入先の顧客サービス担当者に確認し、それらの要件をサポートする特定の移行ユーティリティー手元にあることを確認してください。

また、最初にフルバックアップを取らずにデータベースを移行することは絶対にしないでください。

インストール後の設定

Calendar Server 6 2005Q4 をインストールまたはアップグレードした後で、Calendar Server を使用する前に、次の方法で設定を行う必要があります。

1. Directory Server セットアップスクリプト (`comm_dssetup.pl`) を実行して、Sun Java System Directory Server for Calendar Server スキーマを設定します。
2. Calendar Server 設定プログラム (`csconfigurator.sh`) を実行して、使用しているサイトの特定の要件を設定します。

詳細は、『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

Calendar Server のデータとプログラムファイルの場所

次の表に、Solaris および Linux の各プラットフォームのマニュアルで言及されているさまざまなファイルおよびプログラムの場所を示します。

ファイル名	Solaris の場所	Linux の場所
管理者用ユーティリティー: `start-cal`、`stop-cal`、`csattribute`、`csbackup`、`cscal`、 `cscomponents`、`csdb`、`csdomain`、 `csexport`、`csimport`、`csmonitor`、`csplugin`、`cspurge`、`csrename`、`csresource`、`csrestore`、`csschedule`、 `csstats`、`cstool`、`csuser`	`/opt/SUNWics5/cal/sbin`	`/opt/sun/calendar/sbin`
移行ユーティリティー: `csmig`、`csvdmig`	`/opt/SUNWics5/cal/sbin`	`/opt/sun/calendar/sbin`
スクリプト: `icsasm`、`legbackup.sh`、`legrestore.sh`、`private2public.pl`	`/opt/SUNWics5/cal/sbin`	`/opt/sun/calendar/sbin`
設定ファイル: `ics.conf`、`version.conf`、 `counter.conf`、`sslpassword.conf`	インストール後のファイルの場所: `/opt/SUNWics5/cal/`*`config-template`* 設定中は、前述のディレクトリに含まれるさまざまなファイルが、選択した設定オプションで指定された場所に移動されます。	インストール後のファイルの場所: `/opt/sun/calendar/`*`config-template`* 設定中は、前述のディレクトリに含まれるさまざまなファイルが、選択した設定オプションで指定された場所に移動されます。
LDAP サーバー更新ファイル: `60iplanet-calendar.ldif`、`ics50-schema.conf`、`um50-common-schema.conf`	インストール後のファイルの場所: `/opt/SUNWics5/cal/config/schema/comm_dssetup.pl` により、これらのファイルが Directory Server に書き込まれます。	インストール後のファイルの場所: `/opt/sun/calendar/config/schema/comm_dssetup.pl` により、これらのファイルが Directory Server に書き込まれます。

ファイル名	Solaris の場所	Linux の場所
スキーマ LDIF ファイル: `20subscriber.ldif`、`50ns-value.ldif`、`50ns-delegated-admin.ldif`、`55ims-ical.ldif`、`50ns-mail.ldif`、`56ims-schema.ldif`、`50ns-mlm.ldif`、`60iplanet-calendar.ldif`、`50ns-msg.ldif`	インストール後のファイルの場所: `/etc/opt/SUNWics5/config/schema` `comm_dssetup.pl` により、これらのファイルが Directory Server に書き込まれます。	インストール後のファイルの場所: `/etc/opt/sun/calendar/config/schema` `comm_dssetup.pl` により、これらのファイルが Directory Server に書き込まれます。
Mail 形式 (`*.fmt`) ファイル	インストール後のファイルの場所: `/opt/SUNWics5/cal/`*config-template* 設定後のファイルの場所: `/etc/opt/SUNWics5/ config/`*language* language は en、de、es、fr、ja、ko、zh-TW、または zh-CN です。	インストール後のファイルの場所: `/opt/sun/calendar/`*config-template* 設定後のファイルの場所: `/etc/opt/sun/calendar/config/`*language* language は en、de、es、fr、ja、ko、zh-TW、または zh-CN です。
ライブラリ (.so) ファイル SSL ユーティリティー: `certutil`、`modutil`	`/opt/SUNWics5/cal/lib`	`/opt/sun/calendar/lib`
セッションデータベース	`/opt/SUNWics5/cal/lib/ http`	`/opt/sun/calendar/lib/http`
カウンタ統計情報ファイル: `counter`、`counter.dbstat`	`/opt/SUNWics5/cal/lib/counter`	`/opt/sun/calendar/lib/counter`
`timezones.ics` ファイル	`/opt/SUNWics5/cal/data`	`/opt/sun/calendar/data`

Directory Server のパフォーマンス

特に LDAP ディレクトリのカレンダ検索を使用している場合、LDAP Directory Server のパフォーマンスを向上させるには、次の点を考慮してください。

- 25 ページの「LDAP Directory Server 属性のインデックス作成」
- 26 ページの「サイズ制限およびルックスルー制限パラメータのチェックと設定」

LDAP Directory Server 属性のインデックス作成

Calendar Server が LDAP Directory Server アクセスするときのパフォーマンスを向上させるには、LDAP 設定ファイルの各種属性にインデックスを追加します。

設定プログラム `comm_dssetup.pl` は、オプションでインデックス作成を行います。

ヒント – インデックス作成によってパフォーマンスがどれだけ変わったかを調べるには、次のテストを実行します。

1. インデックス作成を実行する前に、次の LDAP コマンドの実行に要する時間を計測します。

   ```
   ldapsearch -b "base" "(&(icscalendarowned=*
   user*)(objectclass=icsCalendarUser))"
   ```

   ここで、*base* は、Calendar Server のユーザーとリソースのデータが格納されている Directory Server の LDAP ベース DN です。 *user* は、一般ユーザーが `Calendar Express` の「登録」>「カレンダ検索」ダイアログで入力できる値です。

2. `icsCalendarOwned` のインデックス作成を実行します。
3. 再度 LDAP コマンドを実行して、時間を計測します。

   ```
   ldapsearch -b "base"
    "(&(icscalendarowned=*user*)(objectclass=icsCalendarUser))"
   ```

   ここで、*base* は、Calendar Server のユーザーとリソースのデータが格納されている Directory Server の LDAP ベース DN です。 *user* は、一般ユーザーが `Calendar Express` の「登録」>「カレンダ検索」ダイアログで入力できる値です。

4. 時間を比較します。2 つの時間に測定可能な差異が存在するはずです。

サイズ制限およびルックスルー制限パラメータのチェックと設定

ルックスルー制限 (`nsslapd-lookthroughlimit`) パラメータとサイズ制限 (`nsslapd-sizelimit`) パラメータが適切な値に設定されているかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
ldapsearch -b "base" "(&(icscalendarowned=*
user ID*)
(objectclass=icsCalendarUser))"
```

ここで、*base* は Calendar Server のユーザーとリソースのデータが格納されている Directory Server の LDAP ベース DN です。 *user ID* は、一般ユーザーが Communications Express のカレンダ検索ダイアログで入力可能な値です。

LDAP サーバーがエラーを返す場合は、`nsslapd-sizelimit` または `nsslapd-lookthroughlimit` パラメータの大きさが十分でない可能性があります。次のガイドラインに従って、これらのパラメータを設定してください。

- `slapd.conf` ファイルまたは同等のファイルの `nsslapd-sizelimit` パラメータの値は、必要な結果をすべて返すのに十分な大きさにする必要があります。大きさが十分でない場合、切り捨てが実行され、結果が表示されないことがあります。
- `slapd.ldbm.conf` ファイルまたは同等のファイルの `nsslapd-lookthroughlimit` パラメータの値は、LDAP ディレクトリ内のすべてのユーザーとリソースの検索を完了するのに十分な大きさにする必要があります。可能な場合は、 `nsslapd-lookthroughlimit` を -1 に設定します。そうすると、検索に制限がなくなります。

スキーマ 1 を使用する Communications Express

Communications Express のスキーマ 1 には 2 つの問題点があります。

- Communications Express 設定プログラムの実行前に Communications Express を Sun LDAP スキーマ 1 と共に使用する場合は、`ldapmodify` を使用して DC ルートノードを LDAP に追加する必要があります。エントリは次のようになります。

```
dn: o=internet
 objectClass: organization
 o: internet
 description: Root level node in the Domain Component (DC) tree
```

- スキーマ 1 のユーザーのプロビジョニングに使用するカレンダユーティリティーの `csuser` は、Calendar Express 用に設計されており、Communications Express に必要なアドレス帳サービスのユーザーをサポートしていません。

プロビジョニングツール

Calendar Server 用のユーザー、グループ、 ドメインのプロビジョニングツールには、Delegated Administrator ユーティリティーと Calendar Server ユーティリティーの 2 つがあります。Delegated Administrator には、グラフィカルユーザーインタフェースである Console と、コマンド行インタフェースである Utility の 2 つのインタフェースがあります。Delegated Administrator の詳細は、『 Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Delegated 管理ガイド』を参照してください。Console の使用方法については、Delegated Administrator Console オンラインヘルプを参照してください。

Calendar Server ユーティリティーの詳細については、『 Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

注意 – ユーザーのプロビジョニングを Access Manager Console から行わないでください。ユーザーを作成してカレンダサービスを割り当てることは可能ですが、この方法を使用すると、配備に予期しない悪影響が及ぶ可能性があります。

マニュアルの更新

Calender Server 6 2005Q4 には、次のマニュアルがあります。Part No. は括弧で囲まれています。

- 『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』 (819-3568)
- 『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Developer's Guide』 (819-2434)
- 『Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 管理ガイド』 (819-3544)
- 『Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 Customization Guide』 (819-2662)
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Delegated Administrator 管理ガイド』 (819-4103)
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Schema Reference』 (819-2657)

- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Schema Migration Guide』 (819-2656)
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Event Notification Service Guide』 (819-2655)

Communications Express のオンラインヘルプは、Communications Express に付属しています。

Delegated Administrator コンソールのオンラインヘルプは、Delegated Administrator コンソールに付属しています。

Calendar Server 6 2005Q4 のマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

`http://docs.sun.com/coll/1370.1?l=ja`

『Sun Java Enterprise System Technical Note: Sun Java System Calendar Frequently Asked Questions』 (819–2631) この FAQ 文書は、このリリースで更新されていません。

互換性に関する問題

次の表に、Calendar Server 6 2005Q4 と以前のバージョン間に存在する既知の非互換性の問題を示します。

非互換性	影響	コメント
Access Manager が旧バージョンとレルムの 2 つのインストールタイプを持つようになりました。	インストール時に、次のパネルで、インストールタイプとして「旧バージョン」を選択する必要があります。 `Access Manager: Administration (1 of 6)`	不正な Access Manager がインストールされている場合、Delegated Administrator を実行できません。
`/opt/SUNWics5` 内にある Directory Preparation Tool (`comm_dssetup.pl`) は動作しません。	`comm_dssetup.pl` は、`/opt/SUNcomds` (Solaris) および `/opt/sun/comms/dssetup` (Linux) にインストールされた独自パッケージ内に存在するようになりました。	このパッケージをインストールするには、該当するインストーラパネルで Directory Preparation Tool を選択する必要があります。

Delegated Administrator 用の設定プログラムが変更されました。	Delegated Administrator をインストールして、設定プログラムを実行します。最新のプログラムは、次の場所にあります。
	Solaris の場合、
	`/opt/SUNWcomm/sbin/config-commda`
	Linux の場合、
	`/opt/sun/comms/config-commda`
		このバージョンの Calendar Server をインストールする際に、新しい Delegated Administrator にアップグレードします。

非互換性	影響	コメント
このリリースの Communications Express は、Calendar Server の 2004Q2 バージョンと互換性がありません。	Communications Express をアップグレードする場合は、Calendar Server もアップグレードする必要があります。	これは、Messaging Server にも適用されます。

このリリースで修正されたバグ

次のリストに、Calendar Server 2005Q1 で報告され、このリリースで修正された問題を示します。

4526765 問題:Calendar Server ユーティリティー `cscal` では、コマンドで所有者をいくつ指定したとしても、一度に所有者を 3 人以上追加できません。

4945126 定期的な予定用の ITIP メッセージが不正です。

4963040 `csdb rebuild` により、指定したターゲットディレクトリの末尾にデフォルトディレクトリが追加されます。

5018344 `search_calprops.wcap` が正しい結果を返すために、LDAP 検索フィルタを向上させる必要があります。

5023720 `csclean -g` オプションの使用法が不正です。

5044765 Calendar Server パッケージで、最上位レベルディレクトリのグループ ID に疑問符が使用されます。

5044776 Calendar Server パッケージで、割り当てられた所有者の代わりにパラメータ属性が使用されます。

5053566 Linux: Calendar Server のファイルが、デフォルトで `/etc/opt/sun/config` にインストールされます。

5088397 `icsStatus` を、ドメインレベルで使用できません。

5105867 Calendar Server が、共有コンポーネントのプライベートコピーを保持します。

5110172 Solaris x86 プラットフォームで、DWP デーモンが起動に失敗します。

6173572 LDAP キャッシュが有効の場合、cshttpd で障害が発生します。

6173712 仮想ドメインモードでメール検索が設定されている場合、Calendar Server `error 29` がスローされます。仮想ドメインモードでは、メール検索はサポートされていません。代わりに、ユーザーおよびグループ LDAP を使用してください。商用リリースでは、仮想ドメインモードで、 `ics.conf` ファイル内のメール検索設定が無視されます。

6174162 `csrename` の実行時に、混乱を招くエラーメッセージが表示されます。

6182625 WCAP の変更: 更新をメソッドとして追加します。そうしない場合、最初の変更以降の変更時に Outlook でエラーが発生します。WCAP のバージョンを 3.3.0 に変更します。

6193286 システムのタイムゾーンが認識されません。

6193665 スキーマ 1 で仮想ドメイン (ホストドメイン) を使用している場合は、`search_calprops.wcap` に *primaryOwner=1* を指定しても、一貫性のある結果が返されません。

6197272 問題:`service.http.ssl.port.enable="yes"` を設定しても、通常の HTTP ポートが無効になりません。

修正:マニュアルの問題。`"yes"` が指定された場合、HTTPS は SSL ポート上でのみ待機します SSL が機能するには、バックエンドサーバー上で、`service.http.enable` および `service.http.ssl.port.enable` の両方を `"yes"` に設定する必要があります。

回避策:HTTP がポート上で待機することを無効にする方法はありません。ただし、管理者は、`service.http.port` を未公開のポート番号に変更できます。

6197553 Outlook Connector の使用後に、csdwpd によりクラスタのフェイルオーバーが発生します。

6206703 ホストドメイン上のユーザーとしてログインできません。

6209863 作成時に、`csuser` で `-c` オプションの使用を許可すべきではありません。

6211629 問題:`csconfigurator.sh` の GUI の入力領域が、日本語ロケールで狭すぎます。

6211917 `get_freebusy.wcap` により `cshttpd` がクラッシュします。

6215989 `browser.cache.enable` が "yes" に設定されている場合、特定の引数と共に `login.wcap` 要求を使用すると、Calendar Server に障害が発生します。

6219300 `csrename` が削除ログを更新しないため、孤立したエントリが削除ログ内に残されます。

6219332 サイレントモードでも、 csconfigurator.sh により質問への応答が求められます。

6219906 問題:仮想ドメインモードの場合、`ics.conf` ファイル内で `maillookup` を設定していると、WCAP エラーが返されます。

修正:仮想ドメインモードでは、`ics.conf` ファイル内の `ugldap` が優先され、`maillookup` は無視されます。

6220063 `cshttpd` が `getRemovedAttendees` でクラッシュします。

6224389 定期的な予定を保存すると、`cshttpd` がクラッシュします。

6224683 通知サービスが修正されました。複数の変更が加えられました。

6226361 共同所有者により開催者が変更された場合、出席者のカレンダから予定が消滅します。

6227703 LDAP キャッシュが有効な場合、`cshttpd` がクラッシュする可能性があります。

6228400 `get_userprefs.wcap` を発行すると、システムに障害が発生します。

6230748 csadmind が `caldb_GetNextAlarmFromQueue` でクラッシュします。

6232493 *dtstart* が設定されている場合、`get_freebusy.wcap` により cshttpd がクラッシュします。

6232755 `list.wcap`、`subscribe_users.wcap`、および `unsubscribe_users.wcap` により、cshttpd がクラッシュします。

6233224 代替ルートにパッチ -18 をインストールできません。

6234232 ニュージーランドの夏時間の開始日および終了日が不正です。

6234868 スラッシュ (/) を含む `mailto:` アドレスを使って、Outlook から `storeevents.wcap` を呼び出すと、cshttpd が無限ループに入ります。

6239645 日付と時刻に変更を加えずに例外を作成しても、ダブルブッキングエラーが発生することがあってはなりません。

6240039 csadmind が `UpdateOrganizerPendingStatus` でクラッシュします。

6240332 不正なファイル所有権が原因で、サービスの起動が失敗します。

6240579 csstored.pl 内の次の行にエラーが存在します。`if ($log_files_count > 1)()`。これは、`> 2()` でなければなりません。

6241683 定期的な予定を繰り返しのない予定に変更しても、変更が有効になりません。

6241916 GSE エントリ (外部の開催者に返信する内部の出席者) の処理時に、csadmind がクラッシュします。

6241941 定期的な予定の処理中に、スタックが定期的な作業 (ToDo) を処理する場合、csadmind がクラッシュします。

6246400 週別表示に終日予定が表示されません。

6249180 Calendar Server が、エイリアスドメイン内のユーザーのカレンダの一部を返しません。

6251866 会議の詳細が変更された場合に通知を送信しない機能を、WCAP が提供する必要があります。これは、 `storeevents` およびいくつかの削除コマンドに追加された smtpNotify パラメータとして実装されました。詳細は、18 ページの「このリリースの新機能」を参照してください。

6262770 Word 文書を Communications Express にインポートすると、 cshttpd がクラッシュします。

6265287 問題:カレンダ内で認証フィルタを設定すると、トラストサークル SSO が失敗します。

6266149 レガシーモードから仮想ドメインモード (ホストドメイン) への移行に必要な基本的変更。

6269282 システムに `local.ldap.cache.cleanup.interval` が正確に反映されません。

6269721 問題:`csresource - k` オプションのデフォルト動作が、空白を含めるか、省略するかで異なります。

6269822 問題:`csresource` マージ内のリソース用にリストされたデフォルト ACE が不正です。

6274603 問題:出席者がすべてを受け入れた場合、外部の開催者が、定期的な予定のインスタンスごとに 1 つの応答を受け取ります。

6274607 問題:開催者が外部の場合、`Import` コマンドにより、開催者の間違ったメールアドレスが入力されます。

6274639 問題:`csdwpd` のバックエンドプロセッサに問題があるため、フロントエンドの `cshttpd` に障害が発生します。

6274892 問題:`cscal -v list` コマンドが機能しません。

6275605 問題:ライブカレンダデータベース内に 3 つ以上のログファイルが存在する場合、`csstored.pl` が警告をレポートしません。

6276294 問題:セキュリティー保護されたログインパラメータが機能しません。

修正:実装されていませんでした。`ics.conf` ファイルから `service.http.ssl.securelogin` パラメータが削除されました。

6277086 問題:プロキシ認証を行うために、`local.user.authfilter` をオフにする方法が必要です。

修正:WCAP コマンド `login.wcap` に新規パラメータが追加されました。追加されたパラメータは `applyauthfilter` です。このパラメータについては、『WCAP Reference』を参照してください。

6277250 問題:Linux の場合、アップグレード後に Calendar Server が起動しません。パッチを使ってアップグレードを実行すると、`lib` ディレクトリに不正なアクセス権が設定されます。

回避策:root で、次のコマンドを実行します。

1. `cd /opt/sun/calendar/lib`
2. `mkdir lock`
3. `chown -R icsuser:icsgroup lock`

6278096 問題:ユーザーが最初に出席依頼にコメントを追加してから、それに応答すると、電子メールアラームがオフになります。

6278698 問題:Calendar Express のログインページに表示される著作権の年が正しくありません。

6279920 問題:週別ビューを「土曜日と日曜日を除外して」表示しようとすると、プログラムが終了します。

6281536 問題:プレパッチスクリプトで、代替ルートで動作しない必須パッチをチェックするメソッドが使用されます。

6282727 問題:`calprops` に X-Token を追加する機能が必要です。これは、Connector for Microsoft Outlook でデフォルトでないカレンダをサポートするのに必要です。

6284100 問題:`RRULES` が個々のインスタンスごとにエクスポートされるため、予定が重複します。

6285029 問題:`cshttpd` を解放すると、プログラムが終了します。

6286321 問題:プレパッチチェックにより、廃止されたパッチが検索されます。

既知の問題と制限事項

ここでは、Calendar Server 6 リリース時の、重要度の高い既知の問題の一覧を示します。

- 33 ページの「制限事項」
- 35 ページの「報告された問題」

制限事項

現在知られている制限事項は、次のとおりです。

- 33 ページの「複数値ユーザー設定のインスタンスをすべて削除する」
- 34 ページの「クラスタ環境内でインストール済みパッチを検索する」
- 34 ページの「ポップアップブロッカー」
- 34 ページの「スキーマ 1 モードの Communications Express でユーザーをプロビジョニングする」
- 34 ページの「複数のドメイン (ホストドメイン)」
- 35 ページの「Calendar Server で LDAP キャッシュデータが期限切れにならない」
- 35 ページの「設定ファイルに完全修飾されたホスト名と完全修飾されていないホスト名の両方を入力する必要がある」

複数値ユーザー設定のインスタンスをすべて削除する

制限:各 `set_userprefs` コマンドにより、複数値の設定のインスタンスが 1 つだけ削除されます。

回避策:複数値ユーザー設定のインスタンスをすべて削除するには、インスタンスごとに 1 つの `set_userpref` コマンドを発行する必要があります。

次に例を示します。`get_userprefs` を実行して、ユーザー設定のすべてをリスト表示します。`icsSubscribed` などのように、設定に複数の値が存在する場合は、リスト表示された値ごとに `set_userprefs` コマンドを発行して、設定を削除する必要があります。

クラスタ環境内でインストール済みパッチを検索する

制限:クラスタの個々のノードに何がインストールされているかを示す、クラスタ固有の `showrev` コマンドは存在しません。これは、一般的な問題であり、単に Calendar Server 固有の問題というわけではありません。グローバルファイルシステムにインストールされた製品であればどれでも、同じ問題に遭遇します。

これは、Calendar Server を更新する際に問題になります。Calendar Server がインストールされているすべてのノードにパッチを適用する必要があります。また、Calendar Server がノードにインストールされていない場合、パッチをノードに適用することはできません。少なくとも Calendar Server がインストールされているノードが分からないと、Calendar Server のインストール先を見つけるのは、紛らわしく、時間のかかる作業になります。

回避策:次のコマンドを実行して、Calendar Server がインストールされているすべてのノードを表示します。`pkgparam -v SUNWics5 | grep ACTIVE_PATCH`

ポップアップブロッカー

制限:ポップアップブロッカーを有効にしていると、特定の Calendar Server ウィンドウが表示されません。

回避策:Calendar URL に対するポップアップブロッカーを無効に設定して、すべての Calendar Server ウィンドウが確実に表示されるようにします。

例外:Norton Inet Security AD_BLOCKER および Mozilla 内蔵の POP_BLOCKER は、Calendar Server ウィンドウの動作には影響を及ぼしません。

スキーマ 1 モードの Communications Express でユーザーをプロビジョニングする

制限:`csuser` ユーティリティーでは、アドレス帳で作成されたユーザーが有効になりません。

回避策: `ldapmodify` を使用してユーザーを有効にします。

複数のドメイン (ホストドメイン)

制限:設定プログラム `csconfigurator.sh` を使用すると、1 つのドメインしか設定されません。

回避策:複数ドメインのカレンダ環境 (仮想ドメインまたはホストドメインと呼ばれる) が必要な場合、次の 2 つを実行する必要があります。

1. ホストドメインを有効にします。

2. Sun LDAP スキーマ 1 を現在も使用している場合は、Delegated Administrator または `csdomain` ユーティリティーを使って、ドメインを独自に追加します。

『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』の第 11 章「Setting Up Hosted Domains」および『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』の第 13 章「Administering Hosted Domains」を参照してください。

Calendar Server で LDAP キャッシュデータが期限切れにならない

制限:(バグ番号 4777792 としても登録済み) キャッシュがいっぱいになるために、エラーが発生します。Calendar Server では、LDAP キャッシュデータが期限切れになりません。

回避策:定期的にファイルの内容を削除します。その後、Calendar Server を再起動します。

設定ファイルに完全修飾されたホスト名と完全修飾されていないホスト名の両方を入力する必要がある

制限:設定ファイルへのホスト名の入力が 2 回求められます。最初は完全修飾されたホスト名で、2 番目は完全修飾されていないホスト名です。次に例を示します。

```
caldb.dwp.server.skate.red.sesta.com.ip = "skate.red.sesta.com"
caldb.dwp.server.skate.ip = "skate"
caldb.dwp.server.test12.red.sesta.com.ip = "test12.red.sesta.com"
caldb.dwp.server.test12.ip = "test12"
```

X-Token 内の RFC 非準拠のデータを引用符で囲む必要がある

制限:X-Token 内に RFC 非準拠のデータが存在する場合は、そのデータを引用符で囲む必要があります。たとえば、X-Token 内のコロンは `":"` のようにする必要があります。

報告された問題

次のリストに、この製品に関して報告されている問題を示します。

4526772	問題:Calendar Server ユーティリティー `cscal` は、ユーザーを二次所有者として所有者リストに追加する前に、ユーザーの検証を行いません。
4754661	問題:Calendar Server 移行ユーティリティー `csmig` は、所有者カレンダを使用した `icsSubscribed` の更新を行いません。
4777792	問題:もはやサポートされないキャッシュされた LDAP データを自動的に破棄する機能がありません。 回避策:キャッシュされた以前の LDAP データを手動で削除します。

4932211	問題:複数の接続を素早く同時に開いたり閉じたりすると、enpd がクラッシュします。
4958242	問題:ユーザーが予定を変更して、今日の予定と将来のすべての予定を変更するオプションを選択すると、以前の予定はすべて削除されて、UI に表示されなくなります。
5019977	問題:SSLv2 モードで SSL の初期化が失敗します。SSLv2 クライアントを使用できません。
5027772	問題:設定プログラム "Get" で、`baseDN` を取得できません。このプログラムは、インストールルートを取得します。ルートに続く部分を追加することで、ベース DN を指定する必要があります。
5060833	問題:プロセス (`enpd` など) を起動してから `ics.conf` ファイル内でそれを無効にする場合、`stop-cal` が発行されても、システムは無効にされたプロセスを停止しません。 回避策:`ics.conf` ファイル内でプロセスを再度有効にしてから、`stop-cal` コマンドを発行します。すべてのプロセスが停止した後で、実行しないプロセスをすべて無効にしてから、`start-cal` を発行します。
6179278	問題:ホットバックアップのログファイルが、設定通りに破棄されません。 回避策:ディスクがいっぱいになることでサービスが中断されることを防ぐために、定期的にログファイルを別の場所にコピーして、新しいログファイルを使用します。
6186298	問題:ホストドメインを使用するスキーマ 1 モードで、DC ツリーが存在しないか、プロビジョンが不正な場合、カレンダユーティリティーが失敗する可能性があります。カレンダを作成したり、別の方法で管理したりする前に、DC ツリーノードを作成する必要があります。
6203605、6245878、6246230	問題:管理者が LDAP からドメインを削除できません。`commadmin domain purge` を実行しても、`deleted` が `icsStatus` であるエントリが削除されません。エントリのステータスは `removed` でなければなりません。推奨される Calendar Server ユーティリティーである `csclean` を実行しても、`icsStatus` は `removed` に変更されません。 回避策: `commadmin domain purge` を実行する前に、`ldapmodify` を使用して `icsStatus` を `removed` に変更します。
6216869	問題:DWP プロセスの実行中に DWP が無効にされた場合、`stop-cal` を実行しても DWP は停止しません。

stop-cal は、有効に設定されているサービスだけでなく、すべてのサービスを停止するはずです。

6216877 問題:あいまいなエラーメッセージ。ホストドメイン環境で、csdomain に渡された basedn が存在しない場合。実際に受信するメッセージは、“FAIL: icsLdapServer: Null argument to function.” です。この種のエラーメッセージは、数レベル下で生成されると共に、異なるさまざまな状況で生成されるため、メッセージの内容はあいまいです。単にエラーを引き渡すのではなく、高レベルのプログラムがエラーメッセージを解釈し、それをさらに高レベルが引き継いでゆく必要があります。

6219126 問題:Calendar Server への格納時に、description フィールドから先頭の空白が取り除かれます。

6221009 問題:Linux: RedHat Linux 3.0 では、電子メールによる通知の受信時に件名が消えてしまいます。

6221452 問題:個別のホストドメイン上で、SSL を有効や無効に設定することはできません。(RFE)

6221999 問題:csdomain で生成されるエラーメッセージはあいまいで、より明示的なものにする必要があります。

6244958 問題:csconfigurator.sh を -saveState オプションを指定して実行し、かつ指定された状態ファイルにパスが含まれていない場合、状態ファイルは作成されません。次に例を示します。

```
/opt/sun/calendar/sbin/csconfigurator.sh -saveState
cs.state
```

回避策:状態ファイルを作成する場所を、常にフルパス名で指定します。

6273182 問題:csclean を使用して非ホストドメインモードのユーザーを削除しても、LDAP からのユーザーの削除に失敗します。

回避策:非ホストドメインモードで、 csuser delete を使用して、LDAP からユーザーを削除します。

6277008 問題:Linux システムでは、Calendar Server が不正に閉じられた場合、リブート後に Calendar Server を再起動できません。

回避策: /opt/sun/calendar/lib/lock/__db.001 からロックファイルを削除します。

6283756	問題:予定を通知する際、長い宛先: フィールドが、長いまま折り返されずに 1 行で送信されます。これは、RFC 821 に違反しています。行に 1000 文字を超える文字が含まれる場合 (SMTP では行の長さの上限が 1000 文字)、Messaging Server は行を切り捨てます。 回避策:Messaging Server で、関連するチャネルに `wrapsmtp` キーワードを使用します。
6300906	問題: `service.http.calendarhostname` が設定されている場合、Calendar Express へのログイン時に Calendar Server の `cshttpd` プロセスがクラッシュします。デフォルトは null (`""`) です。
6308379	問題:Solaris 10 上で Sun Cluster が稼働する HA 環境にパッチ 120500 が適用されていない場合、Calendar Server が動作しません 修正:パッチ 120500 を適用します。
6312605	問題:定期的な予定に関する問題。日付以外のフィールドを変更して (`storeevents` を使用して) `dtstart` および `dtend` パラメータを送信すると、データが破壊されます。
6312869	問題:Delegated Administrator を Java Enterprise System 2005Q1 バージョンから Java Enterprise System 2005Q4 バージョンにアップグレードすると、Delegated Administrator 設定プログラム (`config-commda`) がフリーズします。 修正:Delegated Administrator で使用可能な新しいパッチが存在します。このパッチは、Java Enterprise System 2005Q4 の一般リリースバージョンには使用しないでください。

再配布可能なファイル

Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 には、次のファイル群が含まれます。Sun は、お客様に対して、これらのファイルをバイナリ形式で複製および配布するための非独占的で譲渡不能な、制限された使用権を許諾します。

また、一覧のヘッダファイルおよびクラスライブラリは、複製および配布されたバイナリファイルと Sun のソフトウェア API とのインターフェイスを可能にすることのみを目的として、コピーおよび使用できますが、修正はできません。

コーディング例は、前述のバイナリファイルの作成に従って参照することのみを目的として提供されています。

Calendar Server 用の再配布可能なファイルはすべてプラグイン API 用で、CSAPI と呼ばれます。API については、次の場所にある『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Developer's Guide』に説明があります。

`http://docs.sun.com/coll/1370.1?l=ja`

以下のファイルでは、`cal_svr_base` は Calendar Server がインストールされたディレクトリです。Solaris のデフォルトは `/opt/SUNWics5/cal` 、Linux のデフォルトは `/opt/sun/calendar` です。

再配布可能なファイルは、`cal_svr_base/csapi` の次のサブディレクトリにあります。

- 39 ページの「authsdk」
- 39 ページの「bin」
- 39 ページの「classes」
- 40 ページの「include」
- 40 ページの「plugins」
- 41 ページの「samples」

authsdk

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/authsdk/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
cgiauth.c
expapi.h
login.html
nsapiauth.c
```

bin

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/bin/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
libcsapi_xpcom10.so
libicsexp10.so
```

classes

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/classes/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
ens.jar
jms.jar
```

include

次にこのサブディレクトリ (cal_svr_base/csapi/include/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
IIDS.h
csIAccessControl.h
csIAuthentication.h
csICalendarDatabase.h
csICalendarLookup.h
csICalendarServer.h
csIDBTranslator.h
csIDataTranslator.h
csIMalloc.hplugins
csIPlugin.h
csIQualifiedCalidLookup.h
csIUserAttributes.h
mozIClassRegistry.h
mozIRegistry.h
nsAgg.h
nsCOMPtr.h
nsCRT.h
nsCom.h
nsDebug.h
nsError.h
nsHashtable.h
nsIAtom.h
nsICaseConversion.h
nsICollection.h
nsID.h
nsIEnumerator.h
nsIEventQueueService.h
nsIFactory.h
nsIPtr.h
nsIServiceManager.h
nsIServiceProvider.h
nsISizeOfHandler.h
nsISupports.h
nsISupportsArray.h
nsMacRepository.h
nsProxyEvent.h
nsRepository.h
nsString.h
nsTraceRefcnt.h
nsVector.h
nsUnicharUtilCIID.h
nsXPComCIID.h
nsXPComFactory.h
nscore.h
pasdisp.h
publisher.h
subscriber.h
xcDll.h
xcDllStore.h
```

plugins

このディレクトリ (cal_svr_base/csapi/plugins/) では、次のサブディレクトリに再配布可能なファイルがあります。

- 40 ページの「accesscontrol」
- 40 ページの「authentication」
- 41 ページの「datatranslator」
- 41 ページの「userattributes」

accesscontrol

次にこのサブディレクトリ (cal_svr_base/csapi/plugins/accesscontrol/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csAccessControl.cpp
csAccessControl.h
csAccessControlFactory.cpp
```

authentication

次にこのサブディレクトリ (cal_svr_base/csapi/plugins/authentication/) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csAuthentication.cpp
csAuthentication.h
csAuthenticationFactory.cpp
```

datatranslator

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/plugins/datatranslator/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csDataTranslator.cpp
csDataTranslator.h
csDataTranslatorFactory.cpp
```

userattributes

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/plugins/userattributes/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csUserAttributes.cpp
csUserAttributes.h
csUserAttributesFactory.cpp
```

samples

このディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/samples/`) では、次のサブディレクトリに再配布可能なファイルがあります。

- 41 ページの「authentication」
- 42 ページの「datatranslator」
- 42 ページの「ens」
- 42 ページの「userattributes」

authentication

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/samples/authentication/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
authlogon.c
authlogon.h
authtest.c
csAuthenticationLocal.cpp
csAuthenticationLocal.h
csAuthenticationLocalFactory.cpp
```

datatranslator

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/samples/datatranslator/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csDataTranslatorCSV.cpp
csDataTranslatorCSV.h
csDataTranslatorCSVFactory.cpp
```

ens

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/samples/ens/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
apub.c
asub.c
rpub.c
rsub.c
```

userattributes

次にこのサブディレクトリ (`cal_svr_base/csapi/samples/userattributes/`) に含まれる再配布可能なファイルを示します。

```
csUserAttributesDB.cpp
csUserAttributesDB.h
csUserAttributesDBFactory.cpp
```

第 2 章

Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 リリースノート

Version 6 2005Q4

このリリースノートには、Sun Java™ System Messaging Server 6 2005Q4 のリリース時点で利用可能な重要な情報が含まれています。ここでは、新機能、拡張機能、既知の問題と制限、およびその他の情報について説明します。Messaging Server 6 2005Q4 を使い始める前に、本書をお読みください。

注 – このマニュアルで述べる外部 Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生したいかなる損害や損失についても、Sun は直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- 44 ページの「リリースノートの改訂履歴」
- 44 ページの「Messaging Server 6 2005Q4 について」
- 44 ページの「このリリースの新機能」
- 48 ページの「要件」
- 52 ページの「インストールに関する注意事項」
- 54 ページの「互換性に関する問題」
- 56 ページの「Messaging Server 6 2005Q4 のマニュアルの更新」
- 58 ページの「このリリースで修正されたバグ」
- 67 ページの「既知の問題と制限事項」
- 76 ページの「再配布可能なファイル」

このリリースノートにあるサードパーティーの URL を参照すると、追加および関連情報を入手できます。

リリースノートの改訂履歴

表 2–1 Sun Java System Messaging Server の改訂履歴

日付	変更の説明
2005 年 7 月	Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 のベータリリース
2005 年 10 月	Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 の最終リリース
2006 年 3 月	『*Sun Java System Messaging Server* 管理ガイド』に対するドキュメント更新の一覧を追加。

Messaging Server 6 2005Q4 について

Messaging Server は、ユーザー数を数千から数百万に拡大することができる、高性能で安全性の高いメッセージングプラットフォームです。ユーザー認証、セッション暗号化、およびスパムやウィルスを防ぐための適切なコンテンツフィルタリングによって通信の完全性を保証する、幅広いセキュリティー機能を備えています。Messaging Server をご使用いただくと、企業やサービスプロバイダは、信頼性の高いセキュアなメッセージングサービスを従業員、パートナ、顧客のコミュニティー全体に提供できます。

Messaging Server は、オープンインターネット規格を使用することで、あらゆる規模の企業およびメッセージングホストの電子メールニーズに対応する、強力で柔軟性のあるソリューションを提供します。

このリリースの新機能

Messaging Server 6 2005Q4 リリースに追加された新機能や拡張機能は、次のとおりです。

- **Communications Services Delegated Administrator** は、Messaging Server および Sun Java System Calendar Server (Calendar Server) のユーザーのプロビジョニングに推奨される機能です。詳細については、第 4 章を参照してください。
- **Access Manager (旧 Identity Server)** サービス は、Messaging および Calendar Server の LDAP ユーザーエントリのプロビジョニング機能を提供します。Access Manager サービスインタフェースで入力の検証が可能になりました。詳細については、`http://docs.sun.com/app/docs/coll/1367.1?l=ja` を参照してください。
- **MTA** の新機能

`MISSING_RECIPIENT_POLICY` MTA オプションのデフォルト値が、2 (エンベロープ受信者リストを「宛先:」フィールドに追加) から 1 (受信者なし条件を無視) に変更されました。Messaging Server は RFC 2822 に準拠するようになりました。

MTA は、同じセマンティクスで複数の LDAP 属性を処理できるようになりました。属性が受ける扱いは、セマンティクスによって異なります。可能なオプションには次のものがあります。

- 複数の異なる属性は無意味であり、ユーザーのエントリは無効になります。このバージョンの Messaging Server で特に指定されていない限り、この処理がデフォルトになります。
- 複数の異なる属性を指定した場合、無作為に 1 つが選択され使用されます。LDAP_SPARE_3 は、このリリースでこのように処理される唯一の属性です。このリリースよりも前のリリースではすべての属性がこのように処理されました。
- 複数の異なる属性は意味をなし、同等に処理する必要があります。この処理は、現在 LDAP_CAPTURE、LDAP_MAIL_ALIASES、および LDAP_MAIL_EQUIVALENTS に有効です。

MTA は、異なる言語タグを持つ複数の LDAP 属性値から選択し、使用する正しい値を判断できるようになりました。有効な言語タグは、エンベロープ From アドレスに関連付けられた優先言語情報と比較されます。現時点でこの扱いを受ける属性は、LDAP_AUTOREPLY_SUBJECT (通常は mailAutoReplySubject)、LDAP_AUTOREPLY_TEXT (通常は mailAutoReplyText)、LDAP_AUTOREPLY_TEXT_INT (通常は mailAutoReplyTextInternal)、LDAP_SPARE_4、および LDAP_SPARE_5 だけです。

Sieve エラーは、LOG_FILTER を有効にすると、そのように mail.log に記録されるようになりました。

使用中のトランスポートプロトコルのタイプ (SMTP/ESMTP/LMTP) がログに記録されるようになり、その情報がさまざまなアクセスマッピング用として利用可能になりました。次の 2 つの新しい修飾子文字がセットに追加されました。これらは、mail.log* ファイルのアクションインジケータの後に現れる可能性があります。

E - EHLO コマンドが発行され、受け入れられたため、ESMTP が使用された

L - LMTP が使用された

これまで現れる可能性のあった修飾子文字は、A (SASL 認証が使用された) と S (TLS/SSL が使用された) だけでした。加えて、$E フラグと $L フラグが、必要に応じてさまざまな *_ACCESS マッピングに対して設定されます。

スパムフィルタから返された結果に一致させる文字列内で、ワイルドカードが使えるようになりました。

imsimta encode は、次の 3 つの新しいスイッチをサポートします。

-disposition=VALUE コンテンツ処置を指定された VALUE に設定する

-parameters=NAME=VALUE 1 つまたは複数の追加コンテンツタイプパラメータとその値を指定する -dparameters=NAME=VALUE 1 つまたは複数の追加コンテンツ処置パラメータとその値を指定する

DOMAIN_UPLEVEL MTA オプションのビット 4 (値 16) が、アドレスリバーサルリライティングを制御するために使用されるようになりました。

(1) アドレスが mailEquivalentAddress の場合にスキップされる (ビットクリア)

(2) アドレスが mailAlternateAddress の場合にのみ実行される (ビットセット)

[envelope_from] 非定位置エイリアスパラメータとして、定位置エイリアスパラメータへのエラーとして、または mgrpErrorsTo LDAP 属性の値として指定された (/) が、メーリングリストのセマンティクスを維持しつつ受信メッセージの元のエンベロープ送信元アドレスを使用する要求として解釈されるようになりました。これは、すべての形式のリストエラーを元の送信者に報告するようなメーリングリストを設定する際に便利です。

ジョブコントローラのディレクトリ検索が更新されました。ジョブコントローラは、キューディレクトリ内のすべてのファイルを見つかった順に読み取る代わりに、いくつかのチャネルキューディレクトリを一度に読み取ります。これにより、起動時、再起動時、および max_messages 超過時の動作が、非常に妥当性のあるものになります。一度に読み取られるディレクトリの数は、ジョブコントローラのオプション Rebuild_Parallel_Channel によって制御されます。このオプションは 1 から 100 までの任意の値を取ることができます。デフォルトは 12 です。

Sieve インタプリタは、応答メッセージが通知アクション、不在通知アクションのいずれによって生成されたかを追跡し、その情報を必要に応じてログに記録するようになりました。

job_controller に省略可能な Rebuild_In_Order パラメータが追加されました。これが 0 以外の値に設定された場合、ジョブコントローラは起動時に、以前に試行されなかった (ZZ*) メッセージを、作成された順番で配信キューに追加します。以前の (そしてデフォルトの) 動作は、メッセージをディスク上で見つかった順番で追加することでした。この場合、キューを順番に作成し直すことに関係するコストが発生します。

要求された不在通知応答が送信されないことに対するいくつかの追加理由が、ログに記録されるようになりました。

推奨されなくなった機能

次の各機能のサポートは、将来のリリースでは削除される可能性があります。

Messenger Express と Calendar Express

この先、Messenger Express および Calendar Express ユーザーインタフェースに新しい機能は追加されません。新しい Communications Express ユーザーインタフェースが追加されたため、Messenger Express および Calendar Express の使用は推奨されていません。Sun Microsystems, Inc. は Messenger Express および Calendar Express を廃止する時期を発表する予定です。

次の各バグは、非推奨の Messenger Express 製品に影響します。

「上へ」と「下へ」ボタンが削除された。**(バグ ID なし)**

フィルタのソート方法を指定する「上へ」と「下へ」ボタンが削除されました。

『**Messenger Express Customization Guide**』でハッシュ作成ディレクトリを参照しない **(6190726)**

このマニュアルでは、次の場所で利用可能な ispell ソースファイルが参照されるべきでした。http://www.gnu.org/software/ispell/ispell.html。

プロキシサーバー設定を使用していると、**Internet Explorer 6** で **Messenger Express** に障害が発生する場合がある。**(4925995)**

回避策

Internet Explorer のエンコードメニューの「自動選択」を有効または無効にします。サーバーに直接接続するか、別のプロキシサーバーに切り替えてください。

「詳細メールフィルタ条件」ウィンドウから機能が削除された。**(4908625)**

フィルタのタイムフレームを指定する機能は、Messaging Server 6.0 パッチ 1 リリースの「詳細メールフィルタ条件」ウィンドウ (「メールフィルタ」ユーザーインタフェースの) から削除されました。この機能は、配下のサポートを利用できないために削除されました。

既存のグループ内にグループを作成すると、次のエラーが発生する。
pab::PAB_ModifyAttribute:ldap error (No Such object).(4883651)

ローカライズされた **Messenger Express** が、**Outlook Express** によって作成されたフォルダのいくつかをマージしない。**(4653960)**

Messenger Express のデフォルト「送信済み」フォルダを Outlook Express で作成した「送信済みアイテム」フォルダと置き換えたいことがあります。このため、両方のクライアントから送信されたすべてのメッセージは、「送信済みアイテム」フォルダにコピーされます。この処理は、特に日本語版では簡単ではありません。

回避策

1. 日本語版の `i18n.js` を編集して、Outlook Express の「送信済みアイテム」の翻訳と一致させます。

```
i18n['sent folder IE'] = 'soushinzumiaitemu'
fldr['Sent Items'] = 'soushinzumiaitemu'
```

2. 一般ユーザーは、最初に Outlook Express を使って Messaging Server にログインする必要があります。

Directory Server 5.1 以降では、個人アドレス帳の単一の連絡先に複数の電子メール **ID** を入力できない。**(4633171)**

Directory Server の適切な動作です。複数の電子メール ID を入力できるのは、Netscape Directory Server 4.x の問題が原因です。

管理コンソール

Sun Java System 管理コンソールは、推奨されなくなり、将来のリリースでは Messaging Server 製品から削除されます。

次の各バグは、非推奨の管理コンソール製品に影響します。

Red Hat Linux プラットフォームで管理コンソールを起動できない。**(6215646)**

Red Hat Linux 3.x では、管理コンソールを起動できません。管理コンソールで Messaging Server ノードまたは「開く」ボタンをクリックしても、何も起こりません。Red Hat Linux 2.x では、コンソールは起動されますが、「証明書の管理」ボタンが表示されません。

管理コンソールからサービスを起動/停止できない **(6215105)**

IMAP、POP、MTA、および HTTP サービスを管理コンソールから停止できません。最終的にはコンソールが停止します。このバグは、次回のパッチリリースで修正されます。

Administration Server コンソールは、**SSL** モードに事前設定された **Messaging Server** を認識しない。**(5085667)**

SSL を使用するように Messaging Server を事前設定した場合に、Administration Server コンソールから Messaging Server の設定にアクセスする場合は、コンソールはインストールされた証明書を認識しません。Administration Server コンソールは、新しいキーデータベースの作成を試みます。

回避策

管理コンソールを使用する前に、次のようにして SSL 証明書のシンボリックリンク (symlink) を、`<`*msg-svr-root*`>/config` 領域から `<admin-server-root>/alias` 領域へ作成します。

- `<`*msg-svr-root*`>/config/cert8.db` (または `cert7.db`) から `<`*admin-server-root*`>/alias/msg-config-cert8.db` (または `msg-config-cert7.db`) へ
- `<`*msg-svr-root*`>/config/key3.db` から `<`*admin-server-root*`>/alias/msg-config-key3.db` へ

(Linux) オンラインヘルプを開こうとすると、**Messaging Server** コンソールにエラーが表示される。**(5054732)**

管理コンソールからユーザーを作成できない **(4852026** および **4852004)**

Messaging Server では、管理コンソールを使用してユーザーまたはグループを作成することができなくなりました。ユーザーエントリとグループエントリは、ユーザー管理ユーティリティーを使用して作成する必要があります。管理コンソールを使用して作成したユーザーとしてログインするか、そのようなユーザーにメールを送信すると、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Quota root does not exist

4.0.0 temporary error returned by alias expansion: . . .
```

Netscape ブラウザのサポート

将来のある時点で、Netscape ブラウザのサポートが Firefox ブラウザのサポートに置き換わります。

要件

ここでは、このリリースの Messaging Server に対する次のプラットフォーム、クライアント製品、およびソフトウェアの追加要件について説明します。

- 49 ページの「重要なパッチ情報」

- 49 ページの「対応プラットフォーム」
- 50 ページの「クライアントソフトウェアの要件」
- 50 ページの「製品のバージョン間の互換性に関する要件」
- 51 ページの「Messaging Server の Administration Server の使用」
- 51 ページの「ソフトウェアの追加要件」
- 52 ページの「ファイルシステム」

注 – 以前のバージョンの Messaging Server から Messaging Server 6 2005Q4 へのアップグレードの詳細については、52 ページの「インストールに関する注意事項」を参照してください。

重要なパッチ情報

Sun Java System Messaging Server の最新の必須パッチの一覧を参照するには、`http://sunsolve.sun.com` にアクセスし、「パッチ」または「パッチ・サポート・ポータル」のいずれかを選択します。オペレーティングシステムのパッチ要件が変わり、Java Enterprise System コンポーネントのパッチが利用できるようになると、SunSolve から、最初は推奨するパッチクラスタの形で更新機能が提供されます。

対応プラットフォーム

今回のリリースは、次のプラットフォームに対応しています。

- Solaris 8 Operating System + 必須パッチ (SPARC® プラットフォーム版)
- Solaris 9 Operating System Update 2 + 必須パッチ (SPARC および x86 プラットフォーム版)
- Solaris 10 Operating System + ゾーンのサポート (SPARC および x86 プラットフォーム版)
- Red Hat Linux 2.1 Update 2 (またはそれ以降のアップデート)
- Red Hat Linux 3.0 Update 1 (またはそれ以降のアップデート)

必須アップグレードパッチやカーネルバージョンなど、Solaris と Linux の要件の詳細については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』および『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Release Notes』を参照してください。

Messaging Server のパッケージの一覧を参照するには、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』の付録 A「Java ES Components for This Release」を参照してください。

注 – Java Enterprise System インストーラは、必須プラットフォームパッチの有無をチェックします。すべての必須パッチをインストールする必要があります。そうしないと、インストール処理は続行されません。

注 – Messaging Server のパフォーマンスは、CPU のパワー、使用可能なメモリー、ディスク容量、ファイルシステムのパフォーマンス、使用パターン、ネットワークの帯域幅など、さまざまな要因によって左右されます。たとえば、スループットはファイルシステムのパフォーマンスに直接関連します。サイズ決定やパフォーマンスについて質問がある場合には、Sun Java System のご購入先に連絡してください。

必須パッチ

Messaging Server のパッチの詳細については、`http://sunsolve.sun.com` を参照してください。

クライアントソフトウェアの要件

Communications Express が Messaging Server にアクセスするには、JavaScript 対応ブラウザが必要です。最適なパフォーマンスを得るには、この節に示したブラウザを推奨します。

表 **2–2** Messaging Server 6 2005Q4 の推奨クライアントソフトウェア

ブラウザ	**SPARC 版 Solaris 8、SPARC/X86 版 Solaris 9、SPARC/X86 版 Solaris 10**	**Windows 98**	**Windows 2000**	**Windows XP**	**Red Hat Linux 7.2**	**Macintosh OS** *X*
Netscape™ Communicator	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1
Internet Explorer	N/A	6.0 SP1 以降	6.0 SP1 以降	6.0 SP2	N/A	N/A
Mozilla™	1.4	1.5 以降	1.5 以降	1.5 以降	1.5 以降	1.5 以降

製品のバージョン間の互換性に関する要件

この節では、Messaging Server と互換性がある製品のバージョンを示します。

表 **2–3** 製品のバージョン間の互換性に関する要件

製品	バージョン
Sun Cluster	3.1
Veritas Cluster Server	1.3、2.0、3.5、4.0
Sun Java System Directory Server	5.1、5.2

表 2–3 製品のバージョン間の互換性に関する要件　(続き)

製品	バージョン
Sun Java System Access Manager (旧 Identity Server)	「互換 **(6.x)**」: Access Manager 6 コンソールやディレクトリ情報ツリー (DIT) など、Access Manager 6 の機能をサポートします。Access Manager のほかに Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、Delegated Administrator、または Instant Messaging をインストールする場合には、Access Manager の「互換 (6.x)」インストールタイプを選択する必要があります。 「拡張 **(7.x)**」: 新しい Access Manager 7 コンソールなど、Access Manager 7 の機能をサポートします。Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、Delegated Administrator、または Instant Messaging をインストールしない場合にのみ、「拡張 (7.x)」インストールタイプを使用してください。
Sun Java System Web Server	6.1
Sun Java SystemApplication Server	7.x および 8.x

NSS バージョン要件

Messaging Server 6 2005Q4 には、共有セキュリティーコンポーネントの NSS バージョン 3.9.3 を使用する必要があります。

製品バージョンの依存関係の詳細については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』および『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Release Notes』を参照してください。

Messaging Server の Administration Server の使用

Messaging Server は、次の目的で Administration Server を使用します。

- Messaging Server の管理にコンソールを使用する場合は、同じマシンで Administration Server が稼動している必要があります。
- Messaging Server を設定すると、Messaging Server は Administration Server の設定ファイルを読み取ります。ただし、これを行うために Administration Server が稼動している必要はありません。

ソフトウェアの追加要件

Messaging Server の本稼働配備では、高性能キャッシュを使用する DNS サーバーがローカルネットワークに必要です。Messaging Server のパフォーマンスは、DNS サーバーの応答性とスケーラビリティーに大きく依存します。

また、DNS が適切に設定されており、ローカルサブネット上にないホストへのルーティングが明確に指定されていることを確認してください。

- `/etc/defaultrouter` には、ゲートウェイシステムの IP アドレスを記述する必要があります。このアドレスはローカルサブネット上に存在する必要があります。

- /etc/resolv.conf が存在し、アクセス可能な DNS サーバー用の適切なエントリとドメインサフィックスが含まれている必要があります。
- /etc/nsswitch.conf では、hosts: 行に files、dns、nis キーワードを追加します。キーワード files は dns と nis の前に記述する必要があります。
- 完全修飾ドメイン名が /etc/hosts ファイル内の最初のホスト名であることを確認してください。

/etc/hosts ファイル内のインターネットホストテーブルが次のように表示される場合、

```
123.456.78.910 budgie.west.sesta.com
123.456.78.910 budgie loghost mailhost
```

ホストの IP アドレスの行が 1 行だけになるように変更します。最初のホスト名は、完全指定ドメイン名にしてください。次に例を示します。

```
123.456.78.910 budgie.west.sesta.com budgie loghost mailhost
```

ファイルシステム

メッセージストアには次のファイルシステムを推奨します。

- **LUFS (Logging UFS)**。
- **VxFS (Veritas File System)**。Veritas ファイルシステムは、正しく設定すれば、高いシステムパフォーマンスを示します。VxVM (Veritas Volume Manager) を使用する場合は、ボリュームと、ボリュームのログファイルが定期的に削除されるように設定されているか確認してください。
- **HAStoragePlus** ファイルシステム (Sun Cluster インストール用)。HAStoragePlus ファイルシステムは、デフォルトの Sun Cluster グローバルファイルシステムよりも高いパフォーマンスを示します。
- **NFS (Network File System)**

  NFS は、MTA リレーマシン上で使用したり、LMTP 用、自動返信履歴用、メッセージデフラグ用として使用したりできます。(『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照。)さらに、NFS は、メッセージストアだけでなく BSD スタイルのメールボックス (/var/mail/) 上でもサポートされます。

  さらに、NFS は NAS と互換性があります。

インストールに関する注意事項

次のインストールに関する注意事項は、Messaging Server 6 2005Q4 リリースに関するものです。

Messaging Server のインストールの概要

Java Enterprise System 2005Q4 インストーラを使用して、Messaging Server をインストールします。

インストール手順については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』を参照してください。

次に、次のようにして Messaging Server を設定する必要があります。

- Directory Server Preparation Tool の `comm_dssetup.pl` を実行します。
- Messaging Server 設定プログラムを実行します。

設定手順については、『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください

Messaging Server のアップグレード手順

以前のリリースから Messaging Server 6 2005Q4 にアップグレードする場合は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Release Notes』および『Sun Java Enterprise System 2005Q4 アップグレードガイド』のアップグレード手順に従ってください。

`/etc/hosts` ファイルエントリのチェック

Messaging Server を初めてインストールする場合、または Messaging Server の以前のバージョンからアップグレードする場合は、Solaris システムの `/etc/hosts` ファイルに次のエントリがあるようにします。

<*ip-of system*> `<FQHN>` `<hostname>`

例: `129.158.230.64 budgie.siroe.varrius.com budgie`

注 – Solaris 10 プラットフォームでは、完全修飾ドメイン名 (FQDN: Fully Qualified Domain Name) を `/etc/hosts` ファイルにのみでなく、`/etc/inet/ipnodes` ファイルにも追加する必要があります。そのようにしない場合、ホスト名が完全修飾ドメイン名でないことを示すエラーが返されます。

互換性に関する問題

次の表は、Messaging Server の互換性に関する問題についてまとめたものです。

非互換性	回避策	コメント
Access Manager には現在、2 つのインストールタイプがあります。「レルム」(バージョン 7.x のスタイル) と「レガシー」(バージョン 6.x のスタイル) です。	Access Manager のほかに Messaging Server、Calendar Server、Instant Messaging、Delegated Administrator、または Portal Server もインストールする場合、レガシーモード (バージョン 6.x のスタイル) を選択する必要があります。次を参照してください。『Sun Java System Access Manager 7 2005Q4 Release Notes』	不正な Access Manager がインストールされている場合、Delegated Administrator を実行できません。
Linux プラットフォーム上では、管理コンソールが Messaging Server に対して正しく動作しません。	*msg_svr_base*/`sbin` ディレクトリ内の `stop-msg` および `start-msg` コマンドを使用します。	`stop-msg` および `start-msg` ユーティリティーの詳細については、『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。
Messaging Express Multiplexor (MEM) をバージョン JES 4 にアップグレードすると、Unified Web Client のメールボックスのデフォルト表示が変更されます。 (バグ 6275916)	回避策はありません。	追加のコメントはありません。
Messaging Server をバージョン JES 3 にアップグレードした後、管理サーバー経由で Messaging Server を起動または停止しようとすると、null ポインタ例外が発生します。 (バグ 6303859)	*msg_svr_base*/`sbin` ディレクトリ内の `stop-msg` および `start-msg` コマンドを使用します。	`stop-msg` および `start-msg` ユーティリティーの詳細については、『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

非互換性	回避策	コメント
Messaging Server 5.x では、管理者は IMAP `list` コマンドを使用してメッセージストア内のすべてのフォルダを表示できました。通常のメッセージストアでは、これによりサーバーが非常に長い一覧を表示する原因になりました。 Messaging Server 6.x では、管理者が IMAP `list` コマンドを実行すると、明示的に共有されたフォルダのみが表示されます。	メッセージストア内のすべてのフォルダの一覧を表示するには、`mboxutil` ユーティリティーを使用します。	`mboxutil` ユーティリティーの詳細については、『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。
Sun Java System Access Manager (旧 Identity Server) が提供するシングルサイオン (SSO) 機能を推奨しますが、Messaging Server は現在でも以前のバージョンのシングルサインオンもサポートしています。	回避策はありません	SSO や Access Manager の詳細については、次を参照してください。`http://docs.sun.com/app/docs/coll/1367.1?l=ja`。
このリリースの Communications Express は、Calendar Server の 2004Q2 バージョンと互換性がありません。	Communications Express をアップグレードする場合、Messaging Server もアップグレードする必要があります。	このことは Calendar Server にも当てはまります。 Communications Express の詳細については、第 5 章を参照してください。
Communications Services Delegated Administrator のコンソールおよびユーティリティー (`commadmin`) は、Access Manager と互換性がある LDAP ディレクトリで Messaging Server ユーザーをプロビジョニングするのに推奨するメカニズムです。	Access Manager サービスを使ってユーザーやグループのエントリのプロビジョニングを行うことも可能ですが、Access Manager を使用した場合の結果は予測不可能であり、配備に悪影響が及ぶ可能性があります。代わりに Communication Services の Delegated Administrator を使用してください。	Delegated Administrator の詳細については、第 4 章を参照してください

非互換性	回避策	コメント
Messenger Express と Communications Express については、RTF/HTML 編集とブラウザとの互換性の確認が必要になります。 (バグ 6311363)	Messenger Express の場合、Internet Explorer ブラウザでは RTF/HTML 編集を使用できます。Mozilla ブラウザまたは Netscape ブラウザでは RTF/HTML 編集を使用できません。 JES 2 バージョンの Communications Express の場合、Internet Explorer ブラウザでは RTF/HTML 編集を使用できます。Mozilla ブラウザまたは Netscape ブラウザでは RTF/HTML 編集を使用できません。 JES 3 バージョンの Communications Express の場合、Internet Explorer 5.5 以降、Mozilla 1.3 以降、または Netscape 7.2 以降で RTF/HTML 編集を使用できます。	追加のコメントはありません。

Messaging Server 6 2005Q4 のマニュアルの更新

ここでは、Messaging Server 6 2005Q4 のマニュアルセットのマニュアルの更新について説明します。

次の各更新は、『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』に対するものです。

- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の「Configure プログラムを実行するには」(第 1 章の節) で、DNS が正しく設定されるように手順 1 が更新されました (6376696)。
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の「ユーザーメールボックスを別の Messaging Server にオンラインのままで移行」(第 2 章の節) で、手順に情報が追加されました。
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の「Messenger Express Multiplexor を使用するバックエンドメッセージングサーバーのポートを設定するには」(第 7 章の手順) で、`local.service.proxy.port` が `local.service.HTTP.proxy.port` に変更されました。
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の「複数のアドレスを処理する方法を制御する」(第 12 章の節) で、`single` チャネルキーワードに関する次の文章が追加されました。「`tcp_*` チャネルでの `single` の使用は推奨されていません。なぜなら、それによってジョブコントローラによるトラフィックの管理方法が変更され、通常の SMTP シナリオに適さなくなるからです。」

- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の「LMTP を使って受信 MTA リレーを設定するには、次の手順に従います。」(第 15 章の手順) が、修正および更新されました。
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の第 17 章「メールのフィルタリングとアクセス制御」で、表 17-3「PORT_ACCESS マッピングフラグ」の「`$T` テキスト」に対する説明文が変更されました (6342679)。
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の「自動メッセージ削除ポリシーを実装するルールを設定するには」(第 18 章の手順) で、 `Rule1.folderpatten` が `Rule1.folderpattern` に変更されました。さらに、正規表現の読み取りを有効にするための 2 行が、例に追加されました。
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の「有効期間ルールのガイドライン」(第 18 章の節) で、次の文章が追加されました。「`rule_name` を使用した複数の非グローバルルール (ユーザー、フォルダ、パーティション) は Messaging Server 6.2p4 リリース以降でしか実装されていないことに注意してください。」(6326879)
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』の第 21 章「ログの管理」の表 21-2 「ログエントリのコード」に、新しいログエントリコード `V` が追加されました。これは、トランザクションが異常終了するたびに現れます。

S/MIME 署名および暗号化機能は、**Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4** リリースの **Communications Express Mail** に採用されました。

署名および暗号化機能の管理の詳細については、『Messaging Server 管理ガイド』を参照してください。

添付ファイルの保存方法は、ファイルが添付されているメッセージのタイプによります。メッセージに S/MIME 署名が付いている、メッセージが暗号化されている、またはこの両方の場合、手順 1 に従って添付ファイルを保存します。メッセージが S/MIME 機能を使用しない場合は、手順 2 を使用します。

手順 **1 — S/MIME** を使用するメッセージの添付ファイルの保存

S/MIME 機能を使用するメッセージの添付ファイルを保存するには、次の手順に従います。

1. メッセージヘッダー内の添付ファイルの名前をクリックします。
2. 「保存」ダイアログボックスが表示されます。「ファイル名」フィールドで、保存する添付ファイルの名前を入力します。
3. 「保存」をクリックします。

手順 **2 – S/MIME** を使用しないメッセージの添付ファイルの保存

S/MIME 機能を使用しないメッセージの添付ファイルを保存するには、次の手順に従います。

1. ブラウザの「名前を付けて保存」機能を使用して、添付ファイルを保存します。または、メッセージヘッダーで添付ファイルの名前を右クリックします。(GIF または JPEG ファイルの場合は、メッセージの本文中に表示されるので、その画像を右クリックする。)

2. ダイアログボックスで「保存」をクリックします。または、ドロップダウンメニューから「対象をファイルに保存」を選択します。
3. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。「ファイル名」フィールドで、保存する添付ファイルの名前を入力します。
4. 「保存」をクリックします。

Messaging Server の追加情報については、次節と次々節に記載された Messaging Server 6 2005Q4 のマニュアルを参照してください。

Messaging Server のマニュアル

Messaging Server 6 2005Q4 のすべてのマニュアルを参照するには、次の URL にアクセスしてください

`http://docs.sun.com/coll/1375.1?l=ja`

Messaging Server 6 2005Q4 の新規マニュアルと更新済みマニュアルは、次のとおりです。

- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 Administration Reference』
- 『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 MTA Developer's Reference』

Communications Services のマニュアル

Communications Services 6 2005Q4 関連製品のマニュアルを参照するには、次の URL にアクセスしてください。

`http://docs.sun.com/app/docs/coll/1375.1?l=ja` または
`http://docs.sun.com/app/docs/coll/1370.1?l=ja`

次のマニュアルが使用できます。

- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Documentation Center』
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Delegated Administrator 管理ガイド』
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Schema Migration Guide』
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Schema Reference』
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Event Notification Service Guide』
- 『Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 管理ガイド』
- 『Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 Customization Guide』

このリリースで修正されたバグ

この節では、前回の Messaging Server リリースノートで既知の問題として記載されていたバグのうち、Messaging Server 6 2005Q4 リリースで修正されたものについて説明します。

このリリースで修正されたバグの完全な一覧は、Messaging Server のコアソフトウェアパッチとともに配布された README ファイルを参照してください。

4896267 メールボックスの名前が無効であってもデフォルトのログにエラーが記録されない。

4962377 日本語ログレコードに承認情報が含まれるようになった。

4974428 パッケージがデフォルトの `BASEDIR/opt` を持つ。

4985907 日本語配信レコードが壊れている。

4987384 `SunONE_MsgSvr` スクリプトが不要な `-n` をエコーする。

5048159 断片化したサイズの大きなメールボックス上で `STATUS` コマンドの速度が遅くなる。

5060566 `job_controller.cnf` 内で、`hold` チャネルに対する `master_command` が見つからない。

5060638 フランス語のローカライズ: 「Mettre a jour」ラベルでアクセントではなく「&_agrave;」が付加される。

5064300 フォルダ/サブフォルダの数を制限するのに設定オプションが必要となる。

5091535 `tcp_smtp_server` が LDAP over SSL でコアダンプする。

5098299 Communications Express からのログアウト中に、`amSession` ログに通知失敗エラーが記録される。

5100202 「アドレスの追加:」で個人用アドレス帳に追加されないエントリが存在する。

5104279 Return job が優先度が「緊急」のメッセージを認識しない。

5106562 不正なコマンドによって `imsimta qm` がコアダンプする可能性がある。

6183650 `tcp_smtp_server` のパフォーマンス問題 (CPU 使用率 100%)。

6184095 アップグレードスクリプトは `autoreply` チャネルを非推奨にすべきである。

6186334 S/MIME: アプレットの HTTP 接続が失われた際に WMAP コマンドの再試行が発生する。

6191074 フォルダごとのメッセージやログメッセージの実際の個数に対する要求制限がある。

6196349 ヘッダーの制約を使って有効期限ルールを設定すると、コンソールがハングアップする。

6196879 ワイヤログイン ID 経由でのユーザーオリジナルが MMP ログ出力に含まれる。

6198129 ユーザーが制限容量を超えたときの制限容量バーが正しくない。

6199242 アクセント付きのメッセージが正しく表示されない。

6200132 要求された優先度で SMIME メッセージが送信されない。

6200692 個人用フォルダから共有フォルダへの RENAME 操作は成功するが、ユーザーがそのフォルダを表示できない。

6202176 `imsbackup` がユーザー定義フラグをバックアップしない。

6202779 `ims_info_get_core` が詳細なエラー報告を提供しない。

6203551 SPARC から x86 に復元する際にシステムフラグが復元されない。

6204204 Content-Length を無視するように `imsimport` に `-i` オプションを追加する。

6204294 共有フォルダをクリックしてから受信箱をクリックすると、JavaScript エラーが発生する。

6204409 メール転送先アドレスを入力しなくてもメール転送を設定できる。

6204911 `msprobe` がメッセージを `imta` ログファイルに記録し、`imexpire -m` がコアダンプする。

6205866 `imsimport` が、From_ line に含まれる新しい先頭の 2 行をチェックしていない。

6205957 `service.readtimeout` がデフォルトで 30 に設定されるべきである。

6206104 不正な `store.sub` の修正に `reconstruct` (または何らかのツール) が必要となる。

6206193 複数のパッケージが同一のバイナリを `SUNWmsgwm` と `SUNWmsges` に提供する。

6207499 `mboxutil -o` コマンドを中断できない。

6207512 しきい値を超えた場合、`imsrestore` は 2 回目の試行時に受信箱を復元する。

6207518 `mboxutil -d` が未知のコード __9F 242 を返す。

6207865 プロセスの終了を待つ `stored` のタイムアウトは有限でなければならない。

6209210 SMTP と組み合わせた場合、`immonitor-access` による IMAP 時間の計算が間違っているようにみえる。

6209318 SNMP サブエージェントの起動が失敗する。

6211683 メールのタブからほかのタブに移動すると、フォルダツリーが表示されなくなる。

6211969 sleepycat トランザクションが失敗したときにメモリーが壊れる場合がある。

6212021 `reconstruct -m` から制限容量の修正が報告されるが、実際には修正されていない。

6212408 壊れたメールボックスを開くとメモリーリークが発生する。

6212524 メールボックスが壊れていると、`reconstruct` でメモリーリークが発生する。

6213176 ユーティリティーは、ワッチャーが実行されていないことを、ユーザーに通知するとともに、ログにも記録すべきである。

6214039 `spamfilterXoptin` が壊れている。

6214056 解析不可能なアドレスヘッダーフィールドをエンコードする。

6214098 `mboxutil` の使用法の修正: `-d` オプションのエントリが重複しており、`-P` が `-d` の有効なパラメータとして記載されていない。

6214559 ユーザーが「詳細メッセージヘッダーの表示」をクリックすると、未開封メッセージのカウント数が表示されなくなる。

6214941 接続ユーザーが存在しないときに、`imsconnutil -c` がストア緊急エラーをログに記録する。

6215105 Messaging Server コンソールからサービス (IMAP/POP/MTA/HTTP) を起動または停止できない。

6215535 暗号化用の証明書の有効期限の切れていると、受信者に対して有効な署名が無効な署名として表示される。

6215928 8 ビットヘッダーをエンコードする (送信者)。

6216924 `start-msg` が、NFS 上でのテスト実行時にエラーメッセージを作成する。

6217848 `mailmessagestore` LDAP 属性が無効である場合に `ims_master` がコアダンプする。

6217929 下書きとして保存された転送対象メッセージが、転送対象の添付ファイルを失っているようにみえる。

6218016 `MAX_MESSAGES` 超過時にログメッセージが自動生成される。

6218085 メールボックス内に何も存在していない場合にメールボックスが壊れたと報告される。

6219856 5.2P2 から 6.2 へのアップグレード: プライマリパーティションパスが変更されない。

6219866 5.2P2 から 6.2 へのアップグレード: `make_mta_config_changes.sh` が、特定のコピーコマンドで失敗する。

6220293 起動がより適切なものになるような方法で、ジョブコントローラの再構築を実行する。

6221332 201 応答を避けるために ICAP 要求文字列を変更する。

6221409 Brightmail の新しいバージョンに対応するためのスパムフィルタサポートの強化。

6221971 変更後に管理コンソール経由でメッセージングサービスを再起動できない。

6222031 `URL_RESULT_CACHE_SIZE` が 0 に設定されていると、URL 結果の処理が異常終了する。

6222639 遅延メッセージのカウント中に管理エラーが発生する。

6222841 サブフォルダの作成後にフォルダを削除しようとすると、HTTP デーモンがクラッシュする。

6223834 ホスト対象ドメイン内にユーザーが存在していると、`immonitor-access -I` がコアダンプする。

6223848 `reconstruct` がキャッシュレコード内のすべての null を通知しない。

6225212 ドイツ語で起動された管理コンソールが、or に対して有効期限ルールをドイツ語で設定する。

6225252 `imsimport` が、大文字のドメイン名を使ってメールボックスを作成する。

6225506 顧客が、自動返信メッセージで `$subject` の使用を望んでいる。

6225708 iBiff での Ctrl+C キー押下時に再構築コアが生成される。

6225730 大文字と小文字を区別することが、`reconstruct` で問題を引き起こす。

6225886 `imexpire` で `-m -1` を指定すると、コアダンプが生成される

6226020 `imsimta encode -header -filename` で複数のファイルを指定すると、境界マーカーの作成が失敗する。

6226161 `/opt/SUNWmsgsr/install` に格納されたバージョンの `comm_dssetup.pl` が、Access Manager を破壊する。

6226915 `AUTH_REWRITE` 内の引数なしの `$N` が、デフォルトのエラーテキストを取得しない。

6227966 `msuserpurge` コマンドを中断できない (Ctrl+C キーが効かない)。

6228002 更新中に `imsched` がコアダンプする。

6228422 設定ファイルのアクセス権が正しくない場合に `AService` プログラムがコアダンプする

6228579 `msuserpurge -v` がすべてのユーザーエラーを表示しない。

6229781 IMAP フォルダで監査アクセス制御が変更される

6230704 SNMP が、すべてのメッセージアクセス情報に対して値 0 を表示する

6231048 `job_controller` が `addtopriorityqueue` (ETRN) でループする

6231202 ログファイル内の `Y` レコードに不要な情報が含まれる

6231361 ユーザーごとに大きな制限容量を設定しているときに問題が発生する

6231733 ヒューリスティックな解析を使って `AUTH_REWRITE` のヘッダーからアドレスを抽出する

6231993 デフラグチャネルのチャネルからメッセージが削除されない

6232090 ディスパッチャーデーモンの強制終了後、プローブテストによるディスパッチャーデーモンの再起動が失敗する

6232268 制限容量情報が利用不可能な場合、MTA からストアに「」が制限容量値として渡される

6232311 `transactionlimit` キーワードが正しく機能しない

6232802 MAIL FROM 段階で `disconnecttransactionlimit` がチェックされない

6233449 `tcp_smtp_server` と `imap` のどちらも、バグ 6235303 の問題でコアダンプする

6233479 `inetDomainSearchFilter` が設定されていない場合にドメイン内のユーザー検索フィルタを MMP が変更できるようにする必要がある

6234542 別のサーバー上のフォルダへの大きなメッセージのコピーが失敗する

6234674 文字列連結が、長すぎる追加引数を拒否しない

6234695 不正なルーチンへの呼び出しを処理しているときにスパムフィルタエラーが発生する

6235058 `overquotastatus` が有効になっている場合、`iminitquota` は `mailuserstatus` の制限容量超過をチェックおよび修復すべきである

6235382 `local.store.overquotastatus` をオンに設定しても、`quotaoverdraft` モードが自動的に有効にならない

6236243 Sieve の `setdate` サポートを整理する

6236245 Sieve 通知にサポートを追加し、新しいメッセージに元のメッセージが含まれるようにする

6237533 `mboxutil -o` で、UID の大文字、小文字が異なる LDAP エントリを持つ行方不明のメールボックスが表示されない

6238652 「Mailbox corrupted, appears truncated」という無効なエラーが、`ims_master` から発行される

6239259 メッセージの送信が拒否された場合、MTA によって間違ったメッセージサイズがログに記録される

6239614 エクスポートされたメールボックスの From 行の先頭に改行がない

6239755 SMTP 接続が中断された場合に、より詳細なログ情報が必要

6240741 フォルダの管理は、適切な ACL セマンティクスを備えた特権付きアカウントだけが行えるようにすべきである

6240796 `ims_master` はシャットダウンタイムアウトの検出時に追加の受信者を延期させるべきである

6242994 `imexpire` コマンドの終了に時間がかかりすぎる

6243696 データベースでハングアップやロックが発生したときにハングアップ状態に陥る msprobe プロセスの数が多すぎる

6243967 ストレステストを 45 分間実行した後で、データベースのハングアップやデッドロックが発生する

6244028 msprobe が SSL 専用 MMP 設定を認識しない

6244207 msprobe が SSL ポートをテストできる必要がある

6244671 certmap.conf issuerDN に空白が含まれていると、解析エラーが発生する

6244723 一部の Windows フォルダで imsbackup がハングアップする

6244775 管理サーバー: errno または h_errno に直接アクセスする、不適切に構築されたバイナリ

6244856 service.http.idletimeout に対して sanity チェックを行うべきである

6245470 mboxutil の操作は、 -f ファイルからの入力をログに記録すべきである

6246028 job_controller は、再読み込み後にコア null メッセージ removefrompriorityqueue をダンプする

6246247 SMS チャネルは、ヘッダー処理 (he_) ルーチンでコアダンプする可能性がある

6247383 imsexport は、From 行に無効な形式の日付を生成する

6247677 imsbackup のログメッセージは、どのファイルが問題なのかを示すべきである

6248353 特定のメールフォルダや LDAP グループにアクセス権を与えると、グループが個人メンバーに拡張される。

6249578 ロギング RFE: インデックスファイルのオープン/読み取り失敗メッセージの情報量を増やす必要がある。

6250226 MoveUser を実行するとフォルダが削除される。

6250671 Messenger Express マルチプレクサ: セッション ID に「+」または「/」が含まれていると、ユーザーはログインページにリダイレクトされる

6251752 mshttpd が saslglue_conn_new () でコアダンプする

6251852 メッセージストアのディスク利用可能性チェック機能を有効にしても、依然としてストアにメッセージが送信される

6252960 ALLOW_TRANSACTIONS_PER_SESSION オプションのチェック時に off-by-one エラーが発生する

6253743 sslconnect がコアダンプする

6255339 Return job がアドレスからのエンベロープを通知ジェネレータに渡さない

6255489 デフォルト以外のドメイン内の別のユーザーによって作成された共有フォルダ内に、サブフォルダを作成できない

6259539	MTA SDK が、複数の受信者を持つメッセージをキューから削除する際に、コア (SEGV) をダンプする
6259896	MTA SDK エンベロープ受信者アドレス検索の失敗
6260796	`imsimta clbuild` がパッチ後処理中に失敗する
6261048	標準インストールでは SSL が有効化されるべきでない
6261136	制限容量を超過しているにもかかわらず、Communications Express 経由で送信済みフォルダにメッセージが追加される
6261566	遅延メッセージに対して複数の通知が送信される
6261852	`start-msg` が SNMP サブエージェントの存在を検出しない
6262116	`imsimta refresh` の実行後、いつでも Ctrl+C キーを押してジョブコントローラを終了できる。
6262295	MTA SDK が、不適切かつ混乱を招くエラーコードを報告する可能性がある
6262675	予期しない未解決の SSL ハンドシェークメッセージのログレベルを調整する必要がある
6263895	`PERSONAL_NAMES` マッピングの結果と `LDAP_PERSONAL_NAMES` は、必要に応じて自動的に引用符で囲まれる必要がある
6264192	SMPP PDU の連番を 0x00000000 以外の値から開始できる必要がある
6264200	NOTIFY=SUCCESS が設定された状態で LMTP 経由で配信する際に、間違ったメッセージが送信される
6264543	Messaging Server のパッチは、ユーザーにわかりやすいように自動化される必要がある
6264566	MMP 操作のより詳細なロギングを求める要求
6265235	Messaging Server で `inetDomainSearchFilter` が設定されていると、トラストサークル SSO が失敗する
6265361	`pthread_cond_timedwait()` の呼び出し方法が不適切であった場合、SMS チャネルや MTA SDK が予期しない動作をする可能性がある
6265442	`imsimta process` コマンドの動作が Linux プラットフォーム上で異なる
6266169	`configmsg_init_default()` が設定を一度しか読み込まない
6267592	`iminitquota` は、「Unknown code __9F 242」の代わりに正しいエラーメッセージを発行すべきである
6268197	メールサーバーユーザーが読み取れないディレクトリからストアドプロシージャーを実行すると、データベースログ累積エラーが発生する可能性がある
6268200	`imsrestore -n` が正しく動作しない

6268438 `master_debug` キーワードを指定しなくても、MTA デバッグログにメッセージが格納される

6268969 不在通知メッセージの送信時に、1024 文字ごとに不正な改行が挿入される

6269089 LMTP が「all addresses ugly」状態を検出した際に書き込まれる履歴行が、不完全である

6269510 デバッグが有効になっていない限り、LMTP サーバーは、配信が失敗してもデバッグログ出力を書き込むべきではない。

6270696 ドイツ語、スペイン語、簡体字中国語、繁体字中国語の各言語で Messaging Server コンソールを起動できない。

6271555 「signing certificate」の代わりに「signing cert」となっている

6272281 日本語の文字を含むフォルダで `readership` コマンドが失敗する

6273362 テキスト MIME タイプの内部強制テキストモード処理

6274098 `mshttpd` コア - バグ 6269460 の修正後に `dm_dispose_result` 内の free 呼び出しが異常終了するようになった

6274165 ジョブコントローラのクライアント API が読み取りエラーを正しく処理しない

6274166 送信データに NUL が含まれていると、ジョブコントローラが readline() でハングアップする可能性がある

6274342 CR がないために MMP のログファイルが読み取れなくなる

6275540 `msprobe` の報告機能が `AService.cfg` を開けない

6275693 `optfile_read` からのエラーメッセージをログに記録するには、`ims_info_get_core/get_mmp` が必要である

6276007 `msuserpurge` の検索タイムアウトエラー。

6276851 出力ファイルのオープンまたは作成に失敗した場合、`mboxutil -o -w` ファイル名がコアダンプする。

6277023 `local.webmail.sso.uwcsslport` のデフォルト値を妥当な値にすべきである。

6277244 コンテンツタイプが存在しない場合、8 ビットのチェックフラグが正しくない可能性がある。

6277547 `mgrpMsgPrefixText` と `mgrpMsgSuffixText` が正しく動作しない。

6278606 デフォルト以外の通知引数を使用すると、不要なメッセージコピーが実行される可能性がある。

6278609 `store.expirerule.longdays.messagedays` がオーバーフローする可能性がある。

6281091 `option.dat` がコメントではなくオプションで始まっている場合、メッセージストアおよび MMP の認証が失敗する。

6281129 20,000 個を超えるドメインを含むメッセージストアでは、`msuserpurge` のタイムアウトが発生する。

6282382 ユーザーがマルチプレクサ経由で接続されている場合のログアウト用ページヘッダーが正しくない。

6284777 `imexpire -m` がコアダンプする。

6286831 `unix_purge` ユーティリティーが正しく動作しない。

6288155 `ASock_NewBound` バックログ待機キューが小さすぎる。

6289485 `UpgradeMsg5toMsg6.pl` スクリプトが、tailor ファイルの属性を小文字に変更する。

6290014 単一メッセージをバックアップする機能が正しく動作しない。

6290691 `serverstart` コマンド行ユーティリティーからコアダンプが生成される。

6294322 `-F` オプションを使用しても、`MoveUser` がソースメールホスト内の空のフォルダを削除しない。

既知の問題と制限事項

この節では、Messaging Server 6 2005Q4 の既知の問題の一覧表を示します。次の内容について説明します。

- 67 ページの「インストール、アップグレード、アンインストール」
- 68 ページの「Messaging Server」
- 75 ページの「ローカライズ」
- 76 ページの「マニュアル」

インストール、アップグレード、アンインストール

この節では、Messaging Server のインストール、アップグレード、アンインストールに関する既知の問題を説明します。

Java Enterprise System インストーラを使用して、**Messaging Server** のクラスタエージェントをインストールする必要がある。**(6175770)**

Sun Cluster 環境で Messaging Server をインストールするには、次の手順に従う必要があります。この手順の詳細については、『Sun Java Enterprise System 6 2005Q4 インストールガイド』の第3章「インストールシナリオ」の Sun Cluster インストール例を参照してください。

1. Java Enterprise System インストーラを実行し、Sun Cluster および Sun Cluster Agents をインストールするために選択してから、インストーラで「あとで設定」を選択します。

2. Sun Cluster 環境を設定します。詳細については、Sun Cluster のマニュアルを参照してください。
3. もう一度 Java Enterprise System インストーラを実行し、Messaging Server およびその他のコンポーネント製品をインストールします。
4. Messaging Server を設定します。詳細については、『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

このバージョンの **Messaging Server** では、対称 **HA** 環境で、停止時間を最小化する段階的なローリングアップグレードをサポートしない。**(4991650)**

Messaging Server 5.2 では、同じコンピュータに Messaging Serverを何回かインストールし、各インストールに別のパッチを当てることができました。そのため、停止時間を最小化する段階的なローリングアップグレードが可能でした。Messaging Server 6 2004Q2 はこの機能をサポートしていません。

Sun™ Cluster 3.0 Update 3 の下で **Messaging Server** が起動しない。**(4947465)**

Messaging Server のクラスタエージェントは、Sun Cluster 3.0 Update 3 の問題によりコアダンプします。この問題を解決するには、Sun Cluster 3.1 を使用してください。

Messaging Server

この節では、Messaging Server 製品の既知の問題について説明します。

option.dat では、「**#**」、「**!**」、「**;**」のいずれかの記号で始まる行はコメント行として処理される。**(**バグ **ID** なし**)**

Messaging Server は、`option.dat` ファイル内のシャープ記号 (#)、感嘆符 (!)、セミコロン (;) のいずれかの文字で始まる行をコメント行として処理します。直前の行の末尾が、行の継続を意味する円記号 (\) になっている場合でも同様です。そのため、これらの文字を含む長いオプション (特に、配信オプション) を使用する場合は、注意が必要です。

配信オプションの場合は、そのままでは # または ! で始まる継続行になってしまいますが、次の回避策を参照してください。

回避策

配信オプションの場合、Messaging Server は、配信オプションタイプを区切るコンマに続く空白文字を無視します。

たとえば、次のようには記述しません。

```
DELIVERY_OPTIONS=\
#*mailbox=@$X.LMTP:$M$_+$2S%$\$2I@ims_daemon,\
#&members=*,\
*native=@$X.lmtpnative:$M,\
*unix=@$X.lmtpnative:$M,\
/hold=$L%$D@hold,\
```

```
*file=@$X.lmtpnative:+$F,\
&@members_offline=*,\
program=$M%$P@pipe-daemon,\
forward=**,\
*^!autoreply=$M+$D@bitbucket
```

この問題を解決するには、次のように空白を追加します。

```
DELIVERY_OPTIONS=\
          #*mailbox=@$X.LMTP:$M$_+$2S%$\$2I@ims_daemon,\
          #&members=*,\
          #*native=@$X.lmtpnative:$M,\
          #*unix=@$X.lmtpnative:$M,\
          #/hold=$L%$D@hold,\
          #*file=@$X.lmtpnative:+$F,\
          #&@members_offline=*,\
          #program=$M%$P@pipe-daemon,\
          #forward=**,\
          #*^!autoreply=$M+$D@bitbucket
```

DOMAIN_UPLEVEL が変更された。**(**バグ **ID** なし**)**

`DOMAIN_UPLEVEL` のデフォルト値が `1` から `0` に変更されました。

ユーザー **ID** では次の文字を使用できない**:$ ~ = # * + % !@ , { } ( ) / < \> ; :" ” [ ] & ?(**バグ **ID** なし**)**

これは、ダイレクト LDAP モードで操作しているときの MTA による制約です。ユーザー ID にこれらの文字を使用できるようにすると、メッセージストアで問題が発生することがあります。MTA で禁止されている文字のリストを変更したい場合は、ASCII 値をコンマで区切って文字列を指定することで、次のオプションを設定します。

```
LDAP_UID_INVALID_CHARS=32,33,34,35,36,37,38,40,41,
42,43,44,47,58,59,60,61,62,63,64,91,92,93,96,123,125,126
```

これは、*msg_svr_base*`/config/options.dat` ファイルに指定します。この制約を緩和することはお勧めしません。

Solaris 10 上で **SNMP** が有効になっていると、**Messaging Server** の起動が失敗する。**(6299309/6290934)**

回避策*:*

`snmpwalk` を `snmpd` に対してではなく `snmpdx` に対して直接発行し、ポート 161 の代わりにポート 16161 に直接アクセスします。

imsimta refresh コマンドが混乱を招くエラーメッセージを生成する。**(6263066)**

watcher プロセスが有効になっていると、`imsimta refresh` コマンドが混乱を招くメッセージを生成する。

回避策:

`imsimta cnbuild` を実行して設定をコンパイルします。次に、`start-msg` を実行します。`imsimta refresh` コマンドは将来のリリースで非推奨になる予定です。

destinationspamfilter<>X オプションチャネルキーワードが正しく動作しない。**(6214039)**

このキーワードは、次回の Messaging Server パッチリリースで修正されます。

SSL が設定されていない場合に **imta** ログファイルに **NSS** エラーが記録される **(6200993)**

これらは有害なエラーではありません。これらの原因は、システムが SSL 設定内で SSL 証明書を見つけることができないことにあります。

回避策

MTA とメッセージストアの SSL を無効にすることができます。

1. `imta.cnf` ファイルを編集し、`tcp_local` チャネルと `tcp_intranet` チャネルからチャネルキーワード `maytlsserver` を削除します。
2. 後続の `configutil` 設定パラメータを変更します。具体的には、`service.imap.sslusessl` を「no」に、`service.pop.sslusessl` を「no」に、それぞれ設定します。
3. `imsimta cnbuild` コマンドを使用して MTA 設定をコンパイルし直します。
4. サービスを再起動します (`stop-msg/start-msg`)。これで、SSL のサポートが無効になります。ただし、証明書の入手後にサーバーを SSL モードで設定する必要が生じた場合には、ここで行った変更を元に戻す必要があります。

configure プログラムが標準以外の組織 **DN** で失敗する。**(6194236)**

`configure` プログラムは、組織 DN とユーザー/グループサフィックスとの間に中間 RDN を構築しません。この問題は、Schema 1 と Schema 2 の両方で発生します。

回避策:

`configure` プログラムを実行する前に組織 DN (または少なくとも組織 DN の上位の DN) を作成します。

プロキシサーバーの使用時に、**Internet Explorer 6.0 SP1** から **Messaging Server** にログインできない。**(5043607)**

クライアントとして使用する PC 上の Internet Explorer 6.0 SP1 で HTTP プロキシを使用していると、Messaging Server にログインできないことがあります。この問題は、プロキシサーバーが標準に準拠していないことが原因であるため、Messaging Server では解決できません。

クライアント証明書認証には、適切な内容の **certmap.conf** ファイルが必要。**(4967344)**

`certmap.conf` 設定ファイルには、証明書を LDAP ディレクトリのエントリにマップする方法を指定します。「デフォルトでは」、2 行をコメントアウトした証明書の件名には、LDAP ディレクトリエントリの「正確な」 DN が記述されています。

ただし、証明書の件名から特定の属性を抽出し、ディレクトリからその属性を検索する方法も、よく使用されます。

回避策

後者の方法を使用する場合は、次のように変更します。

```
certmap default         default
#default:DNComps
#default:FilterComps    e, uid
```

変更後は次のようになります。

```
certmap default         default
default:DNComps
default:FilterComps     e
```

`certmap.conf` の詳細については、『Sun Java System Server Console 5.2 Server Management Guide』を参照してください。

jobc を起動しても、これからはチャネルが停止したことが表示されなくなる。**(4965338)**

Messaging Server 5.2 では、`#imsimta qm summarize` コマンドを発行すると、`imsimta qm stop <chan>` コマンドで停止したチャネルが表示されました。

この動作は 6.0 で変更されました。チャネルをまだ使用していない場合、0 行は取得されず、停止したチャネルも表示されません。

「証明書の管理」ウィザードで、**Messaging Server/Configuration** に **SSL (Secure Sockets Layer)** 証明書が作成されない。**(4939810)**

ユーザーが「証明書の管理」オプション (「管理サーバー」->「Messaging Server」->「設定」->「証明書の管理」) を使って SSL 証明書要求を作成した場合、「証明書の管理」ウィザードは、`Admin_Server_Root/alias` 領域内にではなく `Messaging_Server_Base/config` 領域内に、証明書とキーデータベースを作成すべきです。さらに、ファイルプレフィックスを、`msg-config` 値 (`msg-config-cert7.db` および `msg-config-key3.db`) から `NULL` (`cert7.db` および `key3.db`) に変更すべきです。

回避策

1. ファイル msg-config-cert7.db および msg-config-key3.db を適切なアクセス権と所有権を持つ cert7.db および key3.db として、Admin_Server_Base/alias 領域から Messaging_Server_Base/config 領域にコピーします。
2. Admin_Server_Base/alias 領域で使用していた適切なアクセス権と所有権を使用して、これらのファイルのソフトリンクを Messaging_Server_Base/config 領域に作成します。

imsimta start がディスプレイおよびジョブコントローラを開始しない。**(4916996)**

imsimta start、imsimta restart、imsimta refresh コマンドは、watcher プロセスが実行されていないと機能しません。

注 – 新しい start-msg と stop-msg コマンドが、imsimta start および imsimta stop と置き換えられました。後者は推奨されなくなったため、将来のリリースで削除される予定です。

start-msg および stop-msg コマンドの詳細については、『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

XSTA、**XADR** コマンドがデフォルトで有効になっている。**(4910371)**

インストールが完了したときには、SMTP 拡張コマンド XSTA と XADR がデフォルトで有効に設定されるため、リモートユーザーとローカルユーザーが機密情報を取得できることがあります。

回避策

imta/config/tcp_local_options ファイルを必要に応じて作成し、次の行を追加して、XSTA と XADR コマンドを無効にします。

```
DISABLE_ADDRESS=1
DISABLE_CIRCUIT=1
DISABLE_STATUS=1
DISABLE_GENERAL=1
```

個人アドレス帳で、自宅電話番号の検索ができない。**(4877800)**

個人用アドレス帳は、会社電話番号属性のみの「電話番号」を基にして検索を行います。自宅または携帯電話番号の検索には、「電話番号」は使用できません。

Sun Cluster リソース間に間接的な依存関係がすでに存在する場合、**scds_hasp_check()** によって、**HAStoragePlus** がそのような既存の設定でサポートされない場合がある。**(4827911)**

これは Sun Cluster 3.0 Update 3 で発生します。

回避策

HAStoragePlus リソースの既存のリソースに弱い依存関係を作成します。

Messenger Express Multiplexor (MEM) に、**OS** リゾルバまたは **NSCD** を利用するための設定オプションがない **(4823042)**

回避策

MX と A レコードのキャッシュの利点を活かすために、システムをキャッシュ専用の DNS サーバーとして設定します。

1024 を超えるサブフォルダを含むメールボックスでは、**MoveUser** が動作しない。**(4737262)**

1024 を超えるサブフォルダを含むメールボックスを持つユーザーのアカウントを移動すると、MoveUser ユーティリティーが停止することが報告されています。

/etc/hosts ファイルに省略形のドメインがあると、アクセス制御フィルタが動作しない。**(4629001)**

/etc/hosts ファイルに省略形のドメイン名があると、アクセス制御フィルタでホスト名を使用するときに問題が発生します。IP アドレス検索が省略形のドメイン名を返すと、照合は失敗します。そのため、/etc/hosts ファイルには必ず完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してください。

syslog で **TCP_IOC_ABORT_CONN** による接続中断。**(4616287)**

Solaris 8 U7 または Solaris 9 オペレーティングシステムで Sun Cluster 3.1 を実行する HA 設定に対してフェイルオーバーが発生し、アクティブな TCP 接続が TCP_IOC_ABORT_CONN ioctl で中断された場合、コンソールとシステムログに次のようなメッセージがログに記録されます。

```
Jul 24 16:41:15 shemp ip: TCP_IOC_ABORT_CONN: local = 192.018.076.081:0,
remote = 000.000.000.000:0, start = -2, end = 6
Jul 24 16:41:15 shemp ip: TCP_IOC_ABORT_CONN: aborted 0 connection
```

これらのメッセージは情報を提供するだけであり、デバッグモード以外では表示されません。

IMAP メールクライアントとして **Microsoft Outlook Express** を使用している場合に、既読フラグと未読フラグが正しく機能しないことがある。これは、**Microsoft Outlook Express** クライアントの既知の問題である。**(4543930)**

この問題に対処するには、以下のように設定変数を設定します。

```
configutil -o local.imap.immediateflagupdate -v yes
```

この方法を使用してパフォーマンス上の問題が発生した場合は、使用を中止することをお勧めします。

configutil を使用して加えた変更を反映させるために、該当のサーバーを再起動しなければならないことがよくある。**(4538366)**

管理サーバーのアクセス制御ホスト名で大文字と小文字を区別する。**(4541448)**

管理サーバーの「アクセスを許可するホスト名」を設定すると、アクセス制御リストで大文字と小文字が区別されます。DNS サーバーが `IN-ADDR` レコード (IP アドレスからドメイン名への変換に使用される) で大文字と小文字が混在するホスト名を使用している場合は、アクセス制御リストでも同様のホスト名を使用する必要があります。たとえば、ホストが `test.Sesta.Com` の場合は、アクセス制御リストに `*.Sesta.Com` を記述する必要があります。この問題のため、`*.sesta.com` は有効ではありません。

たとえば、ユーザー/グループのベースサフィックスが `o=isp` である場合、サービス管理者グループの DN は `cn=Service Administrators,ou=groups,o=isp` になります。アカウント `uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp` をサービス管理者として指定するには、そのアカウントの DN をこのグループに追加してください。以下の変更レコードでは、指定したユーザーが LDIF でグループメンバーとして追加されています。

```
dn: cn=Service Administrators,ou=groups,o=isp
changetype: modify
add: uniquemember
uniquemember: uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp
```

さらに、ユーザーにサービス管理者権限を与えるには、ユーザーエントリに `memberof` 属性を追加し、この属性をサービス管理者グループに設定する必要があります。次に例を示します。

```
dn: uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp
changetype: modify
add: memberof
memberof: cn=Service Administrators, ou=groups, o=isp
```

MMP BadGuy 設定パラメータ **BGExcluded** が動作しない。**(4538273)**

回避策

BadGuy ルールから除外されているクライアントを処理する、別の MMP サーバーを配備します。これらのサーバーでは `BadGuy` をオフにする必要があります。

Directory Server バージョン **5.x** の **ACI** により、**LDAP** 検索パフォーマンスに影響がある。**(4534356)**

この問題は、Messaging Server で実行する多くの検索に影響します。検索の速度を上げるには、以下のコマンドを実行してディレクトリマネージャーの資格を使用しディレクトリにアクセスします。

msg_svr_base`/sbin/configutil -o local.ugldapbinddn -v` *"rootdn"* `-l`

msg_svr_base`/sbin/configutil -o local.ugldapbindcred -v` *"rootdn_passwd"* `-l`

ここで、*rootdn* と *rootdn_passwd* は、Directory Server の管理者の資格を示します。

Sun Cluster 3.0 Update 3 を有効にすると、無意味なエラーメッセージが表示されることがある。**(4490877)**

高可用性 (HA) サービスを起動したときや、高可用性 (HA) サービスをあるノードから別のノードに切り替えたときに、Sun Cluster コンソールと `/var/adm/messages` に、次のようなエラーメッセージが表示されます。このメッセージは無視してください。

```
Cluster.PMF.pmfd: Error opening procfs control file </proc/20700/ctl> for tag
<falcon,habanero_msg,4.svc>: No such file or directory
```

ローカライズ

この節で説明する既知の問題は、ローカライズだけに関係する問題ではありません。

ドイツ語、スペイン語、簡体字中国語、繁体字中国語の各ロケールで管理コンソールを起動できない。**(6270696)**。

回避策

シンボリックリンクを手動で作成します。

`ln -s` *msg_svr_base*`/lib/jars/msgadmin62-2_06_` *lang*`.jar` AdminServer_ServerRoot `/java/jars/msgadmin62-2_06_`lang.jar

Solaris (SPARC および x86 プラットフォーム版) 上では、正しいバージョンの `.jar` ファイルを手動で作成する必要もあります。

`cp` *msg_svr_base*`/lib/jars/msgadmin62-2_03_` *lang*`.jar` *msg_svr_base* `/lib/jars/msgadmin62-2_06_` *lang* `.jar`

Internet Explorer ブラウザ上の **Messenger Express** メッセージのアクセントのエンコードに問題がある **(6268609)**。

この問題は、Communications Express のメッセージには見られません。

設定プログラムの入力フィールドが狭すぎて見にくい **(6192725)**。

Linux プラットフォームで、英語以外のロケールで表示するページによっては、Messaging Server の設定プログラム (*msg_svr_root*`/sbin/configure` で起動される) の一部の入力フィールドの幅が狭すぎます。

設定プログラムの入力フィールドが狭すぎて見にくい **(6192725)**。

回避策

ウィンドウのサイズを広げて、表示するのに十分なように入力フィールドを大きくします。

マニュアル

この節では、Communications Services および Messaging Server マニュアルの既知の問題について説明します。

iPlanet Delegated Administrator 1.2 Patch 2 での imadmin user purge に関するバグ 5076486 の修正 (6307201)。

iPlanet Delegated Administrator 1.2 Patch 2 および Messaging Server 6.x で `imadmin user purge` コマンドを使用できます。この旧バージョンの Delegated Administrator を、第 4 章で説明している現在の Delegated Administrator 製品と混同しないでください。旧バージョンの Delegated Administrator を使用するには、`http://docs.sun.com` の iPlanet Delegated Administrator インストールマニュアルで概説されている手順に従うとともに、次の変更を実施します。

`iDA_install_directory/nda/classes/netscape/nda/servlet/resource.properties` ファイル内の `MsgSvrN-cgipath` 行を `MsgSvr0–cgipath=msg-config/Tasks/operation` に変更したあと、Web Server を再起動します。

クラスタ上で実行している場合には、管理サーバーが Messaging Server と同じノード上で実行されていることを確認してください (詳細については、バグ 6306637 を参照)。

新しい共有断片化データベース機能についてのマニュアルがない。**(5091281)**

MTA システムが断片化されたデータベースを共有することが可能であり、それによってストアシステムではなく MTA システムで断片化を行うことできる新しい機能について記載されたマニュアルがありません。

再配布可能なファイル

Messaging Server 6x では、次のファイルを再配布できます。

- ライセンスが許可されている Messaging Server ディストリビューションの次のファイルのみをソース (HTML および Javascript) またはバイナリ形式 (GIF ファイル) で再配布できます。
  - *msg_svr_base*`/config/html` (サブディレクトリを含む)
  - *msg_svr_base*`/install/config/html` (サブディレクトリを含む)

    これらのファイルを単独で配布することは禁止されています。

  次のヘッダーファイルは、Messaging Server API を使って対話するプログラムを作成および配布する場合、Messaging Server と相互運用または統合するために文書化された API を使用して顧客が作成したコードをコンパイルする場合、および Messaging Server のマニュアルで明示的に説明されている方法を利用する場合にのみ、コピーおよび使用することができます (ただし、変更はできない)。

  - *msg_svr_base*`/examples/meauthsdk/expapi.h`
  - *msg_svr_base*`/examples/tpauthsdk/authserv.h`

- *msg_svr_base*/`include` ディレクトリ (デフォルトの場所) 内のすべてのファイル

次のファイルは、文書化された API を使用して Messaging Server と統合するプログラムを記述するときの参照として利用する場合にのみ提供されています。

- *msg_svr_base*/`examples/meauthsdk/`
- *msg_svr_base*/`examples/tpauthsdk/`
- *msg_svr_base*/`examples/mtasdk/`

第 3 章

Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4 リリースノート

Version 7 2005Q4

このリリースノートには、Sun Java™ System Instant Messaging 7 2005Q4 のリリース時点で判明している重要な情報が記載されています。ここでは、新機能、拡張機能、既知の問題と制限、およびその他の情報について説明します。Instant Messaging 7 2005Q4 の使用を開始する前に、このリリースノートをお読みください。

Instant Messaging を最善の方法で配備するため、このバージョンの製品用の最新パッチを SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com/`) からダウンロードしてください。

このリリースの最新版は、Sun Java System マニュアルの Web サイト (`http://docs.sun.com/`)で参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前、およびそれ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートと製品マニュアルを確認してください。このリリースノートには、以下の項目があります。

- 80 ページの「リリースノート 改訂履歴」
- 80 ページの「Instant Messaging 7 2005Q4 について」
- 80 ページの「このリリースの新機能」
- 81 ページの「要件」
- 83 ページの「インストールに関する注意事項」
- 84 ページの「互換性に関する問題」
- 85 ページの「マニュアルの更新」
- 92 ページの「このリリースで修正されたバグ」
- 93 ページの「既知の問題と制限事項」
- 98 ページの「高可用性に対応した Instant Messaging の設定 (Solaris のみ)」
- 114 ページの「再配布可能なファイル」

このリリースノートにあるサードパーティーの URL を参照すると、追加および関連情報を入手できます。

注 – このマニュアルで述べる外部 Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生したいかなる損害や損失についても、Sun は直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

リリースノート改訂履歴

表 3–1 Sun Java System Instant Messaging 改訂履歴

日付	変更の説明	Part No.
2005 年 6 月	ベータリリース	819-3489
2005 年 10 月	最終リリース	819–2568

Instant Messaging 7 2005Q4 について

Sun Java System Instant Messaging を使用すると、セキュリティーが確保され、機能性の高いメッセージ交換をリアルタイムに行うことができるため、コミュニティーのユーザーが迅速かつ安全に通信および共同作業を行うことができます。Sun Java System Instant Messaging は、メッセージング機能に、会議室、アラート、ニュース、調査、およびファイル転送機能を一体化させることで、共同作業を行う優れた環境を提供します。このソフトウェアは、LDAP、Sun Java System Access Manager、または Sun Java System Portal Server を使用して管理されている既存のコミュニティーを活用します。

このリリースの新機能

この節には、以下の項目があります。

- 80 ページの「インストール」
- 81 ページの「新機能」

インストール

『Instant Messaging インストールガイド』はなくなりました。Instant Messaging 7 2005Q4 を初めてインストールする場合は、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』でインストール方法を参照してください。以前のバージョンの Instant Messaging からアップグレードする場合は、『Sun Java Enterprise System アップグレードガイド』を参照してください。

Access Manager を Instant Messaging と共に使用する場合は、Java Enterprise System インストーラを使って旧バージョン (Version 6.x スタイル) の Access Manager をインストールする必要があります。このバージョンの Instant Messaging は、レルム (Version 7.x スタイル) の Access Manager と互換性がありません。

新機能

ここでは、このリリースで Instant Messaging に追加された次の新機能について説明します。

Sun™ Cluster を使用したフェイルオーバーのサポート (Solaris のみ)

このリリースの Instant Messaging では、Sun Cluster を使用して Solaris 用のフェイルオーバーをサポートします。これにより、Instant Messaging の可用性が向上すると共に、ソフトウェアおよびハードウェア障害の監視および障害からの復旧機能が提供されます。

この機能の詳細については、98 ページの「高可用性に対応した Instant Messaging の設定 (Solaris のみ)」を参照してください。

要件

ここでは、Instant Messaging ソフトウェアのインストール要件を示します。インストールを実行する前に、最小限のハードウェアおよびオペレーティングシステム要件を満たしていることを確認してください。JRE 1.4 は、サーバーとクライアントの両方でサポートされています。また、インストールする前に、製品のパッチをすべて確認してください。

Sun Java System Instant Messaging の最新の必須パッチリストを参照するには、SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com`) を開いて、「Patch」または「Patch Portal」をクリックしてください。「Sun Java System Instant Messaging」のリンクを参照します。システムのパッチ要件が変わり、Java Enterprise System コンポーネントのパッチが利用できるようになると、SunSolve から、最初は推奨するパッチクラスタの形で更新機能が提供されます。

このリリースの Instant Messaging ソフトウェアのハードウェアおよびソフトウェア要件については、次の節で説明します。

- 81 ページの「サーバーのオペレーティングシステム要件」
- 82 ページの「サーバーのソフトウェア要件」
- 82 ページの「サーバーのハードウェア要件」
- 82 ページの「クライアントのオペレーティングシステム要件」
- 82 ページの「クライアントソフトウェアの要件」
- 83 ページの「クライアントのハードウェア要件」

サーバーのオペレーティングシステム要件

このリリースの Sun Java System Instant Messaging では、次のプラットフォームがサポートされます。

- Solaris™ 8 (5.8) オペレーティングシステム (Solaris OS) (SPARC® プラットフォーム版)
- Solaris 9 (5.9) OS (SPARC® プラットフォーム版、x86 プラットフォーム版、および Opteron プラットフォーム版)
- Solaris 10 OS (SPARC® プラットフォーム版、x86 プラットフォーム版、Opteron プラットフォーム版)

- Red Hat Enterprise Linux AS 2.1 および AS 3.0

Solaris 用の推奨パッチについては、SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com`) を参照してください。

サーバーのソフトウェア要件

このバージョンの Instant Messaging は、次のバージョンのほかのサーバーソフトウェアと互換性があります。

- Sun Java System Access Manager 7 2005Q4
- Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8 2005Q4
- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4
- Sun Java System Directory Server 5 2005Q4
- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4
- Sun Java System Portal Server 6 2005Q4
- Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5

サーバーのハードウェア要件

Instant Messaging インストール時の最小ハードウェア要件は、次のとおりです。

- ソフトウェア用として約 300M バイトの空きディスク領域。
- ユーザーごとに約 5K バイトのディスク領域。
- 256M バイト以上の RAM 必要な RAM の容量は、並行して実行されるクライアント接続の数およびサーバーとマルチプレクサを同一のホストに導入するかどうかに応じて変化します。

クライアントのオペレーティングシステム要件

今回のリリースは、次のクライアントプラットフォームに対応しています。

- Solaris 8、9、および 10
- Microsoft Windows 98、ME、NT (SP 6a)、2000、XP
- Mac OS X 10.1 以降
- Red Hat Linux 7.2 以降

クライアントソフトウェアの要件

Windows 上では、次のブラウザの Java Plug-in を使用して Instant Messenger を実行できます。

- Netscape™ 4.79 以降
- Mozilla™ 1.2 以降
- Internet Explorer 5.5 以降

クライアントマシンに Java 1.4 以降のバージョンがインストールされている場合は、そのままの状態で Java Plug-in および Java Web Start を使用できます。Netscape Navigator v7 および最近のバージョンの Mozilla ブラウザには、Java v1.4 以降が含まれています。Internet

Explorer には最新版の Java は含まれていません。Java 1.4 がインストールされたクライアントで問題が発生する場合は、5.0 にアップグレードしてください。JDK™ 5.0 は、Sun Java System Instant Messaging に含まれています。

クライアントマシンに Java v1.4 以降がインストールされていない場合、Java Web Start をインストールする必要があります。Java v1.4 は、Java Technology Web サイト (`http://java.sun.com/j2se`) からダウンロードして、インストールできます。

Java Web Start は、Java Web Start Technology Web サイト (`http://java.sun.com/products/javawebstart`)からダウンロードして、インストールできます。

HTML リンクは、Instant Messenger を介して交換できます。Instant Messenger 内で HTML リンクをクリックすると、リンクがアクティブになります。リンクがアクティブになると、メッセンジャーによりブラウザが起動されます。表 3–2 に、サポートされているオペレーティングシステムとブラウザの組み合わせの一覧を示します。

表 3–2 Instant Messaging でサポートされるクライアント OS とブラウザの組み合わせ

オペレーティングシステム	ブラウザ
Solaris	Netscape Communicator 4.79 以降
Red Hat Linux 7.x	Netscape 4.79 以降
Red Hat Linux 8.0 以降	Mozilla 1.2 以降
Windows 98/ME/NT/2000/XP	制限なし
Mac OS X	制限なし

クライアントのハードウェア要件

Instant Messenger は、大半のプラットフォーム上で 20 ～ 40M バイトのメモリを使用します。メモリー要件を見積もる際には、クライアントマシンで使用するほかのアプリケーション (オペレーティングシステムを含む) の要件も考慮してください。Instant Messenger およびほかのアプリケーションを快適に使用するためには、ほとんどの場合、128M バイト以上の RAM を搭載することが推奨されています。メモリー消費量の多いオペレーティングシステムを使用する場合、より多くのメモリが必要になります。

インストールに関する注意事項

Instant Messaging の設定時に、Sun Java System Access Manager を使用してポリシーを保存するように選択すると、次のようなポリシーが作成されます。

- Instant Messaging サービスおよび Presenceサービスの管理権限
- Instant Messaging の設定変更権限
- Instant Messaging 会議室の管理権限

互換性に関する問題

表 3–3 に、Instant Messaging 7 2005Q4 と以前のバージョン間に存在する、既知の非互換性の問題の一覧を示します。

表 3–3 Instant Messaging 7 2005Q4 の互換性に関する問題

非互換性	影響	コメント
Instant Messaging 7 は、Access Manager 7.x (2005Q4) とは互換性がありません。	Access Manager をインストールする場合は、Java Enterprise System インストーラで、「レルムモード」(Version 7.x スタイル) の代わりに「旧バージョンモード」(Version 6.x スタイル) を選択してください。	
Instant Messaging 7 は、Portal Server および Messaging Server の 2004Q2 バージョンと互換性がありません。	Instant Messaging 7 をアップグレードする際に、Portal Server および Messaging Server もアップグレードしてください。	
プロトコルが変更されたため、Instant Messaging 7 2005Q4 サーバーは、連携配備された以前のバージョンのサーバーと通信することはできません。	Instant Messaging の連携配備サイトは、すべてのサーバーをアップグレードする必要があります。既存の配備でサーバーをアップグレードしない場合は、コラボレーションセッションファクトリオブジェクトのプロパティーを明示的に設定して、旧バージョンのプロトコル実装を使用する必要があります。	サーバーの相互通信が不可能になる期間が一定範囲内に抑えられるように、アップグレードを調整してください。
クライアント - サーバー間の通信	プロトコルが変更されたため、以前のバージョンのクライアントと新バージョンのサーバーとの通信が双方向とも不可能になります。	クライアントとサーバーの両方を同時にアップグレードする必要があります。
Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 は、Sun Java Enterprise System 2005Q4 に同梱の共有コンポーネントと互換性がありません。	すべての Instant Messaging コンポーネントをアップグレードする必要があります。この非互換性の詳細については、『Sun Java System Access Manager リリースノート』を参照してください。	
Instant Messaging/Presence プロトコルの Instant Messaging SDK 実装が、バンドルされるようになりました。	デフォルトでは、Instant Messaging SDK API が、XMPP プロトコルに基づく実装を使用します。アプリケーションは、コラボレーションセッションファクトリオブジェクトのプロパティーを明示的に設定して、旧バージョンのプロトコル実装を使用する必要があります。	

表 3–3 Instant Messaging 7 2005Q4 の互換性に関する問題　(続き)

非互換性	影響	コメント
SDK コンポーネントには、追加の jar ファイルが含まれます。Instant Messaging SDK は、JSO (JABBER Stream Objects) ライブラリを使用します。	XMPP を活用するためには、Instant Messaging SDK を使用する以前のアプリケーションに合わせて `classpath` を修正する必要があります。	
Instant Messaging 6 2004Q2 サーバーは、最新バージョンの SDK のデフォルト動作と互換性がありません。	6 2004Q2 サーバーを現在の IM SDK で使用するには、コラボレーションセッションファクトリオブジェクトのプロパティーを設定して、旧バージョンのプロトコル実装を使用する必要があります。手順については、93 ページの「既知の問題と制限事項」 の 問題番号 6200472 を参照してください。	

マニュアルの更新

ここでは、マニュアルの変更点およびエラーに関する情報について説明します。次の節が含まれます。

- 85 ページの「マニュアルセット」
- 85 ページの「管理ガイド」
- 91 ページの「オンラインヘルプ」

マニュアルセット

Instant Messaging の 2005Q4 リリースでは、次のバージョンの管理ガイドが使用されます。

『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』

管理ガイド

ここでは、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』に加えられた次の変更点について説明します。

- 86 ページの「HA 環境でのコンポーネントの開始、停止、および更新」
- 86 ページの「Access Manager を使用した配備で実行する、インストール後の追加手順」
- 86 ページの「*iim_agent.enable* パラメータのデフォルト値の変更」
- 86 ページの「Instant Messenger 用のカレンダーポップアップリマインダの設定」
- 86 ページの「`iim.conf` から削除されたパラメータ」
- 86 ページの「Java プラグイン用の Instant Messenger アーカイブコントロールコンポーネントの有効化」
- 87 ページの「HTML アプレットページおよび `pluginLaunch.jsp` ファイルの変更」
- 87 ページの「Java プラグイン用の Instant Messenger アーカイブコントロールを有効にするには」

- 87 ページの「アーカイブされたメッセージをデフォルトでない Portal Server 検索データベースに格納する」
- 87 ページの「新規ユーザー登録を可能にするサーバー設定」
- 88 ページの「XMPP トラフィック用の追加ロギングパラメータ」
- 91 ページの「Instant Messaging の高可用性」

HA 環境でのコンポーネントの開始、停止、および更新

Sun Cluster の稼働する HA 環境では、`imadmin start`、`imadmin stop`、および `imadmin refresh` コマンドを使用しないでください。その代わりに、Sun Cluster 管理ユーティリティーを使用してください。

Access Manager を使用した配備で実行する、インストール後の追加手順

(問題番号: 6189148) Instant Messaging サーバーとは異なるホストに Access Manager をインストールする場合は、設定ユーティリティーの実行後に、`imServices_*` ファイルを Instant Messaging サーバーホストから Access Manager ホストに手動でコピーする必要があります。

これを行うには次の手順に従います。

1. Instant Messaging サーバーホスト上で `imService_*.properties` ファイルを検索します。デフォルトでは、これらのファイルは、Solaris では `/opt/SUNWiim/lib/`に、Linux では `/opt/sun/im/lib/` 内 (Linux) に存在します。
2. ファイルを Access Manager ホスト内の `locale` ディレクトリにコピーします。このファイルを Sun JavaTM System Access Manager ホストの locale ディレクトリにコピーします。デフォルトでは、このディレクトリは、Solaris では `/opt/SUNWam/locale` に、Linux では `/opt/sun/identity/locale` に存在します。

iim_agent.enable パラメータのデフォルト値の変更

(問題番号: 5102072) このリリースでは、 `iim_agent.enable` パラメータのデフォルト値が false に変更されました。この変更は、『管理ガイド』に反映されていません。

Instant Messenger 用のカレンダーポップアップリマインダの設定

「Instant Messaging Server を設定する」の手順 1 が正しくありません。`SUNWiimag` という名前のパッケージは存在しません。この手順は省略してください。

`iim.conf` から削除されたパラメータ

『管理ガイド』のパラメータ一覧に *iim_server.msg_archive.auto* 設定パラメータが含まれていますが、これは誤りです。このパラメータは、現在ではサポートされていません。

Java プラグイン用の Instant Messenger アーカイブコントロールコンポーネントの有効化

(問題番号: 6244099) 『管理ガイド』に記載されている Instant Messenger アーカイブコントロールコンポーネントの有効化手順は、正しくありません。代わりに、87 ページの「HTML アプレットページおよび `pluginLaunch.jsp` ファイルの変更」に記載されている手順を実行してください。

HTML アプレットページおよび pluginLaunch.jsp ファイルの変更

Instant Messenger の起動に Java プラグインを使用している場合は、次の手順を実行して、Instant Messenger のアーカイブコントロール機能を有効にしてください。

▼ Java プラグイン用の Instant Messenger アーカイブコントロールを有効にするには

1. **Instant Messenger** のドキュメントルートディレクトリに移動して、im.html および imssl.html ファイルを検索します。

   デフォルトでは、このファイルは、次の場所にインストールされています。

   ```
   /etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider
   ```

2. テキストエディタで、.html ファイルを開きます。

3. 必要に応じて、次の行を追加または編集します。

   ```
   <PARAM NAME="archive_control" VALUE="true" />
   <EMBED archive_control=true;/>
   ```

アーカイブされたメッセージをデフォルトでない Portal Server 検索データベースに格納する

この手順を実行すると、エラーが発生します。具体的に言うと、次のディレクトリが正しくありません。

```
/etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider/
```

正しいディレクトリの書式は、次のとおりです。

/etc/opt/SUNWps/desktop/default_*locale*/IMProvider/

次に例を示します。

```
/etc/opt/SUNWps/desktop/default_ja/IMProvider/
```

新規ユーザー登録を可能にするサーバー設定

『管理ガイド』に記載されている新規ユーザー登録機能の説明は不十分です。新規ユーザー登録を可能にするには、Instant Messenger のカスタマイズに加えて、サーバーを設定する必要があります。

これを行うには、iim.conf に設定パラメータを 4 つ追加してから、サーバー設定を更新する必要があります。表 3–4 に、追加する設定パラメータを示します。

表 3–4 新規ユーザー登録を可能にするサーバー設定パラメータ

パラメータ	説明
iim.register.enable	TRUE の場合、サーバーは、Instant Messaging の新規一般ユーザーが Instant Messenger を使用して自己登録 (ディレクトリに追加) することを許可します。
iim_ldap.register.enable	TRUE の場合、サーバーは、Instant Messaging の新規一般ユーザーが Instant Messenger を使用して自己登録 (ディレクトリに追加) することを許可します。
iim_ldap.register.basedn	自己登録が有効の場合、このパラメータの値は、ユーザーのエントリが格納される LDAP ディレクトリ内の場所の DN になります。次に例を示します。 `"ou=people,dc=siroe,dc=com"`
iim_ldap.register.domain	新規ユーザーが追加されるドメイン。次に例を示します。 `directory.siroe.com`

▼ 新規ユーザー登録が許可されるようにサーバーを設定するには

1. `iim.conf` をテキストエディタで開きます。
2. 表 3–4 の説明に従って、設定パラメータおよび適切な値を追加します。
3. `iim.conf` を保存して閉じます。
4. `imadmin` コマンド行ユーティリティーを使って、サーバー設定を更新します。

   `imadmin refresh server`

注意 – Sun Cluster を使用する HA 環境では、`imadmin start`、`imadmin stop`、および `imadmin refresh` コマンドを使用しないでください。その代わりに、Sun Cluster 管理ユーティリティーを使用してください。

XMPP トラフィック用の追加ロギングパラメータ

(問題番号: 5070998) このリリースでは、XMPP メッセージを別個のログファイルにまとめるためのロギングパラメータが追加されました。このパラメータは、マニュアルには記載されていません。

▼ サーバーを設定して XMPP メッセージログを作成するには

1. iim.conf を開きます。

   デフォルトでは、 iim.conf ファイルは、次の設定ディレクトリにインストールされます。

   - Solaris:

     /etc/opt/SUNWiim/default/config/iim.conf

   - Linux:

     /etc/opt/sun/im/default/config/iim.conf

   Instant Messaging のインスタンスを複数作成した場合、 /default ディレクトリの名前はインスタンスに合わせて変化します。

2. コメント文字を削除して、次の行を有効にします。

   ```
   iim.log4j.config=log4j.conf
   ```

   この行が存在しない場合は、追加してください。

3. iim.conf を保存して閉じます。

4. log4j.conf という名前のファイルを作成して、設定ディレクトリに保存します。

5. 次の内容を log4j.conf に追加します。

   ```
   log4j.logger.xmppd=INFO, A1

   # DEFAULT TO RollingFileAppender
   log4j.appender.A1=org.apache.log4j.RollingFileAppender
   log4j.appender.A1.file=${logdir}/xmppd.log
   log4j.appender.A1.append=true
   log4j.appender.A1.maxBackupIndex=7
   log4j.appender.A1.maxFileSize=5mb
   # More example appenders..
   # Straight to console..
   # log4j.appender.A1=org.apache.log4j.ConsoleAppender
   # log4j.appender.A1.ImmediateFlush=true
   # Rollover at midnight..
   # log4j.appender.A1=org.apache.log4j.DailyRollingFileAppender
   # log4j.appender.A1.DatePattern='.'yyyy-MM-dd
   # log4j.appender.A1.file=${logdir}/xmppd.log
   # log4j.appender.A1.ImmediateFlush=true
   # log4j.appender.A1.append=true
   # Send to SMTP..
   # log4j.appender.A1=org.apache.log4j.SMTPAppender

   # PATTERN LAYOUT AND OPTIONS
   ```

```
# DEFAULT TO PatternLayout
log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
# For full dates..
log4j.appender.A1.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n
# IM traditional output format..
#log4j.appender.A1.layout.ConversionPattern=%d{HH:mm:ss,SSS} %-5p %c [%t] %m%n
# More example layouts
# XMLLayout for chainsaw consumption
# log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.xml.XMLLayout
# TTCCLayout for NDC information
# log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.xml.TTCCLayout
# log4j.appender.A1.layout.DateFormat=ISO8601
# log4j.appender.A1.layout.TimeZoneID=GMT-8:00
# log4j.appender.A1.layout.CategoryPrefixing=false
# log4j.appender.A1.layout.ThreadPrinting=false
# log4j.appender.A1.layout.ContextPrinting=false

# Now we list logger/appender/layout for the other default loggers, but
# only the defaults..
log4j.logger.iim_wd=ERROR, A2
log4j.appender.A2=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.A2.file=${logdir}/iim_wd.log
log4j.appender.A2.append=true
log4j.appender.A2.maxBackupIndex=7
log4j.appender.A2.maxFileSize=5mb
log4j.appender.A2.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.A2.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n

# For separate xmpp traffic log, disabled by default.
log4j.logger.xmppd.xfer=DEBUG, A3
#log4j.appender.A3=org.apache.log4j.varia.NullAppender
# Select next block instead of previous line to enable separate transfer log
log4j.appender.A3=org.apache.log4j.RollingFileAppender
# log4j.appender.A3.file=${logdir}/xfer.log
# log4j.appender.A3.append=true
# log4j.appender.A3.maxBackupIndex=7
# log4j.appender.A3.maxFileSize=5mb
# log4j.appender.A3.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
# # Note, simpler default output than above 3 loggers:
# log4j.appender.A3.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n

log4j.logger.agent-calendar=ERROR, A4
log4j.appender.A4=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.A4.file=${logdir}/agent-calendar.log
log4j.appender.A4.append=true
log4j.appender.A4.maxBackupIndex=7
log4j.appender.A4.maxFileSize=5mb
```

```
log4j.appender.A4.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.A4.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n

log4j.logger.net.outer_planes.jso.BasicStream=OFF, A5
log4j.appender.A5=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.A5.file=${logdir}/jso.log
log4j.appender.A5.append=true
log4j.appender.A5.maxBackupIndex=7
log4j.appender.A5.maxFileSize=5mb
log4j.appender.A5.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.A5.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n
```

6 `log4j.conf` を保存して閉じます。

7 サーバーを更新します。

```
imadmin refresh server
```

注意 – Sun Cluster を使用する HA 環境では、`imadmin start`、`imadmin stop`、および `imadmin refresh` コマンドを使用しないでください。その代わりに、Sun Cluster 管理ユーティリティーを使用してください。

▼ 別個の XMPP ログファイル作成を無効にするには

別個のログファイル作成を無効にしても、XMPP メッセージは引き続きサーバーログに書き込まれます。

1 `log4j.conf` を開きます。

2 次の行をコメントにします。

```
log4j.logger.xmppd.xfer=DEBUG, A3
```

Instant Messaging の高可用性

この機能に関する説明は、98 ページの「高可用性に対応した Instant Messaging の設定 (Solaris のみ)」で参照できます。

オンラインヘルプ

次の情報は、製品のオンラインヘルプまたはクイックレファレンスのいずれにも説明されていません。

「起動」画面

「起動」画面から Instant Messenger を起動できます。Java Web Start を使用している場合は、画面中央にある「起動」ボタンを押してください。Java プラグイン (Windows ユーザーのみ) を使用している場合は、画面上部の「Java プラグイン」ボタンをクリックして

ください。「オンラインヘルプ」および「クイックリファレンス」ボタンから、一般ユーザー向けの製品ヘルプを表示できます。

このリリースで修正されたバグ

表 3–5 に、この Instant Messaging 7 2005Q4 リリースで修正された問題を示します。

表 3–5 Instant Messaging 7 2005Q4 で修正された問題

問題番号	説明
5076386	一般ユーザーが有効なプライバシプロファイルを削除した場合、Instant Messenger ではそのプライバシプロファイルが削除されたことを表示しているにもかかわらず、サーバーでは削除された有効なプライバシプロファイルの適用を継続します。 回避策: 一般ユーザーがアクティブなプライバシプロファイルを削除すると、Instant Messenger が「すべてのユーザーに表示」プライバシプロファイルを自動的にアクティブにします。一般ユーザーは、異なるプライバシリストを作成してから、「すべてのユーザーに表示」プロファイルを再度アクティブにする必要があります。
6189338	以前は、日本語などの、英語以外のロケールでは、会議室へのアクセス権を「読み取り」に変更できませんでした。逆に、保存時に、アクセス権が「なし」に変更されてしまいました。この問題は修正されました。
6190366	連絡先リストにユーザーを追加する際、Instant Messenger クライアントのメインウィンドウの「会議室」タブにフォーカスが移動することはなくなりました。
6198525、6207036	会議室とニュースチャネルでは、特別なアクセス権を付与する前に、ユーザーに対してデフォルトのアクセス権を設定する必要があります。
6206530	以前は、フランス語にローカライズされたリソースファイルを使用している場合、リソースファイルのアポストロフィにエスケープ文字を追加する必要がありました。この操作は不要になりました。
6211624	日本語で `configure` ユーティリティーの実行中に、画面要素のタイトルの一部が表示されませんでした。
6212843	マルチバイト文字を含む電子メールアラートが、読み込み可能になりました。
6215222	LDAP ディレクトリ内のユーザーエントリに加えられた変更は、キャッシュが再検証されるまで Instant Messaging に反映されません。デフォルトでは、これは 10 分ごと、または Instant Messaging サーバーの起動ごとに発生します。 回避策: Instant Messaging サーバーを再起動するか、キャッシュの検証間隔をより適切な数値に設定します。この間隔を変更するには、*iim.policy.cache.validity* パラメータおよびその目標値を `iim.conf` に追加します。

既知の問題と制限事項

ここでは、Instant Messaging 7 2005Q4 リリース時の、重要度の高い既知の問題の一覧を示します。

パッチ更新は、頻繁に発行されています。Instant Messaging のインストールまたは使用時に問題に遭遇した場合は、その問題の修正を入手可能かどうかを Sun Support にお問い合わせください。または、SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com/`) にパッチを入手可能かどうかお問い合わせいただくこともできます。

表 3–6 に、既知の問題と制限事項の一覧を示します。

表 3–6 既知の問題と制限事項

ID	概要
4609599	マルチバイト文字のフォントをカスタマイズするためには、最初にテキストを入力して、次にそのテキストを強調表示してフォントのカスタマイズを適用する必要があります。
4632723	アイドル状態の検出機能は、Mac OS には実装されていません。 ユーザーが Instant Messenger セッションから退出しても、ユーザーの不在は自動的には検出されません。 回避策: Mac OS ユーザーは、退室前にステータスを明示的に「不在」に設定する必要があります。
4806791	画像の埋め込まれたアラートが、正確に表示されません。 受信者が画像の埋め込まれたアラートを受信した場合、画像が中央に表示されず、添付のテキストのフォント情報が失われます。
4841572	カスタマイズされたステータスが削除できません。 回避策: 最も少なく使用されたステータスが、最終的に削除されます。ステータスを即座に削除するには、カスタマイズした 5 つの新規ステータスを追加します。すると、最も古いステータスが消滅します。
4846542	MAC OS 上で、Java Web Start クライアントから印刷を試みると、Instant Messenger がハングアップします。 回避策: メッセージをコピーし、ほかのアプリケーションに貼り付けてから、印刷を行ってください。

表 3–6 既知の問題と制限事項　(続き)

ID	概要
4852882	Calendar Server のアラームタイプが `text/xml` に設定された場合、つまり、 `caldb.serveralarms.contenttype = "text/xml"` と設定された場合、Instant Messenger の「タスク期限のリマインダ」アラートウィンドウの「リマインダ」フィールドが空白になります。 回避策: このフィールドを `"text/calendar"` に設定します。
4858320	ある会議への参加権限を持たないユーザーにその会議への参加を依頼した場合、その操作の結果が正しく表示されません。そのユーザーは実際には参加依頼を受け取っていないのに、そのユーザーに参加が依頼されたかのように表示されます。
4860906	特定の gb18030 文字を使用すると、`conf_room/news` を作成できません。 会議とニュースの ACL ファイル名は、Instant Messenger から提供された名前を使って記述されるため、それらの名前にチベット文字またはアラビア文字が含まれていた場合、ACL の作成時に問題が発生します。
4871150	一部のロケールでは、Instant Messenger の印刷時にエラーが発生します。 回避策: 印刷するテキストを、印刷可能な別のアプリケーションにカット＆ペーストします。
4922347	チャットルーム内で読み取り専用ユーザーと完全な権限を持つユーザーとを区別する方法がありません。このため、あるユーザーが読み取り専用権限を持つユーザーにメッセージを送信する場合、混乱が生じる可能性があります。読み取り専用ユーザーは、メッセージを受け取れません。
4929247	モデレータがあるユーザーに対して Presence アクセスを拒否すると、そのユーザーはメッセージを送信できません。
4929295	複数の Instant Messaging ポリシーがユーザーに適用されている場合、ポリシー間で矛盾が生じる可能性があります。たとえば、「一般」と「会議室管理者」のポリシーが 1 人のユーザーに適用されている場合、このユーザーは会議室を管理できません。 回避策: 「会議室の管理権限」チェックボックスの選択を解除して、正会員のユーザーポリシーを編集します。こうすることにより、2 つのポリシーが矛盾しなくなります。
4944558	「アラート」ウィンドウの「Web 表示」タブに、Web ページが正しく表示されない場合があります。これは、Java HTML レンダリングの制限です。 回避策: 「Web 表示」タブの代わりに「メッセージ作成」タブを使用して URL を送信してください。

表 3–6 既知の問題と制限事項　(続き)

ID	概要
4960933	Windows のタスクバーのメニューラベルが、マルチバイト文字を使用する一部のロケールでは正しく表示されません。メニュー機能への影響はありません。
4978293	zh_HK ロケールでは、Instant Messenger が英語で表示されます。 回避策: ログインに zh_HK ロケールを使用するマシン上で繁体字中国語 (zh_TW) のメッセージを表示するには、zh_TW へのシンボリックリンクを作成する必要があります。

5004449、5084745	Linux では、configure ユーティリティーを実行すると、画面に警告メッセージが表示される場合があります。通常、これらの警告メッセージは、次のテキストで始まります。
	`WARNING: Cannot parse rpm files`
	`by running "/bin/rpm -qp --queryformat`
	実際にエラーが発生したわけではないので、設定は期待どおりに機能します。

5042884	一般ユーザーが検索結果でアーカイブしたデータを閲覧できてしまいます。これはアーカイブのプロバイダに問題があります。
5050973	ニュースメッセージのプロパティーが、ニュースメッセージと一緒に送信されません。その結果、次のクライアント機能が影響を受ける可能性があります。 ■ 件名がニュースメッセージと一緒に表示されません。 ■ ニュースメッセージで改行ができないため、全体が判読不能になっています。 ■ ニュースメッセージのフォーマットが失われる可能性があります。 ■ 添付ファイルを送信できません。 ■ 画像を送信できません。
5051299	サーバー間の通信で、一般ユーザーに対してニュースチャネルのアクセス権が機能しません。たとえば、アクセス権が NONE に設定されているユーザーが READ にアクセスすることができます。
5051369	サーバー間の通信で、別のサーバーでニュースチャネルに登録している一般ユーザーが、ニュースチャネルのメッセージ作成者とチャットできません。
5051371	サーバー間の通信で、NONE、READ、および WRITE などの一般ユーザーのアクセス権が、会議室で正しく機能しません。
5065241、5080586	Instant Messenger がサーバーに接続されていないのに、ステータスを変更するオプションが表示されます。接続されていない状態でステータスに加えられた変更は、有効になりません。

表 3–6 既知の問題と制限事項　(続き)

ID	概要
5071025	Instant Messenger で新規の連絡先グループを作成し、そのグループに連絡先を割り当てないで、ログアウトして再度ログインすると、この連絡先グループが連絡先一覧に表示されなくなります。 回避策: Instant Messenger からログアウトする前に、連絡先グループに連絡先を追加します。
5082579	ネットワーク接続が切断された後も、ユーザーステータスがオンラインのままになります。
5087303	一般ユーザーが最後に正常にログインしたサーバーが、Instant Messenger の「ログイン」ダイアログボックスに表示されない場合があります。この動作はユーザー名の動作と矛盾します。ユーザー名の場合は、最後に正常に使用されたユーザー名が、「ログイン」ダイアログボックスに表示されます。 回避策: 1. 「ログイン」ダイアログボックスで、「詳細」をクリックします。 2. 「サーバー」ドロップダウンリストから該当するサーバーを選択します。
5104840	ユーザーが「設定」ダイアログボックスの「プライバシ」タブで行った変更は、「了解」をクリックしたときではなく、変更が行われたときに保存されます。このため、このタブで変更を行った後で「取消し」をクリックしても、変更が保存されます。
6186465	Instant Messenger でテキストをカット＆ペーストすると、余計なキャリッジリターンが追加される場合があります。
6195180	「ニュース」ウィンドウに件名と送信者が表示されない場合があります。
6200472	このリリースの SDK から Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 サーバーを実行する場合、コラボレーションセッションファクトリオブジェクトのプロパティーを明示的に設定して、従来のプロトコル実装を使用する必要があります。このリリースの SDK は、従来のプロトコル実装をサポートしていますが、デフォルトでは、新しいプロトコル実装 (XMPP) を使用します。従来のプロトコル実装を使用するには、次のコンストラクタを API で使用して、`CollaborationSessionFactory` を使用する必要があります。 `CollaborationSessionFactory factory=new CollaborationSessionFactory("com.iplanet.im.client.api.iIMSessionFactory");`
6203957	Linux では、openLDAP クライアント RPM がインストールされていない場合、`ldapmodify` を実行しようとすると、`imServiceConfigure` が失敗します。

表 3–6 既知の問題と制限事項　(続き)

ID	概要
6205657	すでに会議室に参加しているユーザーに対してアクセス権を変更しても、その変更は、「会議室」ウィンドウを再起動するまで有効になりません。 回避策: 「会議室」ウィンドウを閉じて再起動し、アクセス権を更新します。
6213223、6217766	メッセージをニュースチャネルに投稿して、投稿したメッセージを表示せずにログアウトすると、メッセージが失われたように見えます。実際にはメッセージは存在しており、表示できないだけです。 回避策: Instant Messenger からログアウトする前に、ニュースチャネルに投稿したメッセージを表示するか、そのニュースチャネルを登録解除して、もう一度登録します。
6213365	アップグレード後にInstant Messaging サービスを起動できません。 回避策: アップグレードを行う前に、`SUNWiimdv` パッケージを削除します。
6217627	必要メモリに満たないマシンでは、configure ユーティリティーは Instant Messaging の設定を完了しますが、例外がスローされる場合があります。 回避策: `configure` ユーティリティーをインストールまたは実行する前に、システムが最小限のメモリ要件を満たしていることを確認してください。それでもこの問題が発生する場合は、次を実行します。 Solaris: `/opt/SUNWiim/lib/imServiceConfigure` Linux: `/opt/sun/im/lib/imServiceConfigure`
6244099	『管理ガイド』には、Java プラグイン用の Instant Messenger アーカイブコントロールコンポーネントの有効化について、混乱を招くような情報が含まれています。このコンポーネントは、このリリースには存在しません。
6271708	サーバー間の環境で SSL を使用する際に、問題が発生します。 回避策: SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com/`) から製品パッチをダウンロードします。
6282401	Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 は、このリリースに含まれる共有コンポーネントと互換性がありません。 回避策: 共有コンポーネントをアップグレードする必要がある場合は、すべての Instant Messaging コンポーネントを現在のバージョンにアップグレードします。
6282887	Windows 2000 上で動作するローカライズされた Instant Messenger では、フォルダポップアップメニューの最初の項目が正しく表示されません。この項目には、「閉じる」というテキストが表示されるはずです。 回避策: クライアントシステムで、JDK 1.5 (5.0) の代わりに JDK 1.4.2 を使用します。

表 3–6 既知の問題と制限事項　(続き)

ID	概要
6286776、6288533	サーバー間の環境で Instant Messenger を使用する際に問題が発生します。 回避策: SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com/`) から製品パッチをダウンロードします。
6291159	`iim.conf` の *iim_server.clienttimeout* パラメータに設定された値と、Instant Messenger がサーバーから接続解除されるまでの経過時間が異なります。 回避策: 次のシステムプロパティーを、`-D` オプションを使って設定します。 `com.sun.im.service.xmpp.session.keepaliveinterval` 値を、Instant Messenger がサーバーにバイトを送信開始するまでの秒数に設定します。これらのバイトは、タイムアウトおよびそれに続く接続の切断を防ぐためだけに使用されます。
6302273	Access Manager の配備では、Access Manager がタイムアウトすると、Instant Messenger の接続が切断されます。Instant Messaging サーバーの再起動が行われるまで、再び接続することはできません。 回避策: SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com/`) から製品パッチをダウンロードします。
6302312	Instant Messenger の接続がサーバーから切断されると、再接続しても正しく動作しない場合があります。たとえば、Presence 情報が正しく表示さないために、会議室が機能しないことがあります。 回避策: 接続が切断された後で会議室に参加するには、「会議室」タブの会議室をダブルクリックする代わりに、チャットアイコンをクリックします。さらに、 SunSolve Online (`http://sunsolve.sun.com/`) から製品パッチをダウンロードすることもできます。

高可用性に対応した **Instant Messaging** の設定 **(Solaris** のみ**)**

高可用性 (HA) に対応した Instant Messaging を設定すると、ソフトウェアおよびハードウェア障害の監視および復旧機能が提供されます。高可用性機能は、スケーラブルサービスではなく、フェイルオーバーデータサービスとして実装され、Solaris のみでサポートされます。ここでは、Sun Cluster ソフトウェアを使用した Instant MessagingHA 設定について説明します。Sun Cluster の提供するデータサービスの詳細については、113 ページの「HA 関連のマニュアル」を参照してください。

ここでは、Instant Messaging HA サービスの設定方法について説明します。次の節が含まれます。

- 99 ページの「Instant Messaging HA の概要」
- 101 ページの「Instant Messaging 用 HA の設定」
- 110 ページの「Instant Messaging HA サービスの停止、起動、および再起動」
- 110 ページの「Instant Messaging 用 HA RTR ファイルの管理」
- 112 ページの「Instant Messaging 用 HA の削除」

- 113 ページの「HA 関連のマニュアル」

Instant Messaging HA の概要

Instant Messaging で Sun Cluster を使用して、高可用性配備を作成できます。ここでは、HA の要件、この章の例で使用する用語、および HA の設定に必要なアクセス権について説明します。

操作を開始する前に、HA の一般的な概念、および特に Sun Cluster ソフトウェアに精通するようにしてください。詳細は、113 ページの「HA 関連のマニュアル」を参照してください。

HA 設定のソフトウェア要件

Instant Messaging HA の設定を行うには、表 3–7 に示すソフトウェアが必要です。

表 3–7 Instant Messaging HA 設定のソフトウェア要件

ソフトウェアおよびバージョン	注記およびパッチ
Solaris 9 OS SPARC プラットフォームのみ	Solaris 9 OS の全バージョンがサポートされています。 Solaris 9 OS には Sun Cluster 3.0 U3 以降が必要です。 Solaris 9 OS には、Solaris Logical Volume Manager (LVM) が含まれています。
Solaris 8 OS SPARC プラットフォームのみ	Solaris 8 Maintenance Update 7 (MU7) OS 以降および必須パッチ
Sun Cluster 3.1	Sun Cluster ソフトウェアは、クラスタ内のすべてのノードにインストールおよび設定する必要があります。 Sun Cluster 3.1 をインストールするには、Java Enterprise System インストーラを使用します。インストール手順については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』を参照してください。 Sun Cluster ソフトウェアのインストール後に、クラスタを設定する必要があります。詳細は、『 Sun Cluster System Administration Guide for Solaris OS』を参照してください。関連するマニュアルについては、113 ページの「HA 関連のマニュアル」を参照してください。 **Sun Cluster** パッチ Solaris 8 および 9 の場合は、SunSolve Online からパッチをダウンロードできます。

表 3–7 Instant Messaging HA 設定のソフトウェア要件　(続き)

ソフトウェアおよびバージョン	注記およびパッチ
Solstice DiskSuite 4.x	Solstice DiskSuite は、Solaris 8 OS のみで使用できます。 Solstice DiskSuite は、Solaris 9 OS では不要です。Solaris 9 OS には Logical Volume Manager (LVM) が含まれています。
Veritas Volume Manager (VxVM) 3.x	Solaris 8 OS では、Version 3.2 以降および必須パッチが必要です。 Solaris 9 OS では、Version 3.5 以降および必須パッチが必要です。
Veritas File System (VxFS) 3.x	Solaris 8 OS では、Version 3.4 以降および必須パッチが必要です。 Solaris 9 OS では、Version 3.5 以降および必須パッチが必要です。 HAStoragePlus では、パッチ 110435-08 以降が必要です。

HA 設定のアクセス権要件

Instant Messaging HA 設定をインストールおよび設定するには、ユーパーユーザー (`root`) としてログインするか、スーパーユーザーになり、`/dev/console` に送信されたメッセージを表示するコンソールまたはウィンドウを指定します。

HA 設定の用語とチェックリスト

表 3–8 で、この章の設定例で使用する変数の用語について説明します。また、Instant Messaging に合わせて HA を設定する前に、情報を収集する必要があります。設定時に、この情報を指定するように求められます。次のチェックリストを、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の第 1 章に記載されているチェックリストと共に使用してください。

表 3–8 HA 設定のチェックリスト

例で使用される名前	説明	実際に指定する値
/global/im	クラスタファイルシステムまたは HAStoragePlus で使用されるグローバルファイルシステムのマウントポイント。	
/local/im	HAStoragePlus を使用している場合に、共有ディスクのマウントポイントとして使用するローカルディレクトリ。	
im_logical_host	論理ホスト名	

表 3–8 HA 設定のチェックリスト　(続き)

例で使用される名前	説明	実際に指定する値
im_logical_host_ip	論理ホストの IP アドレス (数値)	
im_node_1	ノード 1 FQDN	
im_node_2	ノード 2 FQDN	
im_resource_group	Instant Messaging リソースグループ。	
im_resource_group_store	Instant Messaging ストレージリソース。	
im_resource	Instant Messaging リソース。	
im_runtime_base (*im_runtime_base*/`db` および *im_runtime_base*/`logs` を含む)	実行時ディレクトリ (データベースおよびログサブディレクトリを含む) の場所としては、グローバルな共有パーティションを選択します。次に例を示します。 ■ Instant Messaging 実行時ディレクトリ (*im_runtime_base*) /*global*/*im*/`var/opt/SUNWiim/default` (Solaris の場合) ■ デーベースサブディレクトリ (*im_db_base*): /*global*/*im*/`var/opt/SUNWiim/default/db` ■ ログサブディレクトリ: /*global*/*im*/`var/opt/SUNWiim/default/logs` 実行時ディレクトリおよびデータベースとログサブディレクトリの詳細については、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 Administration Guide』を参照してください。	

Instant Messaging 用 HA の設定

次のリストに、2 つのノードを持つ Instant Messaging HA 設定のインストールおよび設定に必要な大まかな手順を示します。

- 102 ページの「設定ファイルおよびバイナリ用のローカルまたは共有ディスクの選択」
- 102 ページの「クラスタ内の各ノードの準備」

- 103 ページの「インストールディレクトリの選択 (*im_svr_base*)」
- 103 ページの「Instant Messaging 製品およびパッケージのインストール」
- 104 ページの「HA 環境の設定」
- 108 ページの「論理ホストの設定」
- 108 ページの「ストレージリソースの登録と有効化」
- 109 ページの「リソースタイプの登録とリソースの作成」
- 109 ページの「Instant Messaging HA 設定の検証」
- 110 ページの「Instant Messaging HA 設定のトラブルシューティング」

設定ファイルおよびバイナリ用のローカルまたは共有ディスクの選択

操作を開始する前に、求められる要件を最も良く満たすのは、次の配備のどちらであるかを決定する必要があります。どちらの環境でも、共有コンポーネントはクラスタ内のすべてのノード上にローカルインストールされます。また、どちらの環境でも、実行時ファイルが共有ディスクにインストールされます。

- ファイルおよびバイナリの設定にローカルディスクを使用する。この設定方法の利点は、Instant Messaging がオフラインになっているノード上でアップグレードを実行できるため、Instant Messaging をアップグレードする際に最小のダウンタイムで済むことです。欠点は、クラスタ内のすべてのノードに、同一の Instant Messaging 設定およびバージョンが存在することを確認する必要があることです。

  また、このオプションを選択した場合は、Instant Messaging データサービスがオンラインになったときに、HAStoragePlus を使用して各ノード上の共有ディスクからファイルシステムをマウントするかどうか、またはグローバルの実行時ファイルに対してクラスタファイルを使用するかどうかを決定する必要があります。

- ファイルおよびバイナリの設定に共有ディスクを使用する。この設定方法は、管理が容易ですが、アップグレードする前にクラスタ内のすべてのノードで Instant Messaging をダウンさせる必要があります。

クラスタ内の各ノードの準備

クラスタ内の各ノードで、コンポーネントを実行する Instant Messaging ランタイムユーザーおよびグループを作成する必要があります。UID および GID 番号は、クラスタ内のすべてのノードで同じでなければなりません。

- ランタイムユーザー **ID**。Instant Messaging サーバーを実行するユーザー名です。この名前を `root` にすべきではありません。デフォルトは、`inetuser` です。
- ランタイムグループ **ID**。Instant Messaging サーバーを実行するグループです。デフォルトは `inetgroup` です。

  `configure` ユーティリティーでもこれらの名前を作成できますが、設定プログラムを実行する前に、この章で説明する各ノードの準備の一環としてこれらの名前を作成できます。また、ローカルディスクを使用している、または共有ディスクを使用しているために、特定のノード上で `configure` を実行できない場合、ランタイムユーザーおよびグループ ID を手動で作成する必要があります。

  ランタイムユーザーおよびグループ ID 名は、次のファイルに存在する必要があります。

- クラスタ内の全ノードの `/etc/passwd` にある `inetuser` または選択した名前
- クラスタ内の全ノードの `/etc/group` にある `inetgroup` または選択した名前

指示の詳細については、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』を参照してください。ユーザーおよびグループの詳細は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

インストールディレクトリの選択 (*im_svr_base*)

Instant Messaging では、Java Enterprise System インストーラは、Solaris の `/opt/SUNWiim` をデフォルトのインストールディレクトリ (*im_svr_base*) として使用します。ただし、設定ファイルおよびバイナリ用の共有ディスクを使用している場合は、グローバル (共有) インストールディレクトリを指定する必要があります。次に例を示します。
/global/im`/opt/SUNWiim` 。

ローカルディスクを使用している場合は、Instant Messaging をデフォルトのディレクトリにインストールできます。ただし、Instant Messaging をノード内の各マシン上の同じディレクトリにインストールする必要があります。

Instant Messaging 製品およびパッケージのインストール

製品およびパッケージのインストールには、Sun Java Enterprise System インストーラプログラムを使用します。インストーラの詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』を参照してください。

表 3–9 に、複数ノードのクラスタプログラムに必須の製品およびパッケージを示します。

表 3–9 複数ノードの Instant Messaging HA 設定に必須の製品およびパッケージ

製品またはパッケージ	ノード 1	ノード *n*
Sun Cluster ソフトウェア	はい	はい
Instant Messaging 7 2005Q4 サーバー	はい	はい (設定ファイルおよびバイナリ用にローカルディスクを使用している場合)いいえ (設定ファイルおよびバイナリ用に共有ディスクを使用している場合)
Sun Cluster Agent for Instant Messaging (`SUNWiimsc`)	はい	はい (設定ファイルおよびバイナリ用にローカルディスクを使用している場合)いいえ (設定ファイルおよびバイナリ用に共有ディスクを使用している場合)

表 3–9 複数ノードの Instant Messaging HA 設定に必須の製品およびパッケージ (続き)

共有コンポーネント	はい	はい
HAStoragePlus を使用している場合は、SUNWscu もインストールする必要があります		

HA 環境の設定

必要な実行手順は、設定ファイルおよびバイナリ用にローカルディスクを使用しているか、共有ディスクを使用しているかにより異なります。

設定ファイルおよびバイナリ用にローカルディスクを使用している場合は、次の 2 つの手続きに示された手順を実行します。

- 104 ページの「設定ファイルおよびバイナリ用のローカルディスクを使用して、ノード 1 上に HA を設定するには」
- 105 ページの「設定ファイルおよびバイナリ用にローカルディスクを使用して、ノード *n* 上で HA を設定するには」

設定ファイルおよびバイナリ用に共有ディスクを使用している場合は、次の 2 つの手続きに示された手順を実行します。

- 106 ページの「設定ファイルおよびバイナリ用の共有ディスクを使用して、ノード 1 上に HA を設定するには」
- 107 ページの「設定ファイルおよびバイナリ用に共有ディスクを使用して、ノード n 上で HA を設定するには」

▼ 設定ファイルおよびバイナリ用のローカルディスクを使用して、ノード 1 上に HA を設定するには

始める前に 『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の第 1 章および表 3–8 のチェックリストに記入して、必要な情報をすぐに指定できるようにしておいてください。

1. **Java Enterprise System** インストーラを使用して製品およびパッケージをインストールします。

   インストールディレクトリの選択に関する詳しい指示については、103 ページの「インストールディレクトリの選択 (*im_svr_base*)」を参照してください。

   HA 用の必須製品およびパッケージのリストについては、表 3–9 を参照してください。指示の詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』を参照してください。

2. 実行時ファイル用に **HAStoragePlus** を使用している場合は、共有ディスクをローカルディレクトリにマウントするか、手順 **3** に進みます。

   次に例を示します。

   a. マウントポイント (*/local/ im/im_runtime_base/*) が存在しない場合は、マウントポイントを作成します。

      手順 4 で設定中に指定するよう求められた場合は、このディレクトリ (*/local /im/im_runtime_base/*) をInstant Messaging サーバーの実行時ファイルのディレクトリに指定します。

   b. `mount` コマンドを使用して、ディスクを */local/im/im_runtime_base* にマウントします。

3. `configure` ユーティリティーを実行します。

   指示の詳細については、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』を参照してください。

4. **Instant Messaging** サーバーの実行時ファイルのディレクトリを指定するよう求められたら、次のいずれかを入力してください。

   - 実行時ファイルで HAStoragePlus を使用している場合は、 */local/im/im_runtime_base /* を入力します。
   - 実行時ファイルでクラスタファイルシステムを使用している場合は、*/global/im/ im_runtime_base /* を入力します。ここで、*/global/ im* には、クラスタファイルシステム内のグローバルディレクトリを指定します。

5. **Instant Messaging** のホスト名の指定が求められたら、論理ホストを入力します。

   `configure` ユーティリティーが指定されたホストに接続できない場合でも、論理ホストの受け入れを選択します。論理ホストのリソースは、`configure` ユーティリティーの実行時にオフラインの可能性があります。

6. 設定後やシステムの起動時に、**Instant Messaging** の起動を選択しないようにしてください。

   さらに、HA 設定を行う場合、Instant Messaging が正しく動作するために、Instant Messaging サービスで論理ホストがオンラインになっている必要があります。

7. 実行時ファイルで **HAStoragePlus** を使用している場合は、共有ディスクをマウント解除します。

▼ 設定ファイルおよびバイナリ用にローカルディスクを使用して、ノード *n* 上で **HA** を設定するには

始める前に　前の手順 (104 ページの「設定ファイルおよびバイナリ用のローカルディスクを使用して、ノード 1 上に HA を設定するには」) の説明に従って、ノード 1 上の HA 構成が完了していることを確認します。

『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の第 1 章および表 3–8 のチェックリストで、必要な情報をすぐに指定できるようにしておきます。

1. **Java Enterprise System** インストーラを使用して製品およびパッケージをインストールします。

   クラスタ内の後続ノードごとに、ノード 1 への Instant Messaging のインストール時に使用したのと同じパスを選択します。指示の詳細は、103 ページの「インストールディレクトリの選択 (*im_svr_base*)」を参照してください。

   HA 用の必須製品およびパッケージのリストについては、表 3–9 を参照してください。指示の詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』を参照してください。

2. `configure` ユーティリティーを実行します。

   指示の詳細については、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の第 1 章を参照してください。

3. **Instant Messaging** サーバーの実行時ファイルディレクトリを指定するよう求められたら、ノード **1** で指定したのと同じ値を入力します。

4. **Instant Messaging** ホスト名を指定するよう求められたら、ノード **1** で指定したのと同じ論理ホストを入力します。

   `configure` ユーティリティーが指定されたホストに接続できない場合でも、論理ホストの受け入れを選択します。論理ホストのリソースは、`configure` ユーティリティーの実行時にオフラインの可能性があります。

5. ユーザーおよびグループの入力が求められたら、ノード **1** で指定したのと同じ値を入力します。

6. 設定後やシステムの起動時に、**Instant Messaging** の起動を選択しないようにしてください。

   さらに、HA 設定を行う場合、Instant Messaging が正しく動作するために、Instant Messaging サービスで論理ホストがオンラインになっている必要があります。

▼ 設定ファイルおよびバイナリ用の共有ディスクを使用して、ノード 1 上に HA を設定するには

始める前に　『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の第 1 章および表 3–8 のチェックリストに記入して、必要な情報をすぐに指定できるようにしておいてください。

HAStoragePlus ではなく、設定ファイルおよびバイナリ用の共有ディスクを使用している場合は、クラスタファイルシステムを使用する必要があります。

1. **Java Enterprise System** インストーラを使用して、クラスタファイルシステム内のディレクトリに製品およびパッケージをインストールします。

   Instant Messaging をインストールする場合は、デフォルトディレクトリ以外のディレクトリを指定する必要があります。指示の詳細は、103 ページの「インストールディレクトリの選択 (*im_svr_base*)」を参照してください。

   HA 用の必須製品およびパッケージのリストについては、表 3–9 を参照してください。指示の詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』を参照してください。

2. `/etc/opt/SUNWiim` から */global/im/*`etc/opt/SUNWiim` をリンク先とするソフトリンクを作成します。

3. **Instant Messaging** をインストールしたグローバルディレクトリ (*/global/im/im_svr_base/*`configure`) から `configure` を実行します。

   指示の詳細は、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の第 1 章を参照してください。

4. **Instant Messaging** サーバーの実行時ファイルディレクトリを指定するよう求められたら、*/global/im/ im_runtime_base* の値を入力します。

5. **Instant Messaging** のホスト名の指定が求められたら、論理ホストを入力します。

   `configure` ユーティリティーが指定されたホストに接続できない場合でも、論理ホストの受け入れを選択します。論理ホストのリソースは、`configure` ユーティリティーの実行時にオフラインの可能性があります。

6. 設定後やシステムの起動時に、**Instant Messaging** の起動を選択しないようにしてください。

   さらに、HA 設定を行う場合、Instant Messaging が正しく動作するために、Instant Messaging サービスで論理ホストがオンラインになっている必要があります。

▼ 設定ファイルおよびバイナリ用に共有ディスクを使用して、ノード **n** 上で **HA** を設定するには

始める前に　前の手順 (106 ページの「設定ファイルおよびバイナリ用の共有ディスクを使用して、ノード 1 上に HA を設定するには」) の説明に従って、ノード 1 上の HA 設定が完了していることを確認します。

『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の第 1 章および表 3–8 のチェックリストで、必要な情報をすぐに指定できるようにしておきます。

1. `/etc/opt/SUNWiim` から */global/im/*`etc/opt/SUNWiim` をリンク先とするソフトリンクを作成します。

2 リソースタイプ登録 (RTR) ファイルのソフトリンクを作成します。

```
ln -s /global/im/
im_svr_base/cluster/SUNW.iim  \
/usr/cluster/lib/rgm/rtreg/SUNW.iim
```

論理ホストの設定

Instant Messaging を起動する前に、リソースグループの作成、論理ホストの追加、およびリソースグループのオンライン化を実行する必要があります。

▼ 論理ホストを使ってリソースグループを設定するには

1 **Instant Messaging** のフェイルオーバーリソースグループを *im_resource_group* という名前で作成します。

```
# scrgadm -a -g im_resource_group -h
im-node-2,im-node-1
```

2 リソースグループに論理ホスト名 *im_logical_host* を追加します。

Instant Messaging は、このホスト名上で待機します。

```
# scrgadm -a -L -g im_resource_group -l
im_logical_host
```

3 リソースグループをオンラインにします。

```
# scswitch -Z -g im_resource_group
```

ストレージリソースの登録と有効化

Instant Messaging データサービスをオンラインにする前に、ここで説明する手順に従って、ストレージリソースを 登録および有効化する必要があります。

▼ ストレージリソースを登録および有効化するには

1 ストレージリソースを登録します。

グローバルファイルシステム (GFS) を使って HAStoragePlus を使用する場合、マウントポイントを *FileSystemMountPoints* プロパティーの値として設定します。次に例を示します。

```
# scrgadm -a -j im_resource_group_store
 -g im_resource_group -t SUNW.HAStorage   \
-x FileSystemMountPoints=/global/
im -x AffinityOn=True
```

または、マウントポイントを *ServicePaths* プロパティーとして指定します。次に例を示します。

```
# scrgadm -a -j im-resource-group-store
 -g im-resource-group -t SUNW.HAStorage   \
-x ServicePaths=/global/im -x AffinityOn=True
```

2 ストレージリソースを有効にします。

```
# scswitch -e -j im_resource_group_store
```

リソースタイプの登録とリソースの作成

HA Instant Messaging サーバーまたはマルチプレクサを起動する前に、Sun Cluster でリソースタイプ SUNWiimsc を登録して、リソースを作成する必要があります。

▼ リソースタイプを登録して、リソースを作成するには

1 リソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.iim
```

2 リソースを作成します。

次のコマンドを 1 行で入力します。

```
# scrgadm -a -j im_resource -g
im_resource_group -t SUNW.iim
-x Confdir_list=/global/im/
im_resource_group
-y Resource_dependencies=im_resource_group_store -y Port_list=80/tcp
```

3 リソースを有効にします。

```
# scswitch -e -j im_resource
```

4 **Instant Messaging** コンポーネントを起動します。

注意 – Sun Cluster を使用する HA 環境では、imadmin start、imadmin stop、および imadmin refresh コマンドを使用しないでください。その代わりに、Sun Cluster 管理ユーティリティーを使用してください。

Instant Messaging HA 設定の検証

Instant Messaging の起動後に、ここで説明する手順に従って HA 設定を検証する必要があります。

▼ Instant Messaging の HA 設定を検証するには

1 すべての必須プロセスが実行中であることを確認します。

2 高可用性を保証するため、サービスをバックアップノードに切り替えます。

たとえば、サービスが *im_node_1* 上で稼働している場合、次のコマンドを実行してサービスを *im_node_2* に切り替えます。

```
# scswitch -z -g im_resource_group -h
im_node_2
```

3 すべての必須プロセスが *im_node_2* 上で起動していることを確認します。

Instant Messaging HA 設定のトラブルシューティング

トラブルシューティングを容易にするため、エラーログにエラーメッセージが書き込まれます。このログは、`syslog` 機能で制御されます。ログ機能の使用方法の詳細は、113 ページの「HA 関連のマニュアル」および `syslog.conf` のマニュアルページを参照してください。

Instant Messaging HA サービスの停止、起動、および再起動

Instant Messaging HA サービスを起動および停止するには、Sun Cluster の `scswitch` コマンドを使用します。

注意 – Sun Cluster を使用する HA 環境では、`imadmin start`、`imadmin stop`、および `imadmin refresh` コマンドを使用しないでください。その代わりに、Sun Cluster 管理ユーティリティーを使用してください。

Sun Cluster `scswitch` コマンドの詳細は、『Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS』を参照してください。

▼ Instant Messaging HA サービスを起動するには

◗ 次のコマンドをコマンド行に入力します。

```
# scswitch -e -j im_resource
```

▼ Instant Messaging HA サービスを停止するには

◗ 次のコマンドをコマンド行に入力します。

```
# scswitch -n -j im_resource
```

▼ Instant Messaging HA サービスを再起動するには

◗ 次のコマンドをコマンド行に入力します。

```
# scswitch -R -j im_resource
```

Instant Messaging 用 HA RTR ファイルの管理

リソースタイプ登録 (RTR) ファイルは、Resource Group Manager (RGM) の制御下で動作する高可用性リソースタイプについて記述された ASCII テキストファイルです。 RTR ファイルは、クラスタ設定にリソースタイプを登録するための入力ファイルとして `scrgadm` コマンドにより使用されます。Instant Messaging RTR ファイル `SUNW.iim` は、HA の設定時に、`SUNWiimsc` パッケージをインストールすると作成されます。

ここでは、このファイルの管理方法について説明します。次の節が含まれます。

- 111 ページの「Instant Messaging RTR ファイルのパラメータ」
- 112 ページの「Instant Messaging 用の RTR ファイルのカスタマイズ」

Instant Messaging RTR ファイルのパラメータ

次の表には、Instant Messaging に固有の Instant Messaging RTR ファイル (`SUNW.iim`) の拡張プロパティーのリストを示します。

表 3–10 `SUNW.iim` の拡張プロパティー

拡張プロパティー	デフォルト	説明
`Server_Root`	設定ファイルおよびバイナリの格納にローカルディスクを使用している場合: *im_svr_base* 設定ファイルおよびバイナリの格納に共有ディスクを使用している場合: */global/im/im_svr_base*	Instant Messaging サーバーのインストールディレクトリの絶対パスを定義します。デフォルトでは、Solaris の *im_svr_base* は `/opt/SUNWiim` です。
`Confdir_list`	なし	Instant Messaging 設定の絶対パスを定義します。この値は、`SUNWiimsc` のインストール時に設定されます。
`Monitor_retry_count`	4	プロセスモニター機能 (PMF) が、障害モニターが稼働していないことを検出した場合に、障害モニターの再起動を試みる回数を定義します。
`Monitor_retry_interval`	2 (分)	PMF により障害モニターの再起動が試みられる時間間隔 (単位は分)
`Probe_timeout`	30 (秒)	Sun Cluster による探索で、Instant Messaging への接続が成功するまでの待機時間 (単位は秒)

表 3–10 SUNW.iim の拡張プロパティー　(続き)

拡張プロパティー	デフォルト	説明
Failover_enabled	True	設定した再試行間隔 (retry_interval) の間に設定した再試行回数 (retry_count) を超えた場合、別のノードにフェイルオーバーするかどうかを決定します。再試行およびその他のパラメータの詳細は、『Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS』を参照してください。

Instant Messaging 用の RTR ファイルのカスタマイズ

Instant Messaging RTR ファイル (SUNW.iim) の拡張プロパティー値をいくつか変更して、HA 環境を設定できます。拡張プロパティーは、リソースタイプに固有のプロパティーです。これらのプロパティーは、同タイプのすべてのリソースに継承されます。Instant Messaging 拡張プロパティーについては、111 ページの「Instant Messaging RTR ファイルのパラメータ」を参照してください。

リソースタイプ登録ファイルの内容および拡張プロパティー値のカスタマイズ方法の詳細は、『Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS』の rt_reg および property_attributes に関する解説を参照してください。

Instant Messaging 用 HA の削除

HA 環境から Instant Messaging を削除するには、この節で説明したように、Instant Messaging クラスタエージェント SUNWiimsc を削除する必要があります。

▼ Instant Messaging 用 HA を削除するには

始める前に　ここで説明した手順に従って SUNWiimsc パッケージを削除すると、RTR ファイル SUNW.iim に対するカスタマイズがすべて失われます。後でカスタマイズを復元するには、SUNWiimsc パッケージを削除する前に、SUNW.iim のバックアップコピーを作成する必要があります。

1. **Instant Messaging** データサービスを停止します。

   scswitch -F -g *im_resource_group*

2. **Instant Messaging** リソースグループ (*im_resource_group*) 内のすべてのリソースを無効にします。

   # scswitch -n -j *im_resource*
   # scswitch -n -j *im_logical_host*
   # scswitch -n -j *im_resource_group_store*

3 **Instant Messaging** リソースグループからリソースを削除します。

```
# scrgadm -r -j im_resource
# scrgadm -r -j im_logical_host
# scrgadm -r -j im_resource_group_store
```

4 **Instant Messaging** リソースグループを削除します。

```
# scrgadm -r -g im_resource_group
```

5 **Instant Messaging** リソースタイプを削除します。

```
# scrgadm -r -t SUNW.iim
```

6 **Java Enterprise System** インストーラを使用するか、次の方法で手動で `SUNWiimsc` パッケージを削除します。

```
pkgrm SUNWiimsc
```

パッケージを削除すると、RTR ファイル対するカスタマイズがすべて失われます。

7 設定ファイルおよびバイナリ用の共有ディレクトリを使用している場合、**HA** の設定時に作成したすべてのソフトリンクを削除します。

ノード 1 で次のコマンドを実行します。

```
rm /etc/opt/SUNWiim
```

その他のすべてのノードで次のコマンドを実行します。

```
rm /usr/cluster/lib/rgm/rtreg/SUNW.iim
```

HA 関連のマニュアル

- 『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』
- 『Sun Java Enterprise System 2005Q4 技術の概要』
- 『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』 には、Java Enterprise System インストーラ (とアンインストーラ) およびサポートされるインストールシナリオが解説されています。
- 『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Release Notes』には、Sun Java Enterprise System 製品に関する最新情報が含まれています。
- 『Sun Cluster Concepts Guide for Solaris OS』には、Sun Cluster ソフトウェア、データサービスの一般的な背景情報、およびリソースタイプ、リソース、リソースグループの用語解説が含まれます。
- 『Sun Cluster Data Services Planning and Administration Guide for Solaris OS』では、データサービスの計画および管理に関する一般的な情報が提供されます。
- 『Sun Cluster System Administration Guide for Solaris OS』では、Sun Cluster 設定を管理するためのソフトウェア上の手順が解説されています。

- 『Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS』では、Sun Cluster ソフトウェアで利用可能なコマンド (`SUNWscman` や `SUNWccon` パッケージだけに存在するコマンドを含む) およびユーティリティーについて説明されています。
- 『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 配備計画ガイド』では、Instant Messaging で HA を実装する方法の詳細が説明されています。

再配布可能なファイル

Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4 には、再配布可能なファイルは存在しません。

第 4 章

Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4 リリースノート

Version 6 2005Q4

このリリースノートには、Sun Java™ System Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4 のリリース時点で利用可能な重要な情報が含まれています。ここでは、新機能、拡張機能、既知の問題と制限、およびその他の情報について説明します。Delegated Administrator 6 2005Q4 を使い始める前に、本書をお読みください。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- 115 ページの「リリースノートの改訂履歴」
- 116 ページの「Delegated Administrator について」
- 116 ページの「このリリースの新機能」
- 117 ページの「要件」
- 119 ページの「インストールに関する注意事項」
- 121 ページの「互換性に関する問題」
- 121 ページの「Delegated Administrator 6 2005Q4 のマニュアルの更新」
- 121 ページの「このリリースで修正された既知の問題」
- 122 ページの「既知の問題と制限事項」

リリースノートの改訂履歴

表 4–1 Delegated Administrator リリースノートの改訂履歴

日付	変更の説明
2005 年 9 月 30 日	既知の問題、このリリースで修正された問題、互換性の問題を更新しました。
2005 年 4 月 4 日	新機能、インストール要件、要件に関する情報を追加しました。

Delegated Administrator について

Sun Java System Communications Services Delegated Administrator を使用すれば、Messaging Server や Calendar Server などの Communications Services アプリケーションが利用する LDAP ディレクトリ内での、組織 (ドメイン)、ユーザー、グループ、およびリソースのプロビジョニングを行えます。

Delegated Administrator ツールには 2 つのインタフェースがあります。

- `commadmin` コマンドで起動されるユーティリティー (一連のコマンド行ツール)。
- Web ブラウザ経由でアクセス可能なコンソール (グラフィカルユーザーインタフェース)。

管理者が GUI を使用して LDAP ディレクトリでユーザーをプロビジョニングする方法については、Delegated Administrator コンソールのオンラインヘルプを参照してください。

Delegated Administrator を設定および管理する方法や `commadmin` コマンド行ツールについては、『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Delegated Administrator 管理ガイド』を参照してください。

このリリースの新機能

Communications Services Delegated Administrator を使用する場合は、ユーザーは LDAP Schema 2 ディレクトリのみでプロビジョニングできます。LDAP Schema 1 ディレクトリで Messaging Server ユーザーをプロビジョニングするには、推奨されなくなったツールの iPlanet Delegated Administrator を使用する必要があります。

Delegated Administrator 6 2005Q4 リリースに実装された新機能は、次のとおりです。

- Delegated Administrator コンソールが Calendar Server のプロビジョニングをサポートする。

  以前のリリースでは、Delegated Administrator ユーティリティー (`commadmin`) のみが、Calendar Server をサポートしていました。

  Calendar Server のサポートを実現するコンソール機能は、次のとおりです。

  - カレンダサービスを含むサービスパッケージを組織に割り当てたり、ユーザーに割り当てたりできる。
  - コンソールでカレンダリソースを作成および管理できる。
- コンソールでグループを作成および管理できる。グループは、Messaging Server によって使用されるメールサービス (メーリングリスト) を持つことができます。
- サービスパッケージが追加の機能や柔軟性を提供する。
  - 新しい種類のサービスパッケージが実装された。メールユーザー用のサービスパッケージのほかに、カレンダユーザー用とメールグループ用のサービスパッケージが追加されました。
  - 複数のサービスをまとめて単一のサービスパッケージにすることができる。1 種類のサービスパッケージが、メールサービスとカレンダサービスの両方をユーザーに提供します。

  - サービスパッケージを割り当てる場合、「サービスパッケージの割り当て」ウィザードを使えば、サービス関連の属性に特定の値を指定できる。指定された値は、ターゲットとなるユーザー、グループ、または組織に対するサービスパッケージ自体の値を上書きします。
- Delegated Administrator コンソールのインタフェースが改善された。たとえば、次のような強化が施されました。
  - 組織ビューで、2 行目のタブが追加された。これらのタブを選択することで、ユーザー、グループ、カレンダリソース、サービスパッケージ、またはプロパティーの一覧を表示できます。前回のリリースでは、ユーザー、サービスパッケージ、およびプロパティーの一覧は、ドロップダウンリスト経由で表示されていました。
  - 個々のユーザーまたはグループにサービスパッケージを割り当てる必要がなくなった。前回のリリースでは、各ユーザーにサービスパッケージを割り当てる必要がありました。

要件

ここでは、このリリースの Delegated Administrator に対する次のプラットフォーム、クライアント製品、およびソフトウェアの追加要件について説明します。

- 49 ページの「重要なパッチ情報」
- 117 ページの「プラットフォーム」
- 118 ページの「Java Enterprise System コンポーネント」
- 119 ページの「ハードウェア要件」
- 119 ページの「ブラウザ」

パッチ情報

Sun Java System インストーラを使って Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 2005Q4 をインストールし終わったら、Delegated Administrator の最新パッチをダウンロードおよびインストールすることをお勧めします。

http://sunsolve.sun.com にアクセスし、「Patches」、「Patch Portal」のいずれかを選択します。Delegated Administrator の現在のパッチ番号は、次のとおりです。

Solaris	119777
x86	119778
Linux	119779

Delegated Administrator のパッチの詳細については、SunSolve サイトを確認してください。

プラットフォーム

このリリースは、Messaging Server、Calendar Server、およびその他の Java Enterprise System コンポーネントがサポートするのと同じプラットフォームをサポートします。

具体的には、このリリースは次の各プラットフォームをサポートします。

- Solaris 10 Operating System + ゾーンのサポート (SPARC™ および x86 プラットフォーム版)
- Solaris 9 Operating System Update 2 (SPARC および x86 プラットフォーム版)
- Solaris 8 Operating System (SPARC プラットフォーム版)
- Red Hat Linux 2.1 Update 2 (またはそれ以降のアップデート)
- Red Hat Linux 3.0 Update 1 (またはそれ以降のアップデート)

必須アップグレードパッチやカーネルバージョンなど、Solaris と Linux の要件の詳細については、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』および『Sun Java Enterprise System リリースノート』を参照してください。

Java Enterprise System コンポーネント

このリリースの Delegated Administrator に必要な Java Enterprise System コンポーネント、ツール、および LDAP スキーマのバージョンは、次のとおりです。

- Directory Server 5.*x*
- Access Manager 6.2 以上
- Messaging Server 6、 Calendar Server 6 のいずれかまたはその両方。

  Messaging Server の要件については、第 2 章を参照してください。

  Calendar Server の要件については、第 1 章を参照してください。
- Java Enterprise System Web コンテナ。Delegated Administrator は、次のいずれかの Web コンテナに配備する必要がある。
  - Sun Java System Web Server 6.1 以上
  - Sun Java System Application Server 7.*x*
  - Sun Java System Application Server 8.*x*
- Directory Server Preparation Tool (設定スクリプト): `comm_dssetup.pl` version 6.3–2.03

  このバージョンの `comm_dssetup.pl` が提供されるのは、Java Enterprise System 2005Q4 インストーラを使って Directory Server をインストールした場合です。
- LDAP Schema 2。このリリースの Communications Services Delegated Administrator は、LDAP Schema 2 ディレクトリ内でユーザーをプロビジョニングするように設計されています。

Directory Server、Access Manager、Web Server、および Application Server の要件については、それらの製品の現在のリリースノートを参照してください。

この節で挙げた Java Enterprise System コンポーネントのインストール手順については、『*Sun Java Enterprise System* インストールガイド』を参照してください。

ハードウェア要件

Delegated Administrator のメモリーとディスク容量に関する要件は、Delegated Administrator の配備先 Web コンテナの要件と同じになります。

Web コンテナのハードウェア要件については、この Java Enterprise System コンポーネントの現在のリリースノートを参照してください。

ブラウザ

Delegated Administrator コンソールは、JavaScript に対応したブラウザを必要とします。最適なパフォーマンスを得るには、50 ページの「クライアントソフトウェアの要件」に記載されたブラウザの使用をお勧めします。

表 4–2 Delegated Administrator コンソール用の推奨ブラウザ

ブラウザ	Windows XP	Windows 2000	Solaris
Netscape Navigator	7.2 以降	7.2 以降	7.2
Microsoft Internet Explorer	6.0 SP1 以降	6.0 SP1 以降	NA
Mozilla™	1.4 以降	1.4 以降	1.4 以降

インストールに関する注意事項

Delegated Administrator のインストールと設定に必要な手順の概要については、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 管理ガイド』の第 2 章「インストールおよび設定の計画」を参照してください。

推奨パッチ

Delegated Administrator の最新パッチをダウンロードおよびインストールすることをお勧めします。

次の手順は、Delegated Administrator のインストール時に実行すべき手順の概要です。

1. Java Enterprise System インストーラを実行して Delegated Administrator 2005Q4 をインストールします。
2. http://sunsolve.sun.com にアクセスし、「Patches」、「Patch Portal」のいずれかを選択します。Delegated Administrator の現在のパッチ番号は、次のとおりです。

   Solaris `119777`

   x86 `119778`

   Linux `119779`

   Delegated Administrator 設定プログラム `config-commda` を実行する「前」にパッチをインストールします。
3. Directory Server Preparation Tool (設定スクリプト) の `comm_dssetup.pl` を実行します。

4. 設定プログラム `config-commda` を実行することで、Delegated Administrator を設定します。

パッチに含まれる機能は次のとおりです。

- 最近行われた既知の問題に対する修正。
- 予備の「skeleton」ldif ファイル。これを使えば、ユーザー独自のカスタマイズされた Class-of-Service テンプレートを作成できる。
- サンプルの Class-of-Service テンプレートが、ディレクトリ内の新しい場所に格納されるようになった。

現在のリリースの『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Delegated Administrator 管理ガイド』では、ユーザー独自のサービスパッケージの作成方法を説明しています。

Delegated Administrator のパッチの詳細については、SunSolve サイトを確認してください。

ACI の統合

Access Manager、Messaging Server、および LDAP Schema 2 ディレクトリのインストールを伴う大規模なインストールでは、ディレクトリにアクセス制御命令 (ACI: Access Control Instruction) を統合する必要がある場合があります。

Access Manager を Messaging Server とインストールすると、最初に多数の ACI がディレクトリにインストールされます。多数のデフォルトの ACI は、不要であるか Messaging Server では使用されません。ディレクトリ内のデフォルトの ACI を統合し数を減らすと Directory Server のパフォーマンスが向上し、その結果 Messaging Server の検索パフォーマンスも向上します。

ACI を統合する方法、および使用していない ACI を削除する方法については、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 管理ガイド』の付録 D「ACI 統合」を参照してください。

互換性に関する問題

次の表は、Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4 と以前のバージョンとの間における既知の非互換性を、一覧にまとめたものです。

非互換性	影響	コメント
Access Manager がレルムモード (バージョン 7.x のスタイル) とレガシーモード (バージョン 6.x のスタイル) です。レガシーモードがデフォルトです。	インストール時に、次のパネル上でレガシーモードをインストールタイプとして選択する必要があります。 `Access Manager: Administration (1 of 6)`	「レルムモード」インストールタイプの Access Manager がインストールされた場合、Delegated Administrator を実行することはできません。
Delegated Administrator をバージョン 6 2005Q4 (Java ES Release 4) にアップグレードしないまま、Access Manager をバージョン 6.x から 7.0 (Java ES Release 4) にアップグレードした場合。	Delegated Administrator のコンソールまたはユーティリティーで、メールサービスまたはカレンダサービスによるユーザー作成が失敗します。	回避策があります。詳細については、123 ページの「インストール、アップグレード、および設定」を参照してください。

Delegated Administrator 6 2005Q4 のマニュアルの更新

このリリースの Delegated Administrator に関するマニュアルの更新はありません。

このリリースで修正された既知の問題

121 ページの「このリリースで修正された既知の問題」では、Delegated Administrator 2005Q4 で修正されたバグについて説明します。

表 4–3 修正された Delegated Administrator の既知の問題

問題番号	説明
6263204	jdapi-wildorgsearchmaxresults と jdapi-wildusersearchmaxresults をすべての検索で使用する。
6251950, 6230702	「ユーザープロパティー」ページで、「転送」チェックボックスをオフにしたり、ローカルの受信箱を選択したり、変更を保存したりできない。
6236566	Linux 上で logger.properties ファイルの参照先が間違っている。
6216904	かなり多数の組織が配備されるディレクトリでは TLA による Delegated Administrator へのログインに時間がかかる。
6211658	サービスパッケージフィルタによりログアウトが発生する。

表 4–3 修正された Delegated Administrator の既知の問題　(続き)

問題番号	説明
6206797	commadmin domain purge コマンドがカレンダリソースをパージしない。
6206196	「すべてのサービスパッケージ」タブと「プロパティー」タブにアクセスできない。
6202370	繁体字中国語と簡体字中国語では、新しい組織または新しいユーザーの作成のためのサブウィンドウにオンラインヘルプがない。
6201571	言語オプションを使ってユーザー名を保存できない。
6201234	新しい組織の作成時に選択できる優先言語が 4 つのみである。
6200351	TLA または SPA が、共有組織の「ドメインのエイリアス名:」テキストフィールドを更新できない。
6198788	ヨーロッパ言語と日本語で、ヘルプのリンクが切れている。
6198361	ある組織のあるユーザーからすべてのサービスパッケージを削除したあと、「サービスパッケージ」ページから新しいサービスパッケージをそのユーザーに割り当てると、その新しいサービスパッケージの割り当てが失敗する。
6190486	ある組織からサービスパッケージを削除すると、次のメッセージが表示される。「No changes in service packages allocation.」
6182985	共有組織ウィンドウは、利用できるドメイン名をサービスプロバイダの管理者に対して表示しない。
6177996	ascii でない文字を名前に使用する組織の組織管理者 (OA: Organization Administrator) に対して、null ポインタ例外 (null pointer exception: NPE) が表示される。
5069133	commadmin create resource コマンドには、Calendar Server csresource ユーティリティーをサポートする必須のメールオプションがない。
5030030	設定プログラム config-commda がローカライズされていない。

既知の問題と制限事項

この節では、Communications Services の Delegated Administrator の既知の問題を説明します。この節には、以下の項目があります。

- 123 ページの「インストール、アップグレード、および設定」
- 126 ページの「Delegated Administrator コンソールとコマンド行ユーティリティー」
- 132 ページの「ローカライズとグローバル化」
- 133 ページの「マニュアル」

インストール、アップグレード、および設定

Application Server 7.x (Java ES Release 2) から **Application Server 8.x (Java ES Release 4)** にアップグレードしたあと、**Delegated Administrator 6 2005Q4 (Java ES Release 4)** にアップグレードすると、そのアップグレード後の **Application Server** への **Delegated Administrator** の再配備が失敗する。**(6319257)**

Application Server 8.x へのアップグレードが完了すると、Delegated Administrator などのアプリケーションが非 DAS インスタンスの server1 に自動的に再配備されます。互換性を維持する目的で、その非 DAS インスタンスは、以前のリリースの Application Server と同じポート上で実行されます。

ところが、Delegated Administrator は `deploydir` コマンドによって Application Server に配備されます。Application Server 8.x では、`deploydir` コマンドは DAS インスタンス上でしか動作しません。Delegated Administrator を非 DAS インスタンスに配備することはできません。

回避策

Application Server 8.x へのアップグレード完了後に次の手順を実行します。

1. 次の Access Manager 設定プロパティーファイルを変更します。

   ```
   /opt/SUNWam/lib/AMConfig.properties
   ```

   対象となるのは次の行です。

   ```
   com.sun.identity.webcontainer=IAS7.0
   ```

   これを次の行で置き換えます。

   ```
   com.sun.identity.webcontainer=IAS8.1
   ```

2. Delegated Administrator 設定プログラムを実行する前に、アップグレード後の Application Server の server1 インスタンスに含まれる、`/commcli` および `/da` Web アプリケーションの配備を取り消します。次のコマンドを実行します。

   ```
   /opt/SUNWappserver/appserver/bin/asadmin undeploy
   --secure=false --user admin --password xxxx
   --target server1 commcli
   ```

   ```
   /opt/SUNWappserver/appserver/bin/asadmin undeploy
   --secure=false --user admin --password xxxx
   --target server1 da
   ```

3. Delegated Administrator の設定プログラム `config-commda` を実行します。Access Manager のホストとポートの入力を求められたら、DAS サーバーインスタンスのポートを指定します。

   非 DAS インスタンスの server1 上で Access Manager が動作している場合でも、DAS サーバーインスタンスを指定します。

   `config-commda` プログラムから Delegated Administrator コンソールと Delegated Administrator サーバーの配備先を要求されたら、server1 の情報ではなく、DAS サーバーの情報を指定します。

すでに server1 ポートを使って Delegated Administrator を 設定している場合、つまりすでに `config-commda` を実行した場合には、次の 2 つのファイル内のポート情報を変更 (DAS ポートを指定) します。

```
/opt/SUNWcomm/config/cli-usrprefs.properties

/var/opt/SUNWcomm/da/WEB-INF/class/com/sun/comm/da/resource/
daconfig.properties
```

4. `config-commda` の実行が完了したら、Application Server コンソールにログインします。`classpath-prefix` エントリと `classpath-suffix` エントリに対する JVM 設定内のすべての Access Manager ライブラリパスを、server1 インスタンスからそのサーバーインスタンスにコピーします。この作業を実行するには、server1 の `domain.xml` ファイル内のパスをそのサーバーの `domain.xml` ファイル内にコピーします。

Delegated Administrator 設定プログラムで「ドメイン区切り文字」フィールドに無効な値を入力できてしまう。**(6310711)**

設定プログラム `config-commda` では、^ などの無効な文字を「ドメイン区切り文字」フィールドに入力できます。無効なドメイン区切り文字を含むログイン ID を使って Delegated Administrator コンソールにログインすることはできません。

回避策:

`daconfig.properties` ファイル内の `commadminserver.domainseparator` プロパティーの値を編集します。このファイルのデフォルトパスは次のとおりです。

```
/var/opt/SUNWcomm/da/WEB-INF/classes/
com/sun/comm/da/resources/daconfig.properties
```

`@`、`-`、 `_` など、有効な値を使用してください。

Delegated Administrator 6 2005Q4 (Java ES Release 4) にアップグレードしないで **Access Manager 7.0** にアップグレードした場合、ユーザー作成が失敗する。**(6294603)**

Java Enterprise System Release 4 へのアップグレード時に、Access Manager はバージョン 6.x から 7.0 にアップグレードしたが Delegated Administrator はバージョン 6 2005Q4 (Java ES Release 4) にアップグレードしなかった場合、メールサービスまたはカレンダサービスによるユーザー作成が失敗します。

回避策:

1. `UserCalendarService.xml` ファイルを更新します。このファイルはデフォルトで次のディレクトリに格納されています。

   ```
   /opt/SUNWcomm/lib/services/UserCalendarService.xml
   ```

   `UserCalendarService.xml` ファイル内で、`mail`、`icssubcribed`、および `icsfirsday` 属性を、必須ではなく省略可能としてマークします。

2. Access Manager で、`amadmin` コマンドを実行して既存の xml ファイルを削除します。次に例を示します。

```
amadmin -u amadmin -w netscape -r UserCalendarService
```

3. Access Manager で、更新済みの xml ファイルを追加します。次に例を示します。

```
amadmin -u amadmin -w netscape
-s /opt/SUNWcomm/lib/services/UserCalendarService.xml
```

4. Web コンテナを再起動します。

ディレクトリに非常に多くの組織が配備されている場合、**Delegated Administrator** 設定プログラム **(config-commda)** が低速になる可能性がある。**(6219610)**

ディレクトリに非常に多くの組織 (50,000 以上) が含まれている場合は、Delegated Administrator 設定プログラム (`config-commda`) が完了するのに長い時間がかかることがあります。Access Manager に関連する管理タスクのパフォーマンスは低速です。

回避策

`ou` 属性に `pres,eq` インデックスを作成します。

config-commda プログラムによって **Delegated Administrator** が再設定されると、**resource.properties** ファイル内の値が上書きされる。**(6218713)**

`config-commda` プログラムを再実行して設定済みの既存の Delegated Administrator インストールを設定した場合、`resource.properties` ファイル内のプロパティーがデフォルト値にリセットされます。

たとえば、以前にプロパティーを次のように設定していたとします。

```
jdapi-wildusersearchresults=50

jdapi-wildorgsearchresults=10
```

このとき、`config-commda` を実行すると、これらのプロパティーが次のようにデフォルト値にリセットされます。

```
jdapi-wildusersearchresults=-1

jdapi-wildorgsearchresults=-1
```

この問題を解決する必要が生じるのは、Delegated Administrator の設定を変更した場合 (プラグインを有効にしたか、`resource.properties` ファイル内のいずれかのプロパティーの値を変更した場合) だけです。

回避策

Delegated Administrator をアップグレードする必要が生じた場合や、`config-commda` プログラムを何らかの理由で再実行する必要が生じた場合、次の手順に従えば既存の設定を維持できます。

1. `resource.properties` ファイルをバックアップします。

   `resource.properties` ファイルは、次のデフォルトパスにあります。

da_base/data/WEB-INF/classes/sun/comm/cli/server/servlet/resource.properties

2. config-commda プログラムを実行します。
3. config-commda プログラムによって作成された新しい resource.properties ファイルを、次のようにして編集します。

   (新しいファイルは、手順 1「resource.properties ファイルをバックアップします。」で示したデフォルトパスに格納されている。)

   a. 新しい resource.properties ファイルを開きます。

   b. resource.properties ファイルのバックアップコピーを開きます。

   c. バックアップコピー内でカスタマイズされたプロパティーを探します。そのカスタマイズ値を、新しい resource.properties ファイル内の対応するプロパティーに適用します。

新しい resource.properties ファイルの全体をバックアップコピーで単純に上書きしないでください。新しいファイルには、このリリースの Delegated Administrator をサポートするために作成された新しいプロパティーが含まれている可能性があります。

Delegated Administrator コンソールとコマンド行ユーティリティー

ルートサフィックスをドメインにすると、**Delegated Administrator** が正しく機能しない。**(6321748)**

デフォルトでは、Access Manager のインストール時に、ルートサフィックスはドメインとしてインストールされません。つまり、ルートサフィックスには sunPreferredDomain 属性が含まれません。ルートサフィックスをメールドメインにすると、Delegated Administrator で問題が発生します。

回避策

Messaging Server に対して設定したのと同じデフォルトドメインを使用します。Messaging Server がインストールされていない場合には、DIT 内のルートサフィックスの 1 つ下のレベルにデフォルトドメインが作成されるように注意してください。

コマンド行ユーティリティー **(commadmin group create)** を使ってサービスなしのグループを作成したあと、**Delegated Administrator** コンソールでそのグループに特定のサービスパッケージを割り当てた場合、メールサービスの詳細情報の入力を求めるプロンプトが表示されない。**(6317925)**

この問題が発生するのは、commadmin group create を使ってサービスを追加することなしにグループを作成したあと、Delegated Administrator コンソールを使ってそのグループに特定のサービスパッケージを割り当てた場合です。「サービスパッケージの割り当て」ウィザードを使ってこのグループにメールサービスパッケージを割り当てることはできますが、その場合、「メールサービスの詳細」パネルでの情報入力を求めるプロンプトが表示されません。メールサービスパッケージの割り当てが成功したことを通知するメッセージが表示されます。このグループの「プロパティー」ページを開くと、グループのメンバーが一覧表示されますが、それらのフィールドを編集したり、このグループの電子メールアドレスを入力したりすることはできません。

回避策

commadmin group modify コマンドを使って、このグループにメールサービスと電子メールアドレスを追加します。次に例を示します。

```
./commadmin group modify -D <TLA> -w <TLA_password> -G Group0
-S mail -E Group0@<domain> -d <domain>
```

commadmin コマンドの **-A** オプションを使って渡された属性が、そのコマンドが **-A** を使って渡された属性を含む入力ファイルも呼び出している場合に無視される。**(6317850)**

この問題が発生するのは、commadmin コマンドを次のように実行し、

```
./commadmin user create -D tla -w pass -d <domain>
-F test -L User -W pass -i /tmp/comm.in -A preferredlanguage:es
```

かつその入力ファイル comm.in に、-A オプションを使って渡された属性が含まれていた場合です。その結果、コマンド行の -A オプションが無視されます。上記の例では、preferredlanguage:es が追加されません。

回避策

-A オプションを使って渡された属性が入力ファイル内に存在する場合には、-A のすべての値を入力ファイル経由で渡します。 -A をコマンド行でも使用してはいけません。

組織管理者 **(OA)** が、**OA** として組織の「プロパティー」ページを変更することで、自分自身を削除できる。**(6314711)**

Delegated Administrator コンソールに OA としてログインすると、組織の「プロパティー」ページにアクセスし、OA 権限を持つユーザーのリストから自身を削除することができます。何のエラーも発生せず、そのユーザーはコンソールを使い続けることができます。OA が自身を削除できないようにするか、自身を削除した OA はすぐにログアウトされるようにすべきです。

削除されたドメインの名前と衝突するドメイン名を使用すると、不適切なエラーメッセージが表示される。**(6309418)**

この問題が発生するのは、削除されたドメインと同じドメイン名を持つ組織を作成した場合です。(組織の名前は、削除された組織の名前とは異なる。)次のエラーメッセージが表示されます。 Attribute uniqueness violated.

回避策

新しいドメイン名を指定します。

Delegated Administrator コンソールが、『**Schema Reference**』に記載されている値とは異なる **icsAllowRights** 値をディレクトリに書き込む。**(6308579)**

この問題が発生するのは、カレンダサービスが割り当てられた組織に拡張権限を設定した場合です。組織の「プロパティー」ページを開いて「カレンダサービス」セクションに移動し、「拡張権限」ボタンをクリックすると、拡張権限プロパティーが表示されます。これらのプロパティーは、icsAllowRights 属性とともにディレクトリ内に格納されます。

Delegated Administrator コンソールで拡張権限プロパティーを「No」に設定した場合、ディレクトリ内の icsAllowRights 値は 0 として保存されます。ところが、『Schema Reference』によれば、値 0 はそのプロパティーが許可されることを意味します。

また、Delegated Administrator コンソール内の拡張権限プロパティーがデフォルトで「No」に設定されることにも注意してください。それらの値が ics.conf ファイル内の対応する値と衝突する場合でも、そのように設定されます。Delegated Administrator によって設定された値は、ics.conf ファイル内の値を上書きします。

commadmin group create を使ってグループを作成する場合、**-f** オプションを使って追加可能な動的メンバーシップフィルタ **(LDAP URL)** は、**1** つだけである。**(6303551)**

`commadmin group create` コマンドでは、`-f` オプションを複数回使用することで、グループの動的メンバーシップフィルタ (LDAP URL) を複数個作成できます。ところが、LDAP ディレクトリ内に保存されるのは、最後のフィルタだけです。

回避策

`commadmin group modify` コマンドを、追加するフィルタごとに 1 回ずつ、複数回実行します。

Delegated Administrator コンソールで動的メンバーをグループに追加した場合、手動作成された **LDAP URL** をテストできない。**(6300923)**

新しいグループを作成し、そのグループに動的メンバーを追加した場合、ユーザーは、LDAP URL を手動で作成することもできますし、ドロップダウンメニューで利用可能なフィールドを使って LDAP URL を作成することもできます。ドロップダウンメニューを使用した場合、「LDAP URL のテスト」ボタンをクリックできます。 LDAP URL を手動で作成した場合、この機能は無効になります。

Delegated Administrator コンソールでブラウザの「戻る」ボタンを使用すると、予期しないページが表示される。**(6292610)**

回避策

ページ自体に用意されたタブとナビゲーションリンクのみを使ってナビゲーションを行います。

ある組織内のグループに割り当てられたサービスパッケージの数が、その組織に割り当てられた数を超えることができる。**(6285713)**

ある組織内のグループ用に特定数のサービスパッケージを割り当てても、その組織内のグループにサービスパッケージを無制限に割り当てることができます。割り当て制限が適用されません。

たとえば、ある組織のグループ用として 20 個のサービスパッケージを割り当てた場合、その組織内の 20 個以上のグループにサービスパッケージを割り当てることができます。

すでに使用されているログイン **ID** を使って新しいユーザーを作成しようとすると、間違ったエラーメッセージが表示される。**(6283567)**

一意の電子メールアドレスとすでに使用されているログイン ID を使って新しいユーザーを作成しようとしても、そのユーザーは作成されません。これは正しい動作ですが、その際に「ユーザーを作成できません。メールアドレスがすでに使用されています。」というエラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは、「ログイン ID がすでに使用されています。」に変えるべきです。

アンダースコアを名前に含むドメイン内でユーザーを作成できない。**(6281261)**

回避策

ドメイン名にアンダースコアを含めないでください。

Linux 上で、**commadmin** ユーティリティーを使って特定のサービスオブジェクトクラスを追加できない。**(6280807)**

この問題が発生するのは、特定のサービスオブジェクトクラスを追加するために、`-A` オプションを指定して `commadmin` を実行した場合です。たとえば、次のコマンドを実行するとします。

```
/opt/sun/comms/commcli/bin/commadmin user modify -D admin
-n <domain> -w <password> -p81 -X localhost -d <domain> -l test
-A +objectclass:sunportalgatewayaccessservice
```

Delegated Administrator はサービスオブジェクトクラスを取得できません。

回避策

管理コンソールまたは `ldapmodify` コマンドを使用して、ユーザーに必要なオブジェクトクラスを Directory Server に手動で追加します。

サービス名、サービスパッケージ名、メールホストによる組織検索が正しく動作しない。**(6277314)**

組織一覧ページで、サービス名、サービスパッケージ名、またはメールホストに基づいて組織を検索するためのドロップダウンメニューを使用し、検索文字列を入力すると、検索結果にすべての組織が含まれます。

名前にコンマを含む組織を作成することができない。**(6275439)**

「組織の作成」ウィザードを使って組織を作成する際にコンマを含む組織名を指定した場合、エラーが表示され、その組織は作成されません。

回避策

組織名にコンマを含めないでください。

commadmin domain delete コマンドを使ってあるドメインを削除したあと、**commadmin** を使ってそのドメインをパージできない。**(6245878, 6203605)**

`commadmin domain delete` を使ってメールサービスを含む組織を削除すると、`inetDomainStatus` が `deleted` に設定されます。その後、`msuserpurge` を使ってメッセージストアからユーザーを削除し、`commadmin domain purge` を使ってドメインをパージしても、そのドメインは LDAP ディレクトリ内に残ります。そのドメインの `mailDomainStatus` 値が `removed` と等しくなっていません。

`commadmin domain delete` を使ってカレンダサービスを含む組織を削除したあと、`csclean` を使ってカレンダを削除し、さらに `commadmin domain purge` を使ってドメインをパージした場合にも、同じ問題が発生します。LDAP 内の `icsStatus` が `removed` としてマークされません。

回避策

`ldapmodify` を使って`mailDomainStatus` または `icsStatus` を `removed` に設定します。その後、`commadmin domain purge` を使用します。

満杯状態の組織の「ドメインの状態」または「メールサービスの状態」を変更すると、「ドメインのディスク制限容量」の値が失われる。**(6239311)**

この問題が発生するのは、「ドメインのディスク制限容量」の値がある特定の数値に設定された満杯状態の組織を編集し、「ドメインの状態」または「メールサービスの状態」を「アクティブ」から「非アクティブ」、「保持」などの別の値に変更した場合です。

その組織のプロパティーが正常に変更されたことを示すメッセージが表示されますが、「ドメインのディスク制限容量」フィールドの値は無制限に設定され、その組織の対応する LDAP 属性 (`mailDomainDiskQuota`) が失われます。

回避策

Delegated Administrator の最新パッチでは、この問題が修正されています。119 ページの「推奨パッチ」の説明に従ってこのパッチをダウンロードします。

あるいは次のようにします。「ドメインのディスク制限容量」フィールドの値をリセットし、組織のプロパティーを再度保存します。

ユーザー、組織、またはグループの一覧ページの読み込みが完了した際にメッセージが何も表示されない。**(6234660)**

一覧ページの読み込み中にボタンをクリックすると、エラーが発生します。

ページの読み込み中は、ユーザーに待機を要求するメッセージが表示されます。ページの準備が整うまで、ボタンやリンクをクリックしないでください。

sunpresenceuser と **sunimuser** の両方のオブジェクトクラスをユーザーエントリに割り当てた場合、**commadmin user modify** コマンドが失敗する。**(6214638)**

新しく作成されたユーザーがドメインのタイムゾーン **(TZ)** を継承しない。**(6206160)**

デフォルト以外のタイムゾーンを持つドメインを作成したあと、`-T` *<timezone>* オプションを明示的に使用せずに新しいユーザーを作成した場合、そのユーザーにはデフォルトのタイムゾーン「America/Denver」が設定されます。

たとえば、「Europe/Paris」のタイムゾーンを持つ、sesta という名前のドメインを作成したとします。次に、sesta 内で新しいユーザーを作成します。そのユーザーにはデフォルトのタイムゾーン「America/Denver」が設定されます。

回避策

ユーザーを作成または変更する場合、commadmin user create または commadmin user modify コマンドに -T <*timezone*> を明示的に渡します。

管理者を正常に追加するには「組織のプロパティー」ページを保存する必要がある。**(6201912)**

「組織のプロパティー」ページを開き、管理者ロールを特定のユーザーに割り当てた場合、「組織のプロパティー」ページを保存しないと管理者が正しく追加されません。新しい管理者の割り当て後にログアウトした場合、その管理者は追加されません。

新しい組織の名前に非 **ASCII** 文字が含まれていると、デフォルト管理者の電子メールアドレスを指定できないため、エラーが発生する。**(6195040)**

デフォルト管理者の UID はデフォルトで「admin_ *new_organization_name*」になります。新しい組織の名前に非 ASCII 文字が含まれていた場合、その UID を使用する電子メールアドレスが無効になります。

このリリースの **Delegated Administrator** ではユーザーのログイン **ID** を編集できない。**(6178850)**

ルートのサフィックスの名前が組織のドメイン名と同じである場合、**Delegated Administrator** ユーティリティーが機能しない。**(5107441)**

ルートサフィックスが o=example.com、ドメインが example.com である場合など、ドメイン名と同じ名前を持つルートサフィックスを作成した場合、commadmin ユーティリティーが正しく機能しません。

回避策

ルートサフィックスとディレクトリ内の別のドメインに同じ名前を使用するのを避けます。(o=name 値は、異なる必要がある。)

詳細検索機能が組織に対して正しい結果を返さない。**(5094680)**

この問題は、次のように操作すると発生します。

1. 詳細検索機能を選択します。
2. ドロップダウンリストから「組織」を選択します。
3. 「すべてに一致」、「いずれかに一致」のいずれかのラジオボタンをクリックします。
4. ドロップダウンリストから特定の組織名を選択します。
5. テキストフィールドに有効な値を入力します。
6. 「検索」をクリックします。

Delegated Administrator は、検索条件に一致する組織のみを返す代わりに、すべての組織を表示します。

「新規組織」ウィザードの「要約」ページに表示されない組織詳細が存在する。**(5087980)**

「新規組織」ウィザードを使って新しい組織を作成する場合に、「ドメインのディスク制限容量」や「メールサービスの状態」などの一部の詳細情報が、このウィザードの「要約」ページに表示されません。

ASCII 以外のグループを変更できない。**(4934768)**

ASCII 以外の文字を含むグループ名を使って作成されたグループは、`commadmin group modify` コマンドを使っても変更できません。

たとえば、`commadmin group create` コマンドの `-G` オプションに対して ASCII 以外の文字を含むグループ `XYZ` を指定すると、`XYZ` のメールアドレスはそのグループの LDAP エントリに自動的に追加されます。ASCII 以外の文字はメールアドレスでは許可されないため、`commadmin group modfiy` を使ってグループを変更しようとしても失敗します。

回避策

グループを作成するときは、`-E` *email* オプションを使用してください。このオプションには、グループのメールアドレスを指定します。次に例を示します。 `commadmin group create -D admin -w password -d siroe.com -G XYZ -S mail -E testgroup@siroe.com`

複数の **-f** オプションでグループを作成しても、**1** つの属性しか追加されない。**(4931958)**

ダイナミックグループを作成するために複数の `-f` オプションを `commadmin group create` コマンドに指定しても、最後の `-f` オプションに指定した値だけが LDAP エントリに追加されます。ほかの値は追加されません。

回避策

`commadmin group create` コマンドを使用するときは、複数の `-f` オプションを指定しないでください。

ローカライズとグローバル化

この節では、Delegated Administrator のローカライズに関する問題について説明します。

ローカライズ版の **Delegated Administrator** の **GUI** 設定プログラム **config-commda** では、デフォルトのページサイズが小さすぎて、すべての入力フィールドとそれらのフィールドのラベルを適切に表示できない。**(6307209)**

回避策*:*

ローカライズ版の GUI 設定プログラム `config-commda` の使用時に表示されないラベルや入力フィールドが存在している場合、GUI `config-commda` 内のダイアログのサイズを変更し、より長いラベルが収まるようにします。

言語タグ付きのようこそメッセージを含むドメインを作成できない。**(6242611)**

commadmin domain create コマンドで -A "mailDomainWelcomeMessage;lang-<language tag>:Subject:<message>" オプションを指定することで、言語タグ付きのようこそメッセージを含むドメインを作成しようとしても、そのドメインを作成できません。

回避策

まず、commadmin domain create コマンドを使ってドメインを作成します。次に、commadmin domain modify コマンドを使って言語タグ付きのようこそメッセージを追加します。次に例を示します。

```
commadmin domain create -D admin -w pass -S mail -H test.<domain>
-d i18n.tst
```

```
commadmin domain modify -D admin -w pass -d i18n.tst
-A "mailDomainWelcomeMessage;lang-fr:Subject:Test$$Test"
```

エラーメッセージ「**The organization already exists**」がローカライズされていない。**(6201623)**

既存の組織と同じ名前で組織を作成しようとすると、Delegated Administrator から次のエラーメッセージが表示されます。“The organization already exists.” このメッセージは英語であり、翻訳されていません。

マニュアル

この節では、Delegated Administrator のマニュアルやオンラインヘルプに含まれる、間違った情報や不完全な情報について説明します。

Delegated Administrator コンソールのオンラインヘルプ内に「ユーザープロパティー」ページの「利用可能な言語」リストに関する記述がない。**(6307846)**

「利用可能な言語」ドロップダウンリストを使えば、言語タグ付きユーザー名に対する言語を選択できます。

「利用可能な言語」リストから、ユーザー名に対する目的の言語を選択します。(「利用可能な言語」リストは、「名」、「姓」、および「表示名」フィールドの横に表示される。)

次に、名と姓を入力し、「保存」をクリックします。すると、言語タグ付きの名、姓、および共通名が LDAP エントリに入力されます。

たとえば、「利用可能な言語」リストから「ドイツ語」を選択し、名として「Gerard」を、姓として「Schroeder」をそれぞれ入力した場合、ユーザーの LDAP エントリに次の属性が追加されます。

```
givenname;lang-de:Gerard
sn;lang-de:Schroeder
cn;lang-de:Gerard Schroeder
```

ロケールに対応したアプリケーションは、ユーザーの選択言語がドイツ語であった場合に、この cn を表示します。

「利用可能な言語」リスト内の「デフォルト」は、タグ付きでない必須の `givenname`、`sn`、および `cn` 属性に対応しています。

共有組織の場合、「新しい組織を作成」ウィザードに「カレンダサービスの詳細」が表示されない。このことはオンラインヘルプで説明されていない。**(6295181)**

Delegated Administrator コンソールで共有組織を作成する場合、「新しい組織を作成」ウィザードに「カレンダサービスの詳細」パネルが表示されません。さらに、共有組織の作成後、その共有組織の「プロパティー」ページに「カレンダサービスの詳細」が表示されません。

これは、共有組織の作成時には、共有親ドメインからカレンダサービスの属性が継承されるからです。したがって、新しい共有組織に固有のカレンダサービス情報を作成したり表示したりすることはできません。

親ドメインを編集する権限を持っているのは、最上位管理者だけです。

Delegated Administrator コンソールのオンラインヘルプには、こうした動作の説明がありません。

第 5 章

Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 リリースノート

Version 6 2005Q4

このリリースノートには、Communications Express 6 2005Q4 のリリース時点で利用可能な重要な情報が含まれています。ここでは、新機能、拡張機能、既知の問題と制限、およびその他の情報について説明します。Communications Express 6 2005Q4 を使い始める前に、本書をお読みください。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- 135 ページの「リリースノートの改訂履歴」
- 135 ページの「Communications Express について」
- 136 ページの「このリリースで修正されたバグ」
- 137 ページの「インストールに関する注意事項」
- 138 ページの「既知の問題と制限事項」

リリースノートの改訂履歴

表 5–1 Communications Express リリースノートの改訂履歴

日付	変更の説明
2005 年 8 月 25 日	RR リリースノート
2005 年 6 月 13 日	ベータリリースノート

Communications Express について

Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 は、カレンダ、アドレス帳、およびメールの 3 つのクライアントモジュールから構成される、統合された Web ベースのコミュニケーションおよびコラボレーションクライアントを提供します。カレンダとアドレス帳クライアントモジュールは、任意の Web コンテナ上に単一のアプリケーションとして配備されます。なお、両者をまとめて UWC (Unified Web Client) と呼びます。Messenger Express は、Messaging Server の HTTP サービスを Web ベースで使用するスタンドアロンのメールアプリケーションです。

この節では、次の項目について説明します。

- 136 ページの「このリリースの新機能」
- 136 ページの「サポートされているブラウザ」

このリリースの新機能

このリリースの Communications Express は、WABP (Web Address Book Protocol) 用のプロキシ認証を支援する新機能をユーザーに提供します。また、このリリースは、個人用アドレス帳を WABP 経由で共有する機能 (PAB 共有) も提供します。WABP 用プロキシ認証の設定手順については、『Sun Java™ Systems Communications Express 管理ガイド』を参照してください。

サポートされているブラウザ

Communications Express 6 2005Q4 は、JavaScript に対応したブラウザを必要とします。次のブラウザがサポートされます。

表 5–2 Communications Express 6 の推奨ブラウザのバージョン

ブラウザ	Windows XP	Windows 2000	Solaris
Netscape Navigator	7.2	7.2	7.2
Microsoft Internet Explorer	6.0 SP2	6.0 SP1 以降	NA
Mozilla™	1.4	1.4	1.4

このリリースで修正されたバグ

Communications Express 2005Q4 で修正されたバグ。

表 5–3 Communications Express で修正されたバグ

バグ番号	説明
6263386	Web メールを特定のドメイン用にカスタマイズすると、Communications Express のリンクが失敗する
6265290	Communications Express で `inetDomainSearchFilter` が設定されていると、トラストサークル SSO が失敗する
6267844	Schema 2 によるホストドメインの設定中に、認証が失敗したときに間違ったドメインが表示される
6261129	リモート Access Manager でアイドルタイムアウトが機能しない
6229297	スペルチェックを取り消そうとすると、メッセージの本文が失われる
6229319	「現在のフォルダ」ドロップダウンメニューから「フォルダを選択」オプションが選択されると、JavaScript エラーが発生する

表 5–3 Communications Express で修正されたバグ　(続き)

バグ番号	説明
6208144	Communications Express の「エイリアス」ドメイン検索が機能しない
6179023	オプションからアドレス帳までたどっていくときに、Communications Express が不正なエラーメッセージを表示する。
6204672	日本語、韓国語、簡体字中国語、または繁体字中国語ロケールで Mozilla Firefox を使用する場合に、「メールの作成」ウィンドウで一部の文字列が英語で表示される。
6200222	選択言語を日本語、韓国語、簡体字中国語、または繁体字中国語にした場合、Mozilla1.x、Firefox の「新規メッセージ」ウィンドウでいくつかの文字列が英語で表示される。
6182987	「送信済み」フォルダの韓国語の翻訳が正しくない。
6181721	JavaScript エラーにより、Messenger Express は Internet Explorer 上に空白のページを表示する。

インストールに関する注意事項

Communications Express 用としてインストールおよび設定する必要のあるサービスは、次のとおりです。

▼ Communications Express 用としてインストールする必要のある製品

1. **Directory Server - Sun Java™ System Directory Server 5 2005Q1** をインストールします。
2. **Calendar Server - Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4** をインストールします。
3. **Web Server - Sun Java System Web Server version 6.1 SP4** をインストールします。
4. **Messaging Server - Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4** をインストールします。
5. **Access Manager -Sun Java System Access Manager 6 2005Q4** をインストールします。
6. **Application Server - Sun Java System Application Server 8 2005Q4** をインストールします。

   Sun Java System Communications Express をインストールおよび設定する手順については、『Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 管理ガイド』の第 3 章「Communications Express のインストールおよび設定」を参照してください。

既知の問題と制限事項

この節では、Communications Express 6 2005Q4 の既知の問題の一覧表を示します。次の内容について説明します。

- 138 ページの「一般的な問題」
- 139 ページの「設定ツールの問題」
- 142 ページの「カレンダの問題」
- 142 ページの「メールの問題」
- 143 ページの「アドレス帳の問題」
- 144 ページの「オプションの問題」
- 144 ページの「ローカライズに関する問題」

一般的な問題

Communications Express へのログイン後の表示を選択するためのオプションがなくなった。*(6195844)*

デフォルトの表示を選択するオプションが「グローバルオプション」から削除されました。オンラインヘルプにはこの変更が反映されていません。

ユーザーが認証済みである場合でも URL に完全修飾ホスト名が必要となる。*(5008104)*

完全修飾ホスト名が指定されていないと、Communications Express は完全に設定できません。ユーザーが認証されている場合でも、URL が完全修飾ホスト名でなければ Cookie にドメイン名が設定されません。

回避策

常に完全修飾ホスト名を使用してアプリケーションにアクセスします。

Communications Express のアップグレード時に HTTP 502 エラーが表示される。*(6300650)*

x86 版 Solaris 上の Communications Express は、Messenger Express の JES4 バージョンと JES3 バージョン間における互換性の問題が存在します。ユーザーがログアウトする際に Communications Express から HTTP 502 エラーが報告されます。

回避策

Messaging Server (または Messaging Server MEM) を JES4 バージョンの Messaging Server にアップグレードします。

Linux 上の config-uwc 設定ファイルに無効なパス情報が含まれている。*(6263554)*

Linux 上の `config-uwc` 設定ファイルに含まれる Application Server 用のパス名が無効です。これは、Solaris 上では有効だが Linux 上では無効なデフォルトパスを指し示しています。

回避策

間違ったパス情報を次に示します。

```
Install directory: /opt/SUNWappserver/appserver
Directory Domain: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1
Document Root Directory: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot
```

これを次のように変更してください。

```
Install directory: /opt/sun/appserver/appserver
Directory Domain: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1
Document Root Directory: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot
```

UWCAuth サーブレットが **NullPointer** 例外をスローする。 *(6272426)*

Sun Java System Application Server 上に配備された Communications Express の依存コンポーネントが複数ノードにまたがって配備されているような配備シナリオでは、Communicaitons Express UWCAuth サーブレットから NullPointer 例外がスローされます。

回避策

Application Server を再起動します。

設定ツールの問題

ここでは、Communications Express の設定ツールの既知の問題の一覧表を示します。

Communications Express の設定プログラムが「設定解除」オプションをサポートしていない。 *(5104756)*

Communications Express 設定プログラムでは、配備取消し、設定時のファイルの削除、および実行時に作成されたファイルの削除はできません。

回避策

Communications Express の設定を取り消すには、次の手順を実行します。

1. Communications Express パッケージを削除します。たとえば、Solaris では次のように入力します。

   ```
   pkgrm SUNWuwc
   ```

2. 配備ディレクトリを削除します。
3. Web Server または Application Server の `server.xml` ファイルから、WEBAPP エントリを削除します。

サイレント設定が機能しない。 *(5008791)*

Communications Express では、対話形式でのみ設定を実行できます。サイレント設定はできません。サイレントモードで設定しようとすると、「ディレクトリ名を空白のままにすることはできません。これは必須フィールドです。もう一度入力してください。」というメッセージが表示されます。

Communications Express 設定プログラム: **devinstall** が未解決のホストエイリアスに対してコアダンプする。*(5028906)*

システムにホスト名エイリアスが設定されていないと、Communications Express 設定プログラムは設定プロセスを完了できません。

回避策

システムに、1 つまたは複数のホスト名エイリアスが設定されていることを確認します。

UNIX システム上に 1 つまたは複数のホスト名エイリアスを設定するには、次の手順を実行します。

1. `/etc/nsswitch.conf` ファイルの `hosts` を次のように設定します。

   ```
   hosts: files dns nis
   ```

   この設定はネームサービスに対して、ホスト名とホストエイリアスの解決に使用する検索順序を示します。ネームサービスの検索順序は、`files`、`dns`、`nis` です。

2. `/etc/hosts` ファイルで、使用コンピュータの IP アドレスに対して 2 つ以上のホスト名が定義されていることを確認します。

   たとえば、システムの IP アドレスが 129.158.230.64 の場合、`/etc/hosts` ファイルに IP アドレスを次のように設定できます。

   ```
   129.158.230.64 budgie.siroe.varrius.com budgie
   ```

   または

   ```
   129.158.230.64 budgie.siroe.varrius.com budgie loghost
   ```

   IP アドレス の誤った設定例:

   ```
   129.158.230.64 budgie
   ```

GUI 設定の入力フィールドが右揃えになっているために、それらの入力フィールドが切り詰められる。*(4996723)*

設定ウィザードを英語以外の言語で起動した場合、フィールド名およびブラウザボタンが切り捨てられるかまたは表示されません。

回避策

設定パネルのサイズを変更して、コンテンツが正しく表示されるようにします。

Communications Express のコンポーネントが、**0** バイトと表示される。*(4982590)*

Communications Express のメールおよびカレンダコンポーネントを表示する間、Communications Express の設定ツールはコンポーネントサイズを 0 バイトと表示します。

Communications Express 設定後の **Web** サーバー起動時に **Java** 例外が発生する。*(6283991)*

Communications Express と Access Manager が異なるノード上にインストールおよび設定されているようなインストールシナリオでは、Communications Express を含むノード上にインストールされた Web Server の再起動時に Java 例外がスローされます。これは、Communications Express がインストールされているノード上の Web Server のクラスパス設定が間違っているからです。

回避策

Communications Express がインストールされているノードの Web Server インスタンス上の *web_svr_base*`/config/server.xml` ファイルを編集し、Web Server のクラスパスに次のエントリが含まれていることを確認します。

```
opt/SUNWam/lib:/opt/SUNWam/locale:/etc/opt/SUNWam/config:
/opt/SUNWam/lib/am_sdk.jar:/opt/SUNWam/lib/am_services.jar:
/opt/SUNWam/lib/am_logging.jar
```

自己参照シンボリックリンクのために **Linux** 上で **Communications Express** を設定できない。*(6280944)*

Communcations Express 設定プログラムは、Linux 上の`/var/opt/sun/uwc/staging` ディレクトリの下に、自己参照シンボリックリンクを作成します。

回避策

`/var/opt/sun/uwc/staging` ディレクトリからすべての自己参照シンボリックリンクを削除し、UWC を配備し直します。

Communications Express 設定プログラムが **Application Server** ポートの検証を行わず、その結果、設定がハングアップする。*(6298931)*

Communications Express 設定プログラムは、設定中に Application Server ポートの検証を行いません。そのため、間違った Application Server ポート番号が指定されていた場合、設定がハングアップします。

Web Server が動作していると、**Communications Express** の設定がハングアップする。*(6264589)*

Web Server が動作していると、Communications Express の設定がハングアップします。これは、`UnsatisfiedLinkError` エラーが発生するからです。

回避策

コマンド */web_svr_base/web_svr_domain_name*`/stop` を実行して、Web Server をシャットダウンします。これで、Communications Express 設定を継続できるようになります。

カレンダの問題

カレンダでは、すべての表示で **2006** 年より先の年が選択できない。*(5086083)*

Communications Express では、2006 年までの年しか選択できません。すべての表示において 2006 より先の年は選択できません。

カレンダの予定検索フィールドでワイルドカードが使えない。 *(6299178)*

Communications Express で予定や仕事を検索する場合、ワイルドカードは使えません。

「空き時間」権限や「出席依頼」権限だけではカレンダを表示できない。*(6233746)*

「空き時間」権限や「出席依頼」権限を使って特定の共有カレンダに登録しているユーザーは、その共有カレンダを表示できません。

カレンダ内のインポートされた予定や仕事を編集できない。 *(6199523)*

Communications Express は、あるカレンダから別のカレンダにインポートされた予定や仕事の編集を、同一のカレンダ所有者に対して許可しません (両方のカレンダに `allow...` 権限が設定されている場合)。

Calendar Server のオプションを取得しようとすると、エラーが表示される。 *(6306958)*

Communications Express は、JES3 の Messaging Express と Calendar Express による JES4 の UWC コンポーネントのアップグレードに強く依存しています。ユーザーが「カレンダ」の下の「オプション」タブをクリックすると、JavaScript エラーが表示されます。

メールの問題

サイズの大きな添付ファイルを追加すると、「ページが見つからない」というエラーが発生する。*(6193396)*

このエラーは、デフォルトの最大サイズ (5M バイト) を超えるファイルを添付しようとすると表示されます。

ユーザーが **mailAllowedServiceAccess: +ALL:*** を持っている場合、**Communications Express** の「メール」タブが表示されない*(6260646)*

`mailAllowedServiceAccess: +ALL:*` として設定された属性を持つユーザーの「メール」タブは、表示されません。

回避策

`mailAllowedServiceAccess:+ALL:*` 属性を追加しないでください。すでに存在する場合は削除します。これは属性 `+ALL:*` と同じです。

下書きとして保存された転送メッセージが、転送対象の添付ファイルを失ったように表示される。*(6217929)*

ユーザーが添付ファイルを含む転送メッセージを保存した場合、下書きフォルダ内のその下書きには、添付ファイル (または転送メッセージ) が表示されません。ただし、その受信者は、その転送メッセージまたは添付ファイルを受け取ります。これは、ユーザーに混乱を招きます。なぜなら、下書きフォルダ内のメッセージに添付ファイルまたは転送メッセージが含まれていることを示す情報が、何も表示されないからです。

受信箱の未開封メッセージ数が「**Inbox(0)**」と表示される。 *(6298043)*

Communications Express では、メールボックスに未開封メッセージが含まれている場合でも、未開封メッセージ数が「0」と表示されます。

メッセージ転送時に新しい内容が **2** 回表示される。 *(6314465)*

ユーザーがメッセージ転送時に RTF (Rich Text Format) 形式の新しい内容を追加した場合、その新しいメッセージが転送メッセージ内に 2 回表示されます。

Solaris 上の **Mozilla** ブラウザ内でメッセージをプレーンテキスト編集しているときに、新規メッセージ用テキスト領域内のテキストが文字列「**undefined**」に置き換えられる。*(6264555)*

ユーザーがスペルチェックを実行し、編集ボタンを使ってメッセージを編集していると、Communications Express は間違って、すべてのテキストを文字列「undefined」に置き換えてしまいます。この動作は、Mozilla 1.4 が動作する Solaris 9 Operating System 上で見られます。

アドレス帳の問題

defaultps/dictionary-<lang>.xml を使ってアドレス帳の名前をセッションごとにローカライズさせることはできない。*(4995472)*

アドレス帳の名前をローカライズさせることはできません。なぜなら、解決されたセッション言語とドメイン固有の `defaultps/dictionary-<lang>.xml` に基づいてローカライズされる値は、アドレス帳が初めてアクセスされたときに割り当てられるからです。

また、「アドレス帳オプション」ページに入力した「名前」および「説明」も、「アドレス帳」タブページに表示される「現在のアドレス帳」ドロップダウンリストに表示されません。

Outlook から **CSV** 形式のデータをインポートすると、無効な誕生日と記念日が作成される。*(6308706)*

ユーザーが Microsoft Outlook のデータを CSV 形式で Communications Express にインポートしようとすると、誕生日と記念日のエントリが正しく設定されず、00/00/00 になります。

アドレス帳内の削除済み属性に対しては、インデックスが作成されない。このため、パフォーマンス上のオーバーヘッドが発生する。*(6213691)*

アドレス帳の削除済みグループに対しては、インデックスが作成されません。このため、Communications Express のアドレス帳コンポーネント上での検索実行時に、パフォーマンス上のオーバーヘッドが発生します。

オプションの問題

オプションに対するオンラインヘルプに、サポートされていない機能が記載されている。 *(バグ ID なし)*

「オプション」/「一般」に対するオンラインヘルプの「ログイン後のデフォルト表示」に、次のような情報が含まれています。「ログイン後に表示すべきデフォルトページをドロップダウンリストから選択してください。選択可能なオプションは、以下のとおりです。電子メール、カレンダ、アドレス帳」。「オプション」ページにはデフォルトのアプリケーションを選択するためのオプションは表示されません。しかし、オンラインヘルプにはこの変更が反映されていません。

件名フィールドに文字列「**not**」が含まれている場合、メールフィルタの **UI** が正しく機能しない。*(6297827)*

ユーザーが件名フィールドに文字列「not」が含まれたメールフィルタを作成しようとすると、メールフィルタリストにそのメールフィルタのエントリが表示されません。ところが、この件名フィールドの「not」キーワードによって、メールのフィルタリングは正しく行われます。ユーザーは、あとからはこのフィルタを削除できません。なぜなら、このフィルタはメールフィルタリストに表示されないからです。

ローカライズに関する問題

大きなサイズの日本語/フランス語データを使って送信されたメールが文字化けする。*(6201676)*

大きなサイズの電子メールメッセージを受信した場合、ユーザーはメッセージ内の添付のリンク (`text/html` または `text/plain`) をクリックする必要があります。この添付ファイル内に非 ASCII 文字が含まれている場合、新しく開いたブラウザウィンドウに文字化けしたデータが表示されることがあります。この問題は次回提供するパッチで修正される予定です。

回避策

ブラウザのメニューから、適切なエンコードを手動で選択します。

カレンダ表示の年と日の形式が簡体字中国語に翻訳されない。*(5025449)*

カレンダ表示の年と日の表示形式が簡体字中国語に翻訳されません。ただし、「月」の表示は簡体字中国語に正しく翻訳されます。

ローカライズ版 Microsoft Outlook Express Version からの CSV のインポートが機能しない。*(6186520)*

Communications Express は、ローカライズ版 Microsoft Outlook Express からの CSV データをインポートできません。

SMIME

証明書取り消しリストが機能しない。*(6225672)*

暗号化されたメッセージが証明書の取り消されたユーザーに送信されても、Communications Express からは何のエラーメッセージも表示されません。

移行

個人用アドレス帳の動的移行が機能しない。 *(6315048)*

Communications Express は、個人用アドレス帳データを Messenger Express から Communications Express に移行できません。

回避策

個人用アドレス帳のエントリを Communications Express に移行するには、バッチ移行を使用します。Communications Express への PAB データの移行手順については、『Sun Java System Communications Express 6 2005Q4 管理ガイド』の第 8 章「PAB データのアドレス帳サーバーへの移行」を参照してください。

第 6 章

Microsoft Outlook 版 Sun Java System Connector 7 2005Q4 リリースノート

Version 7 2005Q4

このリリースノートには、Sun Java ™ System Microsoft Outlook 版 Connector (Microsoft Outlook 版 Connector) の Version 7 2005Q4 リリース時点での重要な情報が含まれます。ここでは、新機能や拡張機能、既知の制限事項や問題点、技術的な注意事項、その他の関連情報を説明します。Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4 を使用する前に、本書をお読みください。

リリースノートの最新版は `http://docs.sun.com/coll/1381.1?l=ja` で入手することができます。ソフトウェアのインストールと設定を行う前に、この Web サイトを確認してください。また、その後もこの Web サイトを定期的に確認して、最新のリリースノートやマニュアルを参照してください。

このリリースでの新機能については、150 ページの「このリリースの新機能」を参照してください。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- 148 ページの「リリースノートの改訂履歴」
- 148 ページの「Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector Version 7 2005Q4 について」
- 150 ページの「このリリースの新機能」
- 150 ページの「要件」
- 151 ページの「インストールに関する注意事項」
- 153 ページの「互換性に関する問題」
- 164 ページの「マニュアルの更新」
- 164 ページの「このリリースで修正されたバグ」
- 173 ページの「制限事項と既知の問題」
- 183 ページの「再配布可能なファイル」

このリリースノートにあるサードパーティーの URL を参照すると、追加および関連情報を入手できます。

注 – このマニュアルで述べる外部 Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生したいかなる損害や損失についても、Sun は直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

リリースノートの改訂履歴

表 **6–1** Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 改訂履歴

日付	変更の説明
2005 年 7 月	このリリースノート (Version 7 2005Q4) の Beta リリース
2005 年 10 月	このリリースノート (Version 7 2005Q4) の最終のリリース

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector Version 7 2005Q4 について

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector を利用すると、Outlook を Sun Java Enterprise System のデスクトップクライアントとして使用できます。

Microsoft Outlook 版 Connector は Outlook 用プラグインであり、一般ユーザーのデスクトップにインストールする必要があります。Microsoft Outlook 版 Connector は Sun Java System Messaging Server のフォルダ階層や電子メールメッセージを照会します。その情報を、Outlook で表示できる Messaging API (MAPI) プロパティーに変換します。同様に、WCAP を使用して Sun Java System Calendar Server の予定や作業を照会し、それらを MAPI プロパティーに変換します。このモデルにより、Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector は 2 つの個別の情報から一般ユーザー向けの Outlook ビューを構築します。すなわち、Messaging Server のメールと Calendar Server のカレンダ情報です。

ユーザーが Outlook を通じてアイテムの作成や変更を行うと、Microsoft Outlook 版 Connector は新しいメッセージをそのメッセージタイプに応じて適切なサーバーに転送します。新しい送信メールは SMTP メールサーバーに送られて配信され、変更された電子メールメッセージはユーザーの IMAP フォルダへ送り返されて保管されます。新しい予定表のイベントと仕事は標準の形式に変換され、Calendar Server のデータベースに保存されます。

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4 には、アドレス帳サービスのサポートが含まれます。このサービスは WABP を利用します。このサービスによって、ユーザーは個人用アドレス帳に Outlook と Sun Java System Communications Express のどちらからでもアクセスできます。

注 – Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のパッケージに移行ツールは含まれません。これらの移行ツールは、現在 Microsoft Exchange を利用するユーザーがいて、Outlook を Sun Java Enterprise System とともに使用したい場合に必要になります。Sun では、既存の Exchange 配備から Sun Java Enterprise System へのデータとユーザーの移行を支援する移行サービスを提供しています。

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector の主な機能

このリリースで利用できる主な機能は、次のとおりです。

- Sun Java System Messaging Server および Sun Java System Calendar Server へのアクセス。
- Messaging Server 上の電子メールフォルダへの IMAP4 によるアクセス。
- Calendar Server に保存されているカレンダデータ (イベント、アポイント) とタスクへの WCAP によるアクセス。
- 企業ディレクトリへの LDAP によるアクセス。
- アドレス帳サーバーに保存されている連絡先へのアクセス。
- Outlook の一般的なメール機能。
  - メッセージの作成、返信、および転送
  - Microsoft Word を使用してのメッセージの作成と編集
  - メッセージ本文へのスペルチェックと暗号化の適用
  - メッセージヘッダーへのアドレスコンプリーションの適用
  - メッセージへの署名の追加
- ほかのユーザーとのメールフォルダの共有。
- ほかのユーザーのメールフォルダの購読。
- 一般的なカレンダ機能。
  - 新しいアポイントやイベントの作成 (終日、定期的、公開、非公開)
  - イベントの修正
  - 空き時間の確認
  - イベントに対する代替時間の提案
  - 予定の要求に対する返信の追跡
- 電子メールベースのグループスケジューリング。
- ほかのユーザーとのカレンダの共有、および共有カレンダに対する特定のアクセス権の設定。
- ほかのユーザーのカレンダの購読。
- ほかのユーザーへのカレンダアクセスの委任。
- 一般的な仕事関連の機能 (新しい仕事、仕事の変更)。
- フォルダとデータタイプに付与するクライアント側のルール
- IMAP フォルダに保存されるメモと履歴。
- メール、カレンダ、およびアドレス帳の完全なオフラインサポート。

- Web クライアント (Communications Express) との相互運用性。
- グローバルアドレスリストによるサーバー側メッセージフィルタの管理。

このリリースの新機能

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4 の新機能は、次のとおりです。

- 参照機能を持つグローバルアドレスリスト
- Microsoft LDAP に対する依存関係の解除
- 不在設定、およびログイン時に設定が有効化されたことをユーザーに通知する機能
- サイズの大きいフォルダの同期時に表示される進行状況
- メールフィルタの設定
- 連絡先の共有
- メールフォルダ共有のためのユーザーの検索機能
- 名前と電子メールアドレスの LDAP からの自動的な設定と更新
- すべてのメッセージの本文をプレビューするオプション

要件

ここでは、Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector の要件と推奨事項を次に示します。

注 – Sun Java System Communications Express パッチ 118540–20 を Microsoft Outlook 版 Connector に適用する必要があります。このパッチは、Sunsolve (`http://sunsolve.sun.com`) からダウンロードできます。

次のオペレーティングシステムがサポートされています。

- Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3 以上)
- Microsoft Windows XP (Service Pack 1 以上)
- Microsoft Windows 2003 Terminal Server

次のバージョンの Microsoft Outlook がサポートされています。

- Outlook 2000 SP3 (ワークグループモード)
- Outlook 2002 SP2
- Outlook 2003

その他、Microsoft Outlook 版 Connector には次の要件があります。

- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4

注 – Calendar Server のユーザーが以前のバージョンの Sun Java System Calendar Server を配備している場合、データを新しい形式に変換して移行するには、Sun プロフェッショナルサービスのサポートが必要です。この場合、Sun プロフェッショナルサービスのサポートを利用できます。Outlook を使用するには、この移行作業が必要です。これは、定期的な予定の保管と管理の方法が根本的に変更されたためです。移行サービスは、Calendar Server 6 2004Q2 以降の新しいバージョンでは不要です。

- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4

注 – Calendar Server と Messaging Server は、どちらも Sun Java Enterprise System からインストールされます。Sun Java Enterprise System は、次のサイトからダウンロードできます。`http://www.sun.com/software/download/java_system.html`

- Web Publishing Wizard (Outlook 2000 の場合のみ必要)

  Windows 2000 を使用している場合は、`Wpwiz.exe` プログラムファイルによって、Web Publishing Wizard がコンピュータにインストールされているかどうかを確認します。たとえば、プログラムが C ドライブにインストールされている場合は、次の場所を確認します。

  ```
  C:\Program Files\Web Publish\Wpwiz.exe
  ```

  または、「スタート」ボタンから「検索」コマンドを使用して `Wpwiz.exe` ファイルを検索します。

  Windows 2000 コンピュータに Web Publishing Wizard がインストールされていない場合は、`http://www.microsoft.com` からダウンロードしてください。

注 – この Web サイトでダウンロードされる Web Publishing Wizard は Windows 95 用および Windows NT 4.0 用となっていますが、Windows 2000 用として適切なバージョンです。

インストールに関する注意事項

Microsoft Outlook 版 Connector は Outlook のプラグインであり、一般ユーザーのデスクトップにインストールする必要があります。組織の Microsoft Outlook 版 Connector の配備を支援するための配備および設定プログラムが用意されています。

注 – Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector をインストールする前に、必要なパッチについての最新情報を SunSolve Web サイト (`http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage`)で確認してください。

インストールと配備には、次の 3 段階のプロセスがあります。

▼ Microsoft Outlook 版 Connector のインストール

1. 管理者パッケージのインストール。

2. 一般ユーザー用インストールパッケージの作成。

3. インストールパッケージの配備。

   Microsoft Outlook 版 Connector パッケージには、管理者パッケージのインストーラが付属しています。システム管理者は、一般ユーザー用に設定ウィザードと呼ばれる専用のインストールパッケージを準備する必要があります。設定ウィザードによって、デスクトップへの Microsoft Outlook 版 Connector ソフトウェアのインストールと設定が行われます。このインストールパッケージは、イントールのプロセスを単純化および自動化するよう設計されています。

   インストール、設定、および配備の手順については、次の各マニュアルを参照してください。

   - 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q4 Installation Guide』は、管理者パッケージのインストール方法を説明しています。
   - 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q4 Administration Guide』は、Deployment Configuration Program を使用した一般ユーザー用パッケージの作成方法を説明しています。
   - 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 7 2005Q4 Deployment Planning Guide』は、Microsoft Outlook 版 Connector の配備について説明しています。

   ### データの変換

   Microsoft Outlook 版 Connector の設定時および構成時に実行できるオプションの手順の 1 つに、デスクトップ上に存在するデータの変換があります。この変換処理は、管理者が一般ユーザー用インストールパッケージの作成時に「既存のプロファイルを変換する」オプションを有効にした場合のみ呼び出されます。この変換処理は、サーバーベースの移行の必要性を置き換えるものではないことに注意してください。Sun では、既存の Exchange 配備から Sun Java Enterprise System へのデータとユーザーの移行を支援する移行サービスを提供しています。

   ### LDAP 属性

   Microsoft Outlook 版 Connector を正しく機能させるには、Sun Java System Directory Server の全体的なパフォーマンス向上のために、次の LDAP 属性について少なくとも実在インデックスと等価インデックスを作成してください。

   - `icsCalendar`
   - `mail`
   - `mailalternateaddress`

   これらの属性の詳細については、『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』および『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

互換性に関する問題

このセクションでは、Microsoft Outlook 版 Connector の互換性に関する問題を説明します。

Sun Java System Calendar Server の検討事項

ここでは、Sun Java System Calendar Server の Microsoft Outlook 版 Connector に関する検討事項を説明します。

Calendar Server のインストール

Calendar Server の最新バージョンは、Collaboration and Communication download site から入手できます。

また、SunSolve で入手できる最新のパッチセットをインストールすることをお勧めします。

インストール手順の詳細については『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』を参照してください。設定の手順については、『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』を参照してください。

注 – Calendar Server 5.x から最新バージョンの Calendar Server に移行する場合は、`cs5migrate_recurring` ユーティリティーを実行してデータベースを変換し、Microsoft Outlook 版 Connector のデータモデルに準拠させる必要があります。`cs5migrate_recurring` ユーティリティーの詳細については、テクニカルサポートに問い合わせてください。

必須の LDAP mail 属性

Calendar Server 6 2004Q2 以降では、ユーザーカレンダとリソースカレンダの両方に LDAP `mail` 属性が必要です。

会議室や、ノートブックコンピュータやオーバーヘッドプロジェクタなどの備品について、クライアントが Microsoft Outlook を使ってリソースカレンダでスケジュール設定する場合は、各リソースに電子メールアドレスを (実際に不要な場合も) 設定する必要があります。この電子メールアドレスは、LDAP `mail` 属性によって指定します。

次のように LDAP `mail` 属性を明示的に追加することが必要な場合もあります。

5.x インストール。`cs5migrate_recurring` 移行ユーティリティーを実行する前に、ユーザーカレンダとリソースカレンダの両方について `mail` 属性をユーザーに追加します。`mail` 属性を追加するには、Calendar Server の `csattribute` ユーティリティー、または Directory Server の `ldapmodify` ユーティリティーなどのユーティリティーを使用します。

新規インストール **(6 2004Q2** 以降**)**。Calendar Server の `csattribute` ユーティリティー、または Directory Server の `ldapmodify` ユーティリティーなどのユーティリティーを使用して、ユーザーカレンダとリソースカレンダの両方について LDAP `mail` 属性を既存のユーザー用に準備します。

インストール後に新しいカレンダやユーザーを作成する場合は、次の Calendar Server ユーティリティーを実行するときに、 -m *email* オプションを使用して電子メールアドレスを指定します。

- csresource ユーティリティー (新しいリソースカレンダ用)
- csuser ユーティリティー (新しいユーザー用)

csattribute、csresource 、および csuser の詳細については、『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』を参照してください。ldapmodify ユーティリティーの詳細については、『 Sun Java System Directory Server Resource Kit Tools Reference』を参照してください。

▼ リソースカレンダへの LDAP email 属性の追加

sesta.com サーバー上の「Room100」という会議室の LDAP mail 属性を追加する例を次に示します。この例では、Messaging Server を設定します。その他の電子メールサーバーを使用している場合は、その製品のマニュアルで対応するプロセスを参照してください。

1. csattribute ユーティリティーを使用して、**LDAP** サーバーに **mail** 属性を追加します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@sesta.com add Room100
```

2. 属性が設定されたことを確認するには、-v **(verbose)** オプションを指定して、csattribute list コマンドを使用します。

```
# ./csattribute -v list Room100
...
cn=Room 100,ou=conferenceRooms,dc=sesta,dc=com has mail: Room100@sesta.com
```

▼ リソースメール用 bitbucket チャネルの設定 (Messaging Server)

リソースカレンダ用に生成される電子メールのために Messaging Server の bitbucket チャネルを設定する例を次に示します。この例では、sesta.com サーバー上の「Room100」というリソースを使用します。bitbucket チャネルまたは同等のチャネルを設定しない場合は、リソースカレンダに送信された電子メールメッセージを定期的に削除する必要があります。

1. imta.cnf ファイルに bitbucket チャネルが定義されていることを確認します。

2. メッセージを bitbucket チャネルに送るには、csresource ユーティリティーを使用してリソースに電子メールアドレスを作成します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@bitbucket.sesta.com add Room100
```

注 – これらの変更を有効にするには、エイリアステーブルまたはエイリアス設定を再構築することが必要な場合もあります。詳細については、Messaging Server または使用している電子メール製品のマニュアルを参照してください。また、メールサービスの変更について、使用中のサイト独自のマニュアルや手順を参照してください。

▼ リソースメール用 bitbucket チャネルの設定 (Sendmail)

リソースカレンダ用に生成される電子メールのために Sendmail の bitbucket チャネルを設定する例を次に示します。この例では、sesta.com サーバー上の「Room100」というリソースを使用します。bitbucket チャネルまたは同等のチャネルを設定しない場合は、リソースカレンダに送信された電子メールメッセージを定期的に削除する必要があります。

1. 該当するホスト上の /etc/aliases ファイルに、次のようなエントリを追加します。

```
# Resource/Conference room aliases
Room100: /dev/null
```

2. csresource ユーティリティーを使用して、**LDAP** ディレクトリにリソースの電子メールアドレスを追加します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@sesta.com add Room100
```

電子メールのエイリアス (mailalternateaddress 属性)

カレンダユーザーに電子メールのエイリアスを設定する必要がある場合は、LDAP mailalternateaddress 属性を使用します。LDAP mail 属性はプライマリ電子メールアドレスを示し、LDAP mailalternateaddress 属性は電子メールのエイリアスに使用されます。どちらの属性もメールアドレスをユーザーのカレンダ ID (calid) にマッピングします。

たとえば、次の値を持つ John Smith というユーザーの mailalternateaddress 属性を追加するには、次の手順に従います。

- ユーザー ID (uid) と calid: johnsmith
- 電子メールアドレス: john.smith@sesta.com
- 電子メールのエイリアス: johns@sesta.com および jsmith@sesta.com

次の Calendar Server ユーティリティーコマンドを使用します。

```
# ./csuser -g John -s Smith -y password -l en -m john.smith@sesta.com \
-c johnsmith create johnsmith
# ./csattribute -a mailalternateaddress=johns@sesta.com add johnsmith
# ./csattribute -a mailalternateaddress=jsmith@sesta.com add johnsmith
```

共有カレンダ LDAP 検索の設定

Directory Server で共有カレンダ LDAP 検索に認証が必要な場合は、次のように service.wcap.userprefs.ldapproxyauth パラメータを ics.conf ファイルに設定する必要があります。

- 匿名バインド: `service.wcap.userprefs.ldapproxyauth = "no"`
- 認証済みプロキシバインド: `service.wcap.userprefs.ldapproxyauth = "yes"`

`service.wcap.userprefs.ldapproxyauth` が「yes」の場合は、適切な LDAP ACI を `calmaster` エントリに設定する必要もあります。たとえば、`sesta.com` ドメインでプロキシ認証のための `calmaster` ACI を設定するには、次のように `ldapmodify` ツールを使用します。

```
dn:  o=usergroup
changetype: modify
add: aci
aci: (targetattr="icscalendar || cn || givenName || sn || uid ||
mail")(targetfilter=(objectClass=icscalendaruser))(version 3.0; acl
"Allow calendar administrators to proxy -
product=ics,class=admin,num=2,version=1"; allow (proxy) groupdn =
"ldap:///cn=Calendar Administrators,ou=Groups,o=usergroup";)
```

ドメインベース DN ノードについては、正しい ACI を次の例で示します。

```
dn:  o=sesta.com,o=usergroup
changetype: modify
add: aci
aci:(targetattr="icscalendar || cn || givenName || sn || uid || mail")
(targetfilter=(objectClass=icscalendaruser))(version 3.0; acl "Allow
calendar users to read and search other users -
product=ics,class=admin,num=3,version=1"; allow (search,read)
userdn = "ldap:///uid=*, ou=People, o=sesta.com, o=usergroup";)
```

ドメインがない場合は、`dn:` 行の `o=sesta.com` の部分を削除することで、この ACI をルートサフィックス自体に追加します。

Calendar Server 設定プログラム `csconfigurator.sh` が、これらの ACI を追加します。Java Enterprise System Release 1 からのアップグレードの場合は、この設定プログラムを再度実行して、更新されたこれらの ACI を取得する必要があります。

Outlook の空き時間検索と SSL

Microsoft Outlook の空き時間検索オプションは、SSL モードで Calendar Server にアクセスするユーザーをサポートしていません。同一の Calendar Server インスタンスに対して SSL モードと非 SSL モードの両方を使用するには、ユーザーは次のように異なるポート番号を指定する必要があります。

- **SSL** モード — SSL を使用して Calendar Server にアクセスするには、SSL ポートを使用します。デフォルトのポート番号は「443」で、`ics.conf` ファイルに次のパラメータで設定されています。

  `service.http.ssl.port = "443"`

- 非 **SSL** モード — Outlook の空き時間検索オプションを使用するには、標準の HTTP ポートを使用して Calendar Server にアクセスします。デフォルトのポート番号は「80」で、`ics.conf` ファイルに次のパラメータで設定されています。

```
service.http.port = "80"
```

SSL については、『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』の第 8 章「Configuring SSL」を参照してください。

Calendar Server 削除ログデータベース

Calendar Server 6 2004Q2 以降には、削除された予定や仕事 (作業) を保存するための削除ログデータベース (`ics50deletelog.db`) が用意されています。詳細については、『Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4 Administration Guide』の第 18 章「Administering the Delete Log Database」を参照してください。

Communications Express とのシステムフォルダマッピングの相互運用性

IMAP プロトコルでは受信メール (受信トレイ) に対してシステムフォルダが 1 つしか定義されませんが、Outlook や Sun Java System Communications Express などのメールクライアントでは下書き、送信済みメール、および削除済みメールに対して独自のシステムフォルダが定義されます。メールクライアントは、これらのフォルダを区別する機能を持ちません。これらのシステムフォルダは、ロケールとクライアントソフトウェアに応じて別々の優先名とローカライズ名を使用して作成されます。そのため、単一の電子メールアカウントが複数の電子メールクライアントからアクセスされた場合、または同じ電子メールクライアントでも異なるロケールのマシンからアクセスされた場合、1 つのシステムフォルダに対して複数の物理 IMAP フォルダが作成されます。

Outlook のフォルダ名は次のようになります。

- 削除済みアイテム: `Deleted Items`
- 下書き: `Drafts`
- 送信済みアイテム: `Sent Items`

Communications Express のフォルダ名は次のようになります。

- 削除済みアイテム: `Trash`
- 下書き: `Drafts`
- 送信済みアイテム: `Sent`

Outlook 用システムフォルダの定義

新しい Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector メールシステムマッピングファイルを利用することで、Outlook と Communications Express の相互運用性が向上します。これにより、管理者はシステムフォルダのマッピング方法を設定できます。`uwc_folders.map` ファイルに、Communications Express のシステムフォルダのマッピング定義が含まれます。`outlook_folders.map` ファイルに、Microsoft Outlook 版 Connector のシステムフォルダのマッピング定義が含まれます。

Deployment Configuration Program の「メール」タブの下部で、デフォルトのシステムフォルダマッピング定義ファイルとしてマッピングフォルダファイルを 1 つ選択することができます。「**Outlook** スタイル」または「**Communications Express** スタイル」のどちらかを選択して、ユーザープログラムがユーザーの IMAP フォルダの命名に使用する標

準を指定します。この選択により、ユーザーの IMAP フォルダ名のマッピングに outlook_folders.map と uwc_folders.map のどちらのマッピングファイルを使用するかが決まります。管理者はこのプログラムを実行する前に、元のファイル名を変更しないかぎり、ローカル環境の要件を満たすようにこれらのファイルを編集することもできます。

Communications Express 用システムフォルダの定義

次に、Communications Express 用のシステムフォルダを定義する必要があります。i18n.js ファイルによって、Communications Express のシステムフォルダ名を定義します。このファイルは /var/opt/SUNWmsgsr/config/html/*lang* ディレクトリにあります。*lang* は、ローカライズ言語を示します (フランス語であれば fr)。マッピングのエントリが sjoc_folders.map ファイル内のエントリと同じようになるよう、このファイルを修正する必要があります。

たとえば、フランス語の i18n.js ファイルでデフォルトのフォルダマッピングは次のようになります。

```
i18n['INBOX'] = 'Inbox'
i18n['trash folder'] = 'trash'
i18n['draft folder'] = 'draft'
i18n['sent folder'] = 'sent'
...
fldr['INBOX'] = 'French Inbox'
fldr['trash'] = 'French Trash'
fldr['draft folder'] = 'French Draft Folder'
fldr['sent folder'] = 'French Sent Folder'
```

i18n[*x*] の値を使用して、IMAP ストア内にシステムフォルダが作成されます。たとえば、 i18n['trash folder']= 'trash', であれば、trash というフォルダが IMAP ストア内に作成されます。クライアントインタフェースに表示するシステムフォルダ名には、fldr[*y*] の値が使用されます。

同様のフォルダマッピングは、sjoc_folders.map ファイルでは次のようになります。

```
[fr]
INBOX='Boîte de réception'
Deleted Items='Éléments supprimés'
Drafts='Brouillons'
Sent Items ='Éléments envoyés'
```

そのため、フランス語 i18n.js のフォルダマッピングを修正して、次のように sjoc_folders.map ファイルと一致させてください。

```
i18n['INBOX'] = 'Boîte de réception'
i18n['trash folder'] = 'Éléments supprimés'i18n['draft folder'] = 'Brouillons'
i18n['sent folder'] = 'Éléments envoyés'
...
fldr['INBOX'] = 'Boîte de réception'
fldr['trash'] = 'Éléments supprimés'
```

```
fldr['Drafts'] = 'Brouillons'
fldr['Sent'] = 'Éléments envoyés'
```

i18n.js ファイルで表された各言語について修正する必要があります。

注 – i18n.js ファイルは UTF8 コードで記述されているので、UTF8 コードで保存できるエディタを使用する必要があります。

この新しいフォルダマッピング定義は、新しいユーザーにのみ有効です。

ユーザーが Communications Express にログインする前に、ユーザーの優先言語を設定する必要があります。設定するには、ldapmodify コマンドを使用して、preferredLanguage 属性または preferredLocale 属性を設定します。

次のような場合を除き、新しいユーザーには 1 セットのシステムフォルダだけを参照できるはずです。

ロケールがフランス語に設定された Outlook にログインします。その後、同じユーザーが英語を優先言語に設定した Communications Express にログインします。このユーザーには、trash、draft、sent、Éléments supprimés、Brouillons、および Éléments envoyés のシステムフォルダが Outlook と Communications Express の両方で表示されます。

クライアントの LDAP 設定

Sun Java System Communications Services と共にリリースされているすべてのクライアント製品では、ユーザーは企業ディレクトリと自分のアドレス帳を検索できます。この状態でも機能しますが、LDAP をいくらか調整することにより、ユーザーの操作性を向上させることができる場合があります。

ここでは、次の機能について説明します。

- 159 ページの「インターナショナル検索の設定」
- 162 ページの「企業ディレクトリへの匿名アクセスの許可」
- 162 ページの「ディレクトリの参照の許可」

インターナショナル検索の設定

Communications Express と Microsoft Outlook 版 Connector のどちらを使用していても、個人用連絡先や公開アドレス帳で特定の文字列を検索するのは、ロケール固有の処理となります。たとえば、フランス語のユーザーが「Gaelle」を検索して「Gaelle」という文字列を含むエントリを取得しようとすると、「Gaëlle」という文字列を含むエントリまで取得されます。

ユーザーに対するロケールに基づいたエントリの表示方法を規定するさまざまな規則を、照合規則または照合順序と呼びます。照合順序によって、該当の言語の文字をソートする方法についての言語と文化に固有の情報が提供されます。アルファベット文字の並び順のような規則、アクセントを持つ文字とアクセントを持たない文字の比較方法、

および文字列の比較時に無視できる文字の有無が定められます。また照合順序には、言語に関して文化に固有の情報が考慮されています。たとえば、文字方向 (左から右へ、右から左へ、または上から下へ) などです。

Sun Java System Directory Server では広範囲のロケールと照合規則をサポートしています (『Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 Administration Reference』の「Identifying Supported Locales」を参照)。ユーザーベースによっては、使用環境のほとんどの部分に影響を与えるロケールを最初に選択する必要があります。次に示す例では、英語 (US) ロケール (OID = 1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.4.34.1) を使用します。

検索の実行時に使用するロケールを指定するには、『Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 Administration Reference』の「Searching an Internationalized Directory」に記載されているマッチングルールフィルタ構文を使用します。この構文を使用すると、ローケルだけでなく検索の種類 (等価、部分文字列など) も指定できます。

たとえば、次のフィルタを使用すると、英語 (US) の照合規則 (1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.4.34.1) を使い、CN 属性に対して部分文字列の比較 (.6) が実行されます。このフィルタは、「Gae」で始まる文字列を CN で検索します。

```
cn:1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.4.34.1.6:=Gae*
```

インデックスの更新

LDAP 検索の実行時に発生するパフォーマンスに関する問題のほとんどは、インデックスが存在しないか、正しく設定されていないことが原因です。デフォルトでは、Directory Server は Communications Express または Microsoft Outlook 版 Connector が発行した検索ではインデックスを使用するように設定されているため、妥当な時間内に結果が返されます。しかし、Directory Server はインターナショナル検索に対応するように設定されていません。そのため、選択されている照合規則に対応するように既存のインデックスを変更する必要があります。これについては、『Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 Administration Guide』の「インデックスの管理」に説明されています。

たとえば、CN 属性はデフォルトで userRoot サフィックスにインデックス設定されています。

```
# ldapsearch -D "cn=Directory manager" -b
"cn=cn,cn=index,cn=userRoot,cn=ldbm database,cn=plugins,cn=config"
"objectclass=*"
cn=cn,cn=index,cn=userRoot,cn=ldbm database,cn=plugins,cn=config
objectClass=top objectClass=nsIndex
cn=cn
nsSystemIndex=false
nsIndexType=pres
nsIndexType=eq
nsIndexType=sub
```

これを英語 (US) の照合規則を使用したインターナショナル検索で有効にするには、英語 (US) の OID を持つ nsMatchingRule 属性を 1 つ追加します。クライアントは部分文字列検索を実行するので、次のように部分文字列サフィックス (「.6」) を OID に追加する必要があります。

```
#ldapmodify -D "cn=Directory manager"
dn: cn=cn,cn=index,cn=userRoot,cn=ldbm database,
 cn=plugins,cn=config
changetype: modify
add: nsMatchingRule
nsMatchingRule: 1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.4.34.1.6
```

注 – 値の先頭または末尾に、スペース、タブ、その他表示されない文字を追加しないでください。

注 – nsMatchingRule は、複数の値を設定できる属性です。同一の OID に対して異なる種類の検索を追加することや、異なる OID を追加することができます。

その後、 *serverroot*/`slapd-instance` に格納されている `db2index.pl` スクリプトを実行する必要があります。

```
# perl db2index.pl -D "cn=Directory Manager" -w \
secret -n userRoot -t cn
```

この操作はオンラインで実行されますが、終了までに時間がかかることがあります。または、サフィックスを再初期化することもできます。詳細については、『Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 Administration Guide』の「サフィックスの再初期化」を参照してください。

コンソールを使用して nsMatchingRule を追加することもできます (『Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 Administration Guide』の「インデックスの管理」を参照)。

修正の必要があるインデックスのリストを次に掲載します。インデックスを使用しない検索は実行されないことを確認してください。これは、Directory Server のアクセスログファイルを参照し、検索結果のエントリで notes=U を探すことで確認できます。

Communications Express での検索フィルタの設定

Communications Express が使用する検索フィルタを、マッチングルールの構文に適合するように変更する必要があります。それには、`db_config.properties` ファイルで指定される照合規則のパラメータを有効にします。このファイルは、*deployed-path*/`WEB-INF/ldappstore` (個人ストア用) および *deployed-path*/`WEB-INF/corp-dir` (企業ディレクトリ用) に格納されています。

パラメータの内容は次のとおりです。

```
# Collation Rule
# Uncomment below to apply collation rule

# collation_rule=en-US
```

```
# Search Fields for which collation rule should be applied.
# The fields provided here should be disambiguator formatted fields
# e.g. entry/displayname, person/givenname etc.
# Uncomment below to supply the comma-separated fields

# search_fields=entry/displayname
```

照合規則を有効にするには、*collation_rule* パラメータと *search_fields* パラメータをアンコメントにします。検索で個別のフィールドやフィールドセットを指定するには、*search_fields* の値を適切な値に変更します。*collation_rule* には、検索の種類を示すサフィックスなしで、言語タグまたはその言語に対応する OID (例では 1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.4.34.1) のどちらかを格納できます。変更後に Web コンテナインスタンスを起動する必要があります。

Communications Express に対するインターナショナル検索には、LDAP サーバー上で次の属性のインデックスを作成してください。

- `cn` (`ou=people/ou=groups` サフィックスの下)
- `displayname` (`o=piServerDb` サフィックスの下)

企業ディレクトリへの匿名アクセスの許可

Microsoft Outlook 版 Connector は、DN とパスワードを使用してバインドすることも、匿名としてバインドすることもできます。企業ディレクトリへの匿名のアクセスを有効にするには、`ou=people/ou=group` サブツリーのルートレベルで ACL を追加します。

たとえば、ルートレベルが `dc=red,dc=sesta,dc=com` であれば、次のように設定します。

```
#ldapmodify -D "cn=Directory manager"
dn: dc=red,dc=sesta,dc=com
changetype: modify
add: aci
aci: (targetattr != "userPassword")
  (version 3.0;acl "Anonymous access";
  allow (read,compare,search)
  (userdn = "ldap:///anyone");)
```

ディレクトリの参照の許可

この 7 2005Q4 リリースから、Microsoft Outlook 版 Connector では一般ユーザーがディレクトリを参照できるようになりました。アドレス帳のページを呼び出すと、ディレクトリ内の先頭から 10 個のエントリが表示されます。ユーザーは上下にスクロールしたり、数文字を入力して、自動的に表示される結果を参照することができます。これは、ユーザーが特定の 1 ユーザーしか検索できなかった Microsoft Outlook 版 Connector の以前のバージョンからの変更点です。

パフォーマンスを維持しつつこの機能を有効にするために、Connector には仮想リスト表示 (VLV) および検索結果の server-side sorting (RFC 2891) という 2 つの LDAP 制御の拡張機能が備えられています。次の ldapsearch の例では、サポートされる制御のリストが返されます。

```
# ldapsearch -s base "objectclass=*" supportedControl
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.2
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.3
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.4
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.5
supportedControl=1.2.840.113556.1.4.473  ------> Server Side Sort Control
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.9 ------> VLV Control
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.16
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.15
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.17
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.19
supportedControl=1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.5.2
supportedControl=1.3.6.1.4.1.42.2.27.9.5.6
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.14
supportedControl=1.3.6.1.4.1.1466.29539.12
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.12
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.18
supportedControl=2.16.840.1.113730.3.4.13
```

Sun Java System Directory Server は、どちらの制御もサポートしています。しかしデフォルトでは、VLV 制御は認証されたユーザーしか利用できません。

```
ldapsearch -D "cn=Directory Manager" -b \
"oid=2.16.840.1.113730.3.4.9,cn=features,cn=config" \
"objectclass=*" aci oid=2.16.840.1.113730.3.4.9,cn=features,cn=config \
aci=(targetattr != "aci")(version 3.0; acl "VLV Request Control"; \
allow( read, search, compare, proxy ) userdn = "ldap:///all";)
```

VLV 制御への匿名アクセスを許可するには、対応する ACI を追加します。

```
#ldapmodify -D "cn=Directory Manager" \
dn: oid=2.16.840.1.113730.3.4.9,cn=features,cn=config \
changetype: modify add: aci aci: (targetattr !="aci")\
(version 3.0; acl "VLV Request Control"; allow (compare,read,search) \
userdn = "ldap:///anyone"; )
```

VLV と Sort を必要とする検索のパフォーマンスを向上させるには、Directory Server にブラウズインデックスを作成します (『Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 Administration Guide』の「ブラウズインデックスの管理」参照)。各ブラウズインデックスは、ベース DN、検索フィルタ、スコープ、およびソート属性ごとに固有です。VLV 設定は、クライアント側で配備設定ツールを使用して調整できます。

ここでは、CN 属性にソートを使用し、`dc=red,dc=iplanet,dc=com` と等しいベース DN および `(&(mail=*)(cn=*))` と等しいフィルタに対してブラウズインデックスを作成する必要があります。ブラウズインデックスの情報は、ベース DN (この場合 userRoot) を含む設定に追加されます。

```
#ldapmodify -D "cn=Directory Manager"
dn: cn=Browsing red.sesta.com,cn=userRoot,
cn=ldbm database,cn=plugins,cn=config
```

```
changetype: add
objectClass: top
objectClass: vlvSearch
cn: Browsing red.sesta.com
vlvbase: dc=red,dc=sesta,dc=com
vlvscope: 2
vlvfilter: (&(mail=*)(cn=*))
aci: (targetattr="*")
(version 3.0; acl "VLV for Anonymous";
allow (read,search,compare)
userdn="ldap:///anyone";)
dn: cn=Sort by cn, cn=Browsing red.sesta.com,cn=userRoot,
cn=ldbm database,cn=plugins,cn=config
changetype: add
objectClass: top
objectClass: vlvIndex
cn: Sort by cn
vlvSort: cn
```

次に、 *serverroot*/`slapd`-*instance* の下にある `vlvindex` コマンドを実行します。

```
# ./vlvindex -n userRoot -T "Sort by cn"
```

マニュアルの更新

このリリースで更新されたマニュアルはありません。

このリリースで修正されたバグ

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4 で修正されたバグを次に示します。

2107172 Microsoft Outlook 版 Connector は Mail と Calendar のプロキシ認証をサポートする必要があります。

2116848 「メッセージソースを表示」で何も表示されません。

4875157 電子メールのダウンロードを中断するキャンセルボタンが必要です。

4967870 「メッセージソースを表示」で何も表示されません。

5022085 LDAP クライアントの名前を「Microsoft LDAP provider: Sun Java System LDAP Directory」と変更すべきです。

5028420 オンラインヘルプの検索が動作しません。

5028541 OpenEntry が hr = 0x80040107 で失敗します。

5035442 アラームが出席者のサーバーに保存されません。

5038124 マルチバイトが Sun Java System LDAP ディレクトリの下で自動選択されません。

5038216 配備設定ウィザードで「作成」「変換」「インストールのみ」等のチェックボックスが正しく初期化および保存されません。

5038757 空のパスワードでオフラインモードをオンラインモードに変更できます。

5047818 インストール失敗のログが、必須の設定パラメータ LDAP Host がないことを示しています。

5091363 送信者に Bcc を送信するオプションが新しいプロファイルで機能しません。

5099266 Exchange を移行したあとに、カレンダの「予定の通知」ボックスのチェックが外れています。

5108660 受信トレイに大量のメッセージが保存されている Outlook プロファイルへのログインに長時間かかります。

5109537 低速の接続環境でサイズの大きいメッセージを送信できません。

6173626 Communications Express から Outlook、およびその逆方向でもアラームが同期しません。

6180425 Outlook で下書きに保存したメッセージのヘッダー情報が、別のクライアントで表示されません。

6183786 Outlook 2000 で送信済みのメッセージが送信トレイに残ることがあります。

6193123 「差出人」のアドレスを変更したり、「連絡先」のアドレスを「差出人」として選択したりすると、「にかわって」が正しく表示されません。

6194778 別のユーザーとアドレス帳を共有できるようにする必要があります。

6194896 ユーザーがグループ名を使用してメールフォルダを共有することを要望しています (ユーザーグループ)。

6195481 IMAP プロバイダが参照ヘッダーを追加しません。

6197649 受信トレイ以外のメールフォルダで破棄が機能しません。

6199186 起動時に進捗バーを表示する要望があります。

6199964 Message-flag: ヘッダーが考慮されていません。

6203173 チェックパスワードを無効にして Excel からメッセージを送信すると問題が発生します。

6204359 共有メールフォルダのメッセージが表示されません。

6204495 Mozilla で作成された暗号化されたメッセージを開くことができません。

6206259 Outlook 2002 の開封確認メッセージの通知メールの内容。

6206392 個々のメッセージで「開封確認メッセージ」が機能しません。

6207446 参照用に Powerpoint を使用して受信者に送信すると Outlook がハングします。

6209895 英語版以外の Outlook で重複した受信トレイフォルダ (英語の Inbox とローカライズされた「受信トレイ」)。

6210992 複数バイト文字の名前を持つ IMAP フォルダが英語環境で表示されません。

6211112 最初に日本語版 Windows XP と日本語版 Outlook にログインすると、英語版 Windows でプロファイルを作成できません。

6211879 IMAP+SSL 接続が切断すると Outlook がクラッシュすることがあります。

6212853 カレンダ予定の内容が大きいときに、本文が失われることがあります。

6212895 文字ではなく記号を含むパスワードを持つユーザーが、Microsoft Outlook 版 Connector を使用してアドレス帳のサーバーにログインできません。

6212963 README タイトルが正しく翻訳されていません。

6212973 連絡先のメモの内容が大きいと、その内容が失われます。

6213093 日本語版 Windows XP と日本語版 Outlook 2003 で ISO2022JP を使用して作成したメッセージの送信者が正しく表示されません。

6215104 「ユーザープロファイル」タブの翻訳された日本語が適切ではありません。

6215157 Outlook でのメッセージの作成時にグループメンバーを参照できません。

6216569 Microsoft Outlook 版 Connector を使用して会議要求にファイルを添付すると、添付ファイルが `Winmail.dat` として表示されます。

6216657 ドイツ語ロケールで Deployment Configuration Program のメッセージが翻訳されていません。

6217379 ローカルストアから IMAP フォルダへメッセージをコピーすると、受信日が現在の日付に変更されます。

6218593 Microsoft LDAP コネクタの LDAP フィルタをインストール時に設定できるようにすべきです (Outlook 2000)。

6219391 デバッグログで「今後このダイアログを表示しない」を追加してください。

6219555 内容がないカレンダのアポイントを作成すると Outlook がクラッシュします。

6221249 特定の状況で Microsoft Outlook 版 Connector ログファイルにパスワードが表示されます。

6221384 電子メールアドレスを持たない連絡先が Outlook アドレス帳のユーザーインタフェースに表示されます。

6221491 IMAP 連絡先フォルダから連絡先を削除しようとしても「破棄」が呼び出されません。

6221500 アクセス権が付与されていないときに IMAP 連絡先エントリの変更を PST に保存してください。

6222698 受信トレイから削除したメッセージが、削除済みアイテムフォルダを選択しても表示されません。

6224103 Outlook が要求した SMTP AUTH がサーバーで無効にされている場合、メールが無制限に送信されます。

6224510 Build 214 のインストーラでバージョンが 213 と表示されます。

6224517 メッセージを最初にダウンロードするときに Outlook 2000 がハングします。進捗バーが表示されません。

6224755 画像ファイル *picture*.`JPG` が *picture*.`JPG.jpg` のように表示されます。拡張子の大文字と小文字は区別されます。

6225078 content-type が application と指定されたメッセージは、メッセージ一覧に添付ファイル (クリップ) のアイコンが表示されません。

6225092 `winmail.dat` が添付されているメッセージを転送すると、転送されたメッセージには 2 つの winmail.`dat` が添付されています。

6225094 IMAP フォルダを空にして再同期するオプションが必要です。

6226160 Outlook でメールが送信済みフォルダに移動しないで送信トレイに残ります。

6226599 Outlook でフォルダを共有または購読するときには、正確なユーザー名を入力する必要があります。

6226607 フォルダ単位の同期を強制的に行うことができるようにする必要があります。

6227247 詳細の「検索」ダイアログの問題。

6227260 アドレスの検索時に、ユーザーが「検索」をクリックする必要を省くべきです。

6227673 リッチテキストで作成されたメッセージを Outlook で参照すると、すべての受信者が BCC 受信者を見ることができます。

6228303 BCC 受信者が送信済みアイテムと下書きフォルダで保存されません。

6228571 毎年の予定に対して正しい RRULE が生成されません。

6228797 Windows XP マシンにインストールできません。

6230650 「リソースの透明度フラグをオンに設定することは許可されていません。」というエラーを受信します。

6230655 エラーコード 81 の対処に支援が必要です。

6230806 メッセージの転送時にバックグラウンド HTML が添付ファイルとして送信されます。

6231629 新しく作成された Outlook プロファイルに関して、インストーラが AUTH SMTP チェックボックスを確認しません。

6232561 インストール時にインターナショナル検索を自動化する要望があります。

6232649 挿入された画像が、転送時に添付ファイルとなります。

6233695 Windows の夏時間調整を有効にすると、終日の予定が 1 時間遅れます。

6236697 Outlook を一般ユーザーのマシンにインストールしてから、最初に起動しようとするとハングします (Outlook XP および Outlook 2003)。

6236969 `.pst` ファイルを削除すると、デフォルトの連絡先フォルダの ACL が検知されなくなります。

6237032 content-location が使用されていると、multipart/related の画像が添付ファイルとして表示されます。

6238069 共有連絡先フォルダの共有連絡先名がフランス語または日本語で表示されません。

6238386 受信者にフォローアップが届きません。

6240786 購読ユーザーが連絡先を削除しても、ユーザーの個人用アドレス帳が更新されません。

6241494 配布リストのメンバーの詳細を変更して保存すると、そのメンバーが配布リストから削除されます。

6241511 購読ユーザーからメンバーを配布リストおよび連絡先一覧に追加するときにエラーが発生します。

6241650 配布リスト内の連絡先を修正すると、その連絡先が配布リストから削除されます。

6241654 コンテキストを同期化したあとに配布リスト内の連絡先名が入れ替わります。

6242792 multipart/mixed に multipart/report が含まれていると Outlook がクラッシュします。

6244760 フランス語版 Outlook XP で、メッセージ本文のテキストが複数の CRLF に置き換わって送信されることがあります。

6245292 親から子へフォルダを移動すると、フォルダが消滅します。

6245704 Powerpoint 2003 でメールを添付ファイルとして送信するとクラッシュします。

624582 バックグラウンドで同期化を実行すると、その後メッセージの件数がステータスバーに表示されなくなります。

6245822 バックグラウンドで同期化を実行すると、その後メッセージの件数がステータスバーに表示されなくなります。

6245909 Calendar Server からのエラーコード 79 が Microsoft Outlook 版 Connector で処理されません。

6246018 外側に message/rfc822 を持つメッセージが正しく表示されません。

6248403 ユーザーが別のユーザーの共有の仕事を参照できません。

6248486 Microsoft Outlook 版 Connector および Communications Express が、Powerpoint 2000 の「メールの宛先に送信」メニューから送信されたメッセージを読み取ることができません。

6248556 Outlook XP が起動時にプレビュー区画でハングします。

6250273 グループの作成とメンバーの追加を同時に行っても、エラーが発生しません。

6251078 「メールフィルタ」ページを呼びだすと Outlook がクラッシュします。

6251878 Outlook から作成または変更された出席依頼によって、Calendar Server の通知を起動すべきではありません。

6252329 オフラインのユーザーがメールフィルタページにアクセスしようとすると、Outlook がクラッシュします。

6252818 所有者が共有フォルダを削除した場合、購読者がその共有フォルダを参照すると、エラーが発生します。

6254229 読み取り専用のアクセス権を持つユーザーが、フォルダ内のメッセージを削除できます。

6254487 連絡先が 1 つだけだった場合以降、アドレス帳の同期に失敗します。

6254563 不正な記号を使用してメールフォルダを作成したときにはエラーを発生させる必要があります。

6255167 連絡先の共有時にディレクトリ内のユーザーを検索するオプションが必要です。

6255177 連絡先の購読時に LDAP 内のユーザーを検索するオプションが必要です。

6255241 Outlook のごみ箱を右クリックして削除を実行してもメッセージが削除されません。

6255802 複数の HTML の部分を含む multipart/alternative のメッセージで HTML が正しく表示されません。

6256553 未開封メッセージで自動プレビュー区画が機能しません。

6258245 Outlook で同じメッセージに対して複数のコピーが配信されます。

6263902 「権限」ページでユーザーが入力したメールおよび連絡先の ID のチェック。

6265019 「権限」ページでグループ ID を入力するユーザーに、グループのメールフォルダ ACL を設定することが許可されます。

6265024 グローバルアクセスリストから選択したユーザーに、メールフォルダグループの ACL を設定することが許可されます。

6265029 購読されているメールフォルダの「権限」に「myright」が表示されます。

6265053 MAPI の呼び出しの OPEN_IF_EXISTS フラグで、フォルダの作成が正しく処理されません。

6266400 購読ユーザーからメンバーが共有連絡先および配布リストに追加されると、メンバーがアドレス帳に追加されます。

6268493 Communications Express と連携して使用すると、追加されたアクセス制御エントリが有効になりません。

6268850 未開封メールフォルダ内のメッセージを参照できません。

6270259 フォルダ名の大文字と小文字が一致しないことにより、メールフォルダでエラーが発生します。

6272767 フォルダ上の ACL の取得でエラーが発生するとメールフィルタがループします。

6273022 同期が発生すると ActiveSync や MSN デスクトップなどの MAPI クライアントによって Outlook がクラッシュします。

6273699 インストーラのバージョン番号がずれています。

6275910 新しいメッセージの作成時には、「表示」→「メッセージのソース」のメニュー項目は無効にすべきです。

6276394 インストーラがグローバルアドレスリストを検索可能なアドレス帳のリストに設定すべきです。

6276400 メニューオプションの「次を含むようにこのフォルダを変更してください」が小さすぎます。

6276410 フランス語で「このフォルダを変更」タイプのプルダウン項目が正しく翻訳されていません。

6276443 パッケージの作成時に、「LDAP - 'ユーザー設定検索ベース' には値を含める必要があります」の警告は不要です。

6277792 出席予定者が、別の存在しない会議との重複を知らせる会議メールを受信します。

6278081 不在通知メッセージの見出しをカスタマイズできます。

6279093 ログイン直後に IMAP フォルダを選択すると進捗バーが表示されますが、進捗状況が表示されません。

6279482 GAL がタイムアウトパラメータを考慮しません。

6279945 カレンダと連絡先の「権限」ページでは「ユーザー選択グループ」を許可すべきではありません。

6281352 アドレス帳の同期後、アドレス帳に追加された (GAL からの) グループが削除されます。

6281399 Outlook 2003 でグローバルアドレスリストでユーザーを検索するとエラーメッセージが表示されます。

6281406 GAL が使えなくなります。

6281573 GAL の最初のページを開こうとすると、非常に多くの LDAP 検索が実行されます。

6281588 GAL のエントリの詳細を表示すると、LDAP 検索が重複します。

6283869 接続が切断されたときに GAL が適切に処理されません。

6283887 ユーザーインタフェースの問題。

6284476 GAL からグループを追加して配布リストを更新すると、同期化後にグループが削除されます。

6285121 「LDAP」タブの「返される検索結果の最大数」オプションが機能しません。

6286602 英語版以外のオペレーティングシステムで Deployment Configuration Program を開くことができません。

6286892 パッケージの作成をキャンセルしても、Deployment Configuration Program が作成を継続します。

6287943 購読者からの共有連絡先の修正がプロバイダのアドレス帳に反映されません。

6289293 エラー「CABContainer::GetProps MAPI_E_NO_SUPPORT」が Outlook XP で発生します。

6291418 `admin.exe` で、ローカライズされたユーザーインタフェースを使用または起動しません。

6292161 メールフィルタへのアクセスに時間がかかります。

6292223 バックグラウンドの同期処理がクラッシュします。

6292270 インストーラで古いバージョンがアップグレードされません。

6292283 GAL コードでランダムにクラッシュします。

6293214 ローカルの連絡先フォルダに GAL のエントリを保存しても、Outlook 2000 で正しく同期化されません。

6293388 GAL 詳細検索に空の文字列が与えられると Outlook がクラッシュします。

6293962 resolvename が Outlook から呼びだされ、一致するものが 1 つしか見つからないと、処理に失敗します。

6294291 インストーラが、制限付きのユーザーログインに対するインストール権限に従いません。

6294295 オフラインモードで GAL が機能すべきではありません。

6294360 GAL ブラウザウィンドウで非 ASCII 文字を入力すると、マッチング後にインデックスがそのエントリに移動します。

6294688 Communications Express から vCard を持つメッセージを受信すると、Outlook では 2 つの vCard が添付されて表示されます。

6294698 「宛先」フィールドに 1 文字入力すると、応答が遅くなり、エラーが発生します。

6294835 サイレントモードで作成されたプロファイルが機能しません。

6295195 「.pst の IMAP/POP プロファイル設定」の下のオプションが混乱しています。

6295258 Google デスクトップがバックグラウンドで情報を取り込んでいるときにフォルダを開くと、Outlook がハングします。

6295739 `Outlook.exe` がランダムにクラッシュします。

6298656 Outlook XP でプロファイルを変換するとプロファイルが破損します。

6301175 特定の状況でメッセージサイズによるソートが機能しません。

6301748 オフラインモードで起動すると、メッセージを未開封として設定できません。

6302626 連絡先の PST からドラッグ & ドロップすると、誤った電子メールアドレスになります。

6304343 Deployment Configuration Program に関連付けられたヘルプファイルがありません。

6305421 GAL LDAP グループを追加すると Outlook がクラッシュします。

6305480 バグレポートはシステム情報のスペルを正しく記述すべきです。

6306813 `Contacts.html` がすべての言語で見つかりません。

6306818 日本語版で VLV ソート属性のラベルが不正です。

6306841 日本語版の「アドレス帳サーバーにログイン」のダイアログに誤りがあります。

6306846 日本語版の「グローバルアドレスリスト」タブで小さいサイズのフォントが使われています。

6306918 Outlook のプラグインとしてサードパーティー製のソフトウェアを使用すると電子メールが 2 回表示されます。

6309549 「グローバルアクセスリスト」タブで日本語の文字を表示できません。

制限事項と既知の問題

ここでは、このリリースの Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector の制限事項と既知の問題について説明します。

制限事項

このリリースの Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector にはいくつかの制限事項があります。主な制限事項は次のとおりです。

- ユーザー、リソース、会議室など、Directory Server の個別の識別情報には、電子メールアドレスが必要です。詳細については、153 ページの「必須の LDAP mail 属性」を参照してください。
- カレンダイベント内の任意の添付ファイルは、サーバーに保存されません。
- Communications Express クライアント内で，同じカレンダイベントが 修正されるとアポイントや会議の説明フィールド内のリッチテキストが失われます。
- メッセージの取り消し機能は利用できません。
- 空き時間の確認中は、イベントの説明を参照できません。
- デフォルトのカレンダフォルダの下に作成されたサブフォルダはローカルで保管されます。プライマリのデフォルトカレンダフォルダとその他のカレンダフォルダはサーバー上に保管されます。
- 空き時間検索では、「仮の予定」と「外出中」のカラーコーディングが表示されません。
- Outlook メニューの「ツール」→「電子メール アカウント」オプションを使用して Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のプロパティーを変更することはできません。プロパティーを変更するには、次の手順に従います。
  1. Outlook を終了します。
  2. Outlook アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

     「プロパティ」ダイアログが表示されます。
  3. サービスの一覧から自分のユーザー名のフォルダを選択します。
  4. 「プロパティ」をクリックします。
- SSL を使用した空き時間検索はサポートされていません。詳細については、156 ページの「Outlook の空き時間検索と SSL」を参照してください。
- Exchange サーバーへの Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のインストールはサポートされていません。
- Outlook がインターネットモードの場合、インストーラは実行されません。Outlook 2000 では、「インターネットのみ」のモードで POP と IMAP のプロファイルをどちらも含めることができます。これらのプロファイルは、Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4 バージョンにアップグレードまたは変換されていません。
- 定期的なタスク (繰り返し作業) はサポートされていません。

- オフラインの制限事項は、次のとおりです。
  - ユーザーがオフラインセッション中にカレンダ、仕事、メール、または連絡先の各フォルダのアイテムを Outlook を使用して変更し、その後サーバー上の別のクライアントによって同じアイテムが変更された場合、そのユーザーが Outlook でオンラインモードに戻ったときにオフラインで変更された内容は失われています。サーバー上の別のクライアントによる変更は残ります。
  - オフラインモードで新しい予定を作成すると、出席依頼がユーザーの送信トレイに保存されます。一度送信トレイを閉じると、そのままオフラインモードでユーザーが出席依頼を開いた場合、その出席依頼は失われています。

既知の問題

ここでは、このリリース時点での Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector の既知の問題について説明します。バグ ID がある場合は、かっこ内に記述しています。

問題を次のように分類して説明します。

- 174 ページの「一般」
- 174 ページの「インストールとアップグレード」
- 175 ページの「Communications Express の相互運用性」
- 177 ページの「Microsoft Exchange の相互運用性」
- 178 ページの「カレンダ」
- 180 ページの「メール」
- 182 ページの「ローカライズに関する問題」

一般

サイレントインストールモードでユーザープロファイルを変換または作成する場合は、デフォルトプロファイルが必要です。**(4938665)**

ユーザーが初めて **Outlook** を開くときには、管理権限が必要です。**(5053786)**

以前に変換されたユーザープロファイルが存在する場合、「ユーザープロファイル」タブの「変換/アップグレードまたは作成する」のオプションが選択されていると、**Deployment Configuration Program** は新しいプロファイルを作成しません。管理者は「変換/アップグレードせずに新規ユーザープロファイルを作成する」オプションを使用して、プロファイルを作成する必要があります。**(5107345)**

添付ファイルとして転送された連絡先は、連絡先フォルダに保存されません **(Outlook 2000)**。**(6212865)**

Web ツールバーを使用すると、**Outlook** がクラッシュします。**(6214643)**

インストールとアップグレード

Outlook がアップグレードされていると、インストールできません。**(6253840** および **6254598)**

現在の Microsoft Outlook 版 Connector プロファイルを持つユーザーが Outlook XP をアップグレードすると、既存のプロファイルを開けなくなります。また、新しいプロファイルをインストールしようとすると失敗します。

回避策: Outlook のバージョンをアップグレードまたは変更する場合、Microsoft Outlook 版 Connector をアンインストールし、再インストールしてください。

アップグレードによって、以前のサーバーとポートの設定に戻ります。

Microsoft Outlook 版 Connector 6 2004Q2 から Microsoft Outlook 版 Connector 7 2005Q4 にアップグレードするときに、サーバー名とポート番号が変更されていた場合は、アップグレードでは古いサーバー名とポート番号しか検知されません。

Communications Express の相互運用性

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector と Sun Java System Communications Express の相互運用性に関する問題は次のとおりです。

「差出人」ヘッダーのアドレス変更。**(4949659)**

出席者が出席依頼に返信し、`winmail.dat` カレンダの出席依頼を添付すると、「差出人」ヘッダーの名前が変更されます。たとえば、Outlook を使用している Joe が予定への出席依頼を Bob に送信します。Bob は元の `winmail.dat` カレンダ添付ファイルを自動的に返信する電子メールクライアントを使用して Joe に返信します。Joe が返信を開くと、「差出人」ヘッダーは Joe に変更されています。

Outlook では電子メール **ID** が必須項目です。**(4969029)**

カレンダ ID は持っているが、電子メール ID は持っていないユーザーに Communications Express で予定への出席を依頼した場合、Outlook ではこのユーザーが出席者として表示されません。Outlook では電子メール ID が必要です。

カレンダの購読を解除しても、フォルダリストからカレンダが削除されません。**(5032872)**

Communications Express でカレンダの購読を登録または解除した場合、Outlook を再起動しないとその情報は Outlook で更新されません。また、検索用に設定された LDAP が複製である場合、複製が更新されるまで購読リストも更新されません。

Outlook がサーバーと同期するときにエラーが発生します。**(6175103)**

Outlook がサーバーと同期しているときに Outlook または Communications Express で仕事を作成し、その後その仕事を削除したあとにユーザーが Outlook で仕事フォルダを開こうとすると、「メモリ不足のためすべてのセルを表示できません」というエラーが発生します。回避策として、別のフォルダに切り替えてから再度仕事フォルダに戻るようにします。

アドレス帳のサーバーの連絡先を正しく同期させるには設定パラメータを設定する必要があります。**(6229276)**

Communications Express から削除された連絡先のエントリを Outlook で検知するには、`db_config.properties` ファイルの Communications Express 設定パラメータ `delete_perm` を false に設定する必要があります。エントリを次のように設定します。

```
delete_perm=false
```

デフォルトは true です。このエントリは `/var/opt/SUNWuwc/WEB-INF/config/ldapstore/db_config.properties` にあります。

同じフォルダ名でも大文字と小文字の違いがある場合、その両方を表示することはできません。このようなフォルダは **1** つだけ表示されます。**(6268483)**

Outlook でフォルダ (`TEST` など) を作成し、その後 Communications Express で大文字と小文字が違う同じ名前のフォルダ (`Test` など) を作成すると、最初に作成されたフォルダ (この場合 `TEST`) だけが Microsoft Outlook 版 Connector で表示されます。

ユーザーが既存のフォルダ `TEST` を Communications Express で削除し、大文字と小文字の違いがある同じ名前のフォルダ (`Test`) を保持 (または作成) した場合、その後ユーザーが初めて Outlook にログインしたときに、フォルダ `TEST` は削除されていますが、フォルダ `Test` はユーザーが Outlook を終了して再度ログインするまで表示されません。

Communications Express の相互運用性に関連した、バグ **ID** のないその他の問題を次に示します。

- Communications Express を使用して説明のテキストを編集すると、Outlook の RTF 形式は保持されません。
- Outlook と Communications Express でプライバシークラスに違いがあります。

  Outlook には「非公開」と「公開」の 2 つのプライバシークラスがありますが、Communications Express には「非公開」、「日時のみ」、および「公開」の 3 つのプライバシークラスがあります。Outlook では、非公開イベントは Communications Express の「日時のみ」のイベントとして作成されます。Outlook の公開イベントは、Communications Express の公開イベントに対応付けられます。同様に、Communications Express の「日時のみ」のイベントは Outlook の非公開イベントに対応付けられ、公開イベントは Outlook の公開イベントに対応付けられます。また、Communications Express の非公開イベントは Outlook の非公開イベントに対応付けられます。Communications Express で非公開イベントとして表示されるように Outlook で非公開イベントを作成するには、「予定の公開方法」フィールドから「空き時間」を選択します。ほかのユーザーが Communications Express の非公開イベントを共有のカレンダフォルダで参照することはできません。
- Outlook と Communications Express では、空き/予定ありの実装方法が異なります。

  Communications Express では、デフォルトの非公開イベントは空きです。イベントを空き/予定ありの検索対象とするには、手動で予定ありに設定してください。Outlook では、非公開イベントと公開イベントともデフォルトのイベントは予定ありです。

- Communications Express から Outlook 形式のファイルにイベントをエクスポートする場合、そのイベントを同じファイルから Outlook にインポートすることはできません。
- Outlook と Communications Express では、定期的な仕事 (繰り返しの作業) の実装方法に互換性がありません。

  Outlook では定期的な仕事は RFC 2445 に準拠しませんが、Communications Express は RFC 2445 に準拠するように特に設計されています。そのため、Outlook と Calendar Server で定期的な仕事 (繰り返しの作業) の情報を受け渡すときに問題が発生します。

  Outlook にローカルで保存されている情報が、Calendar Server に保存されている情報と常に一致するとは限りません。たとえば、Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector は仕事 (作業) の繰り返しを扱う情報を Calendar Server に転送しません。定期的かどうかに関わらず Outlook で作成された仕事は、Communications Express で単一の仕事として表示されます。Communications Express で作成された仕事が Calendar Server からの繰り返し情報を使用するのは、その仕事が初めて Outlook クライアントで記述されたときだけで、Outlook 上の既存の仕事を修正しているときには使用しません。

  これらの理由から、Outlook で表示される定期的な仕事と Communications Express で表示される繰り返しの作業には多くの異なる点があります。定期的な仕事 (繰り返しの作業) を扱うユーザーは Outlook か Communications Express のどちらか一方だけを選び、定期的な仕事 (繰り返しの作業) を扱う場合はこれらのクライアントを交互に使用しないようにすることをお勧めします。
- メッセージが Outlook からリッチテキスト形式で送信された場合、メッセージの本文は書式なしのプレーンテキストになり、`WINMAIL.DAT` が添付ファイルとなります。

  `WINMAIL.DAT` 添付ファイルには、リッチテキスト形式のメッセージとその他の添付ファイルが含まれます。このリッチテキスト形式は Microsoft 独自の形式であるため、`WINMAIL.DAT` 添付ファイルを読むことができるのは Outlook を使用した場合だけです。Communications Express およびその他すべてのクライアントでは、書式なしのテキストメッセージと `WINMAIL.DAT` 添付ファイルしか見ることができません。メッセージを送信する場合には、リッチテキスト形式ではなく HTML 形式で送信することをお勧めします。
- Outlook の連絡先グループに外部 SMTP メールの受信者または別の連絡先グループが含まれる場合、その連絡先グループは Communications Express で表示されません。Communications Express では、これらの受信者にメールを送信できません。
- Outlook は予定表のイベントと仕事 (予定表フォルダツリーの下にないすべての予定表フォルダ)、連絡先 (連絡先フォルダツリーの下にないすべての連絡先フォルダ)、メモ、および履歴を Messaging Server に保存します。データは Microsoft TNEF 形式で保存されるため、Communications Express はそれらをデコードして正しく表示することができません。

Microsoft Exchange の相互運用性

Sun Java System と Microsoft Exchange の相互運用性に関する問題は次のとおりです。

Free Busy Proxy for Exchange が完全な空き時間情報を返しません。**(6174201)**

長い件名の場合、タブが挿入されます。**(6194768)**

Exchange サーバーからのメッセージが Microsoft Outlook 版 Connector および Sun Java System Messaging Server を使用するサーバーに送信される場合、件名が長すぎると件名の行にタブが挿入されます。

ルールが正しく機能しません。**(6200399)**

Exchange プロファイルを使用した同じ手順 (LDAP GAL を追加し、LDAP エントリの 1 つをメールフィルタ/ルールに直接使用) が Exchange プロファイルで同じ結果を示す場合、LDAP GAL エントリを使用して作成された電子メールフィルタ (ルール) は Outlook 2000 で機能しません。つまり、Outlook 2000 ではフィルタは機能しません。Outlook XP (および Outlook 2003) では、フィルタは機能します。

回避策として、電子メールフィルタ/ルールで使用する連絡先をすべて個人用のアドレス帳に追加します。その後、LDAP エントリの代わりにローカルの連絡先をルール内で使用します。

人または配布リストからのルールが機能しません。**(6203018)**

連絡先フォルダ内の個人用アドレス帳からの配布リストが電子メールルール/フィルタに追加されると、配布リストを拡張するかどうかを確認するルールウィザードのダイアログが表示されます。ルール/フィルタには、電子メールアドレスの拡張リストが含まれる必要があります。LDAP GAL からの LDAP グループがルール/フィルタに追加された場合、ルールウィザードはグループを拡張することを確認せずに、単にグループの電子メールアドレスを使用します。LDAP グループを使用して作成されたルールは機能しません。これと同じ動作は、Exchange に接続されたプロファイル (また、サービスとして設定された LDAP ディレクトリを持つプロファイル) にも見られます。

回避策として、個々のグループメンバーを個人用のアドレス帳に追加し、それらを電子メールフィルタ内で使用します。

削除済みアイテムを回復できません。**(6255190)**

「削除済みアイテムフォルダを空にする」を選択したあとは、削除済みアイテムを回復することができません。

RTF 内に埋め込み **OLE** オブジェクトと **HTML** を持つメッセージの **Exchange (versions 5.5**、**2000**、および **2003)** から **Microsoft Outlook** 版 **Connector** への受信が機能しません。

カレンダ

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のカレンダに関連する問題は次のとおりです。

新しいカレンダプロファイルを作成すると、古いカレンダのアラームが表示されます。**(5104189)**

デフォルトの Calendar Server として設定されている Outlook で新しく作成した予定表 (カレンダ) に初めてログインすると、Outlook が将来のイベントだけでなく、古いイベントについてもアラームをポップアップで表示します。

購読しているカレンダがカレンダビューに表示されません。**(6190293)**

カレンダを初めて購読すると、カレンダ名は「カレンダ」となり、購読するカレンダの名前にはなりません。購読するカレンダの名前を表示するには、Outlook をログオフしてから再度 Outlook にログインします。すると、購読するカレンダの名前が表示されます。

共有の予定表のリンクを開いても購読できません **(Outlook 2003)**。**(6292026)**

Outlook 2003 では、左側のペインの最下部にある予定表アイコンをクリックすると予定表ビューが表示されます。その予定表ビューで「共有の予定表を開く」をクリックすると、ユーザーが共有の予定表のユーザー名を入力できるダイアログが表示されます。既知の共有の予定表のユーザー名が入力されると、「フォルダを表示できません。現在のプロファイルは、ユーザーに対するこの操作をサポートするように設定されていません。」というエラーが表示されます。これは連絡先と仕事でも発生します。

回避策として、共有の予定表を参照するには、フォルダ一覧で共有の予定表を選択します。

バグ **ID** が採番されていない **Microsoft Outlook** 版 **Connector** のカレンダに関連するその他の問題を次に示します。

- 開催者の共有の受信トレイからの出席依頼を代理 (デリゲート) によって承諾または辞退した場合、予定表のイベントが開催者の予定表ではなく代理の予定表に追加されます。
- 予定表 (カレンダ) の添付ファイルを送信すると、Microsoft TNEF メッセージが送信されます。iTIP および iMIP の予定表 (カレンダ) の添付ファイルはサポートされていません。
- デスクトップのタイムゾーンが Calendar Server のタイムゾーンと異なる場合、終日のイベントが終日ではないイベント (午前 12 時から午後 12 時までにスケジュールされた 1 つのイベント) になることがあります。
- Outlook から出席依頼を作成するときに Calendar Server への保存時にエラーが発生しても、その出席依頼は Outlook によって送信されます。
- Outlook で終了日を持たない定期的なイベントが作成された場合、そのイベントは Calendar Server 内では回数が有限のイベントとして保存されます。

  また、空き時間情報も Calendar Server に保存されている回数だけしか保持されません。たとえば、毎日午前 10 時に繰り返されるイベントを Outlook で作成すると、Calendar Server では 60 回繰り返されるイベントとして保持されます。このイベントは、61 日目にも Outlook に表示されますが、空き時間の確認を行うと午前 10 時は「空き」と表示されます。
- 予定表 (カレンダ) のアクセス権を変更した場合、Outlook を再起動して新しいアクセス権の設定を共有の予定表の予定表フォルダに反映させる必要があります。

- 共有の予定表に表示されている仕事は、購読しているユーザーの仕事ではなく、ログインしているユーザーの仕事です。予定表ビューにはログインしているユーザーの仕事が常に表示されます。
- Outlook で定期的な出席依頼を作成し、そのイベントの 1 つのインスタンスを削除した場合、削除の前に Calendar Server が最初の定期的な出席依頼を処理していないと、受信者 (出席者) には削除された出席依頼が表示されません。

メール

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のメールに関連する問題は次のとおりです。

転送されたメッセージの添付ファイルの保存。**(4946488)**

転送されたメッセージの一部として添付ファイルを受信したときに、添付ファイルをダブルクリックしてもその添付ファイルを保存できません。添付ファイルを保存するには、添付ファイルを右クリックし、「名前を付けて保存」を選択してください。

ユーザーのメールボックスで **16,000** を越えるメッセージが受信トレイに蓄積されている場合、**Outlook** はすべてのメッセージをダウンロードするわけではありません。**(5099436)**

「大きいテーブル」をサポートするフラグを手動で設定する必要があります。これを行うには次の手順に従います。

1. 「フォルダ - ユーザー名」を右クリックし、「フォルダ - ユーザー名」の「プロパティ」を選択して、「フォルダ プロパティ」ダイアログを開きます。
2. 「フォルダ プロパティ」ダイアログで「詳細」をクリックします。
3. 「Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector」ダイアログで「詳細」タブをクリックします。
4. 「個人用フォルダ」ボタンをクリックし、「個人用フォルダ」ダイアログの「大きいテーブルにアップグレードする」の横のボックスにチェックを入れます。
5. 開いているすべてのダイアログで「OK」をクリックし、Outlook を再起動します。

検索結果に表示されたメッセージを別のフォルダに移動できません。**(6227085)**

Outlook XP では、ユーザーがメッセージを検索し、見つかったメッセージを別のフォルダに移動しようとするとエラーが発生します。

Outlook 2003 の迷惑メール処理が機能しません。**(6312677)**

Outlook 2003 で利用できる「迷惑メール」機能 (「ツール」→「オプション」を選択) は Microsoft Outlook 版 Connector では機能しません。このツールを使用してフィルタ処理されるように設定された送信者はフィルタ処理されません。回避策として、「ツール」→「メールフィルタ」オプションを使用します。

アドレス帳の問題

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のアドレス帳に関連する問題は次のとおりです。

Communications Express から連絡先を削除しても、**Outlook** では削除されていません。**(6225049)**

Communications Express から削除された連絡先のエントリを Outlook で検知するには、`db_config.properties` ファイルの Communications Express 設定パラメータ `delete_perm` を false に設定する必要があります。エントリを次のように設定します。

```
delete_perm=false
```

デフォルトは true です。このエントリは `/var/opt/SUNWuwc/WEB-INF/config/ldapstore/db_config.properties` にあります。

購読の解除後に共有の連絡先がアドレス帳から削除されていません。**(6267180)**

共有の連絡先の購読を解除しても、その連絡先がアドレス帳の「名前の一覧を表示するアドレス帳」の一覧から削除されません。次の 2 つの回避策があります。

- 購読される連絡先がアドレス帳の「名前の一覧を表示するアドレス帳」の一覧に追加されていた場合は、連絡先から購読の解除を行う前に「Outlook アドレス帳」プロパティページから「電子メールのアドレス帳にこのフォルダを表示する」オプションのチェックを外してください。
- アドレス帳のプロパティから連絡先を直接削除します。

  Outlook XP では次の手順に従います。

  1. 「ツール」→「電子メール アカウント」を選択します。
  2. 次に「既存のディレクトリやアドレス帳の表示と変更」を選択し、「Microsoft Outlook アドレス帳」を変更対象に選択します。
  3. アドレス帳から削除するアイテムを選択します。

  Outlook 2000 では次の手順に従います。

  1. Outlook のメニューから「ツール」→「サービス」を選択します。

     「サービス」ウィンドウが表示されます。
  2. 「サービス」タブを選択します。
  3. プロファイル内に設定したサービスの一覧から「Outlook アドレス帳」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

     「Microsoft Outlook アドレス帳プロパティ」ウィンドウが表示されます。
  4. アドレス帳から削除するアイテムを選択し、「閉じる」をクリックします。

  変更を反映するには、ユーザーはログアウトし、再度ログインする必要があります。

デフォルトの **Web** ブラウザで設定されているプロキシが停止している場合、アドレス帳サーバーへのログインに失敗します。**(6315910)**

ローカライズに関する問題

Sun Java System Microsoft Outlook 版 Connector のローカライズ版に影響する問題は次のとおりです。

Windows マシンでは、ローカライズ版のオンラインヘルプに次の領域の問題が **1** つ以上起こることがあります。**(5035363**、**5031913**、**5028387**、**5028413**、**5034886)**

- インデックス一覧がローカライズ言語でソートされていません。
- 英語以外の単語を使用したオンラインヘルプのコンテキスト検索は困難です。

Deployment Configuration Program のインストーラはローカライズされていません。**Microsoft Outlook** 版 **Connector** のインストールパネルの一部も英語で表示されます。**(5028359)**

韓国語版の **Microsoft Outlook** 版 **Connector** インストールパネルで韓国語のフルネームを入力すると、認識されない文字が表示されます。**(5028453)**

ログファイルに認識されない文字が含まれることがあります。**(5033783)**

「連絡先」が正しく表示されません。**(6212970)**

日本語版と中国語版の Outlook 2003 を Windows XP で使用した場合、「選択」ウィンドウで「名前の一覧を表示するアドレス帳」コンボボックスのアイテム「連絡先」の文字が正しく表示されません。

設定プログラムから印刷すると日本語の文字が正しく印字されません。**(6309420)**

Deployment Configuration Program からの印刷に日本語の文字が含まれる場合、それらは正しく印字されません。

設定ウィザードのボタンのうち、説明が表示されないものがあります。**(6309494)**

繁体字中国語版で、設定ウィザードパネルの説明部分でボタンのラベルに表示されない単語があります (「Next」、「Install」、「Back」、および「Cancel」)。

設定ウィザードのダイアログが破損しています。**(6309523)**

Windows 2000 日本語版および中国語版の Outlook 2000 で、「Sun Communication Server」の「セットアップ ウィザード」ダイアログが破損しています。

プロファイル名が日本語の場合、プロファイルを検索できません。**(6310160)**

プロファイルが日本語の場合、変換に失敗します (Windows 2003 上の Outlook 2003)。

プロファイルを手動で作成すると、**Outlook** が起動しません。**(6310190)**

プロファイルを手動で作成した場合、そのプロファイルを使用して Outlook を起動することはできません。「Sun Java System Connector for Microsoft Outlook エラー」が表示されます。

日本語の **IMAP** プロファイル名を変換できません。**(6313321)**

IMAP プロファイルがすでに存在し、そのプロファイルを Outlook で使用したことがない場合は、変換に失敗します。

再配布可能なファイル

Microsoft Outlook 版 Connector では、再配布可能なファイルは使用されていません。

索引

C

Calendar Server
- 既知の問題，33-38
- 再配布可能なファイル，38-42
- 修正されたバグ，29-33
- 紹介，17-18
- パッチ情報，20
- 要件，19

Communications Express
- インストール，137
- 既知の問題，138-145
- 修正されたバグ，136-137
- 新機能，136
- について，135-136
- 要件，136

Communications Express リリースノート，135
cs5migrate 移行ユーティリティー，153
csattribute ユーティリティー，153

D

Delegated Administrator
- 既知の問題，122-134
- 修正されたバグ，121-122
- について，116

Delegated Administrator リリースノート，115

I

Instant Messaging
- インストール，80, 83
- 既知の問題，93-98

Instant Messaging (続き)
- 互換性に関する問題，84-85
- 修正された問題，92-93
- 紹介，80
- 新機能，81
- マニュアルの更新，85-92
- 要件，81-83

Instant Messaging リリースノート，79

L

ldapmodify ユーティリティー，153

M

Messaging Server について，44
Microsoft Outlook 版 Connector
- Calendar Server の検討事項，153-157
- インストール，151-152
- 既知の問題，174-183
- システムフォルダマッピング，157-159
- 修正されたバグ，164-172
- 制限事項，173-174
- について，148-150
- 要件，150-151

Microsoft Outlook 版 Connector リリースノート，147

い

インストール
- Calendar Server，20-27

インストール (続き)
Communications Express, 137
Instant Messaging, 80, 83
Microsoft Outlook 版 Connector, 151-152

き
既知の問題
Calendar Server, 33-38
Communications Express, 138-145
Delegated Administrator, 122-134
Instant Messaging, 93-98
Microsoft Outlook 版 Connector, 174-183

こ
互換性に関する問題, Instant Messaging, 84-85

さ
再配布可能なファイル, Calendar Server, 38-42

し
修正されたバグ
Calendar Server, 29-33
Communications Express, 136-137
Delegated Administrator, 121-122
Microsoft Outlook 版 Connector, 164-172
修正された問題, Instant Messaging, 92-93
新機能
Communications Express, 136
instant messaging, 81

は
パッチ情報, Calendar Server, 20

ふ
文書, 概要, 12

ま
マニュアルの更新, Instant Messaging, 85-92

よ
要件
Calendar Server, 19
Communications Express, 136
Instant Messaging, 81-83
Microsoft Outlook 版 Connector, 150-151